

四万十川流域住民意識調査委託業務 報告書

令和5年3月

高知県林業振興・環境部 自然共生課

目次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査対象者の属性	2
第3章 結果の総括	4
第4章 結果の概要	7
1. 四万十川の保全に対する取組	7
2. 四万十川との関わり	16
3. 環境を守る行動や意欲	23
4. 通信手段について	29
5. 居住意思	31
6. 生活の満足度	32
第5章 集計結果（★は新設）	36
1. 四万十川の保全に対する取組	36
(1) 「公益財団法人四万十川財団」の知名度等	36
(2) 「公益財団法人四万十川財団」に求める情報★	38
(3) 「四万十川条例」の知名度等	40
(4) 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組★	42
(5) 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組★	45
2. 四万十川との関わり	48
(1) 川に出かけたこと	48
(2) 川に出かけなかった理由	50
(3) 川に出かけた頻度	52
(4) 川で何をしたか	54
(5) 四万十川の環境や景観の変化★	56
3. 環境を守る行動や意欲	62
(1) 環境を守る行動	62
(2) 家庭での水切り袋などの設置	67
(3) 家庭での生ごみのたい肥（ひ）化への取組	69
(4) 環境に関する活動への参加の有無	71
(5) 環境に関する活動に参加しない理由	73
(6) 環境保全のための寄付へ協力したいと思うか	75
(7) 環境保全のための寄付協力可能な上限額	77
(8) 再生可能エネルギー設備の設置★	79
4. 通信手段について	80
(1) 携帯電話などの所有の有無	80
(2) 携帯電話などでのネット利用状況	82
(3) 自宅でのネット利用の可否	84
5. 居住意思	86
(1) 現在の居住地域に住み続けたいと思うか	86
6. 生活の満足度	88
(1) 現在の居住地域への満足度	88
(2) 生活の満足度	90

第1章 調査の概要

1. 調査目的

「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」の目的の達成状況を把握し、進行管理を行うために必要な住民意識調査（条例第37条）を行うため、流域住民への調査を実施するものとする。

2. 調査項目

- (1) 四万十川の保全に対する取組
- (2) 四万十川との関わり
- (3) 環境を守る行動や意欲
- (4) 通信手段について
- (5) 居住意思
- (6) 生活の満足度

3. 実施概要

- (1) 母集団：四万十川流域5市町村18歳以上の者
- (2) 標本数：1,000人
- (3) 抽出法：層化抽出法（市町村合併後の新市町村単位でなく旧市町村単位での抽出を行う）
- (4) 抽出法：檮原町、津野町（旧東津野村）、四万十町（旧窪川町、旧大正町、旧十和村）、四万十市（旧中村市、旧西土佐村）、中土佐町（旧大野見村）

※分析にあたり上記の8地区を、流域に対応した以下の3居住地域に分類する。

上流域	檮原町、旧東津野村、旧大野見村
中流域	旧十和村、旧大正町、旧窪川町
下流域	旧中村市、旧西土佐村

- (5) 実施期間：令和4年10月5日～令和4年10月28日
（10代から40代を対象に調査票を再発送し、令和5年1月25日まで実施期間を延長）
- (6) 調査方法：郵送配布、郵送回収又はWEB回答
- (7) 回収数：484人（回収率48.4%）

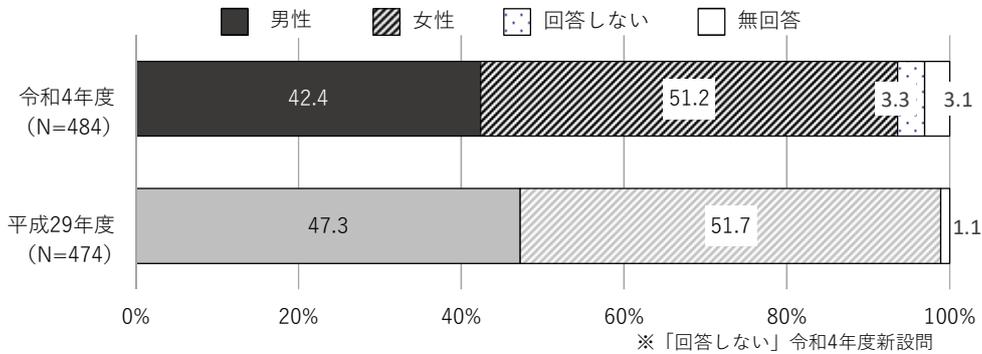
4. 報告書の見方

- (1) 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の表においても反映しています。
- (2) 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

第2章 調査対象者の属性

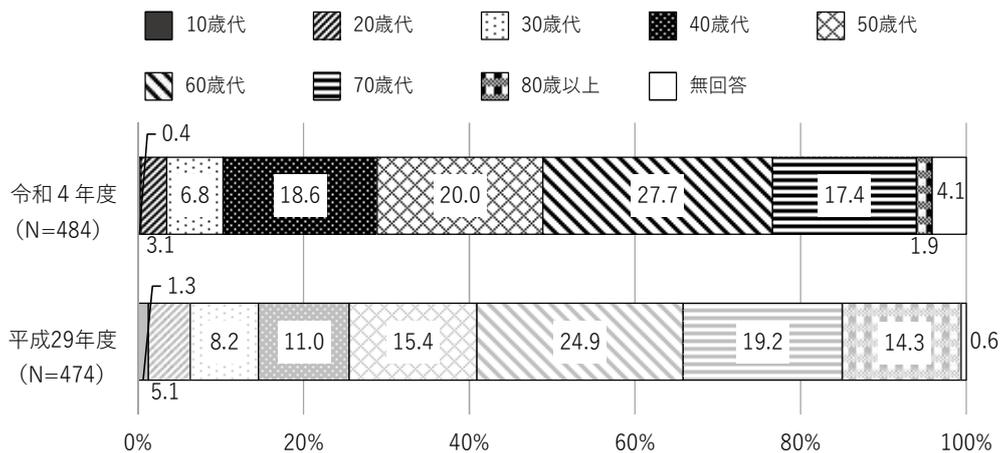
1. 性別

あなたの性別をお答えください。(1つだけ○印)



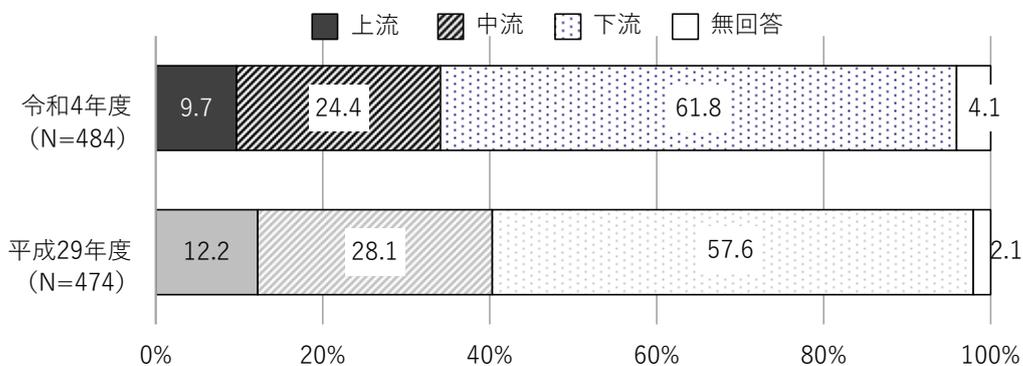
2. 年齢

あなたのお年はおいくつですか。(1つだけ○印)



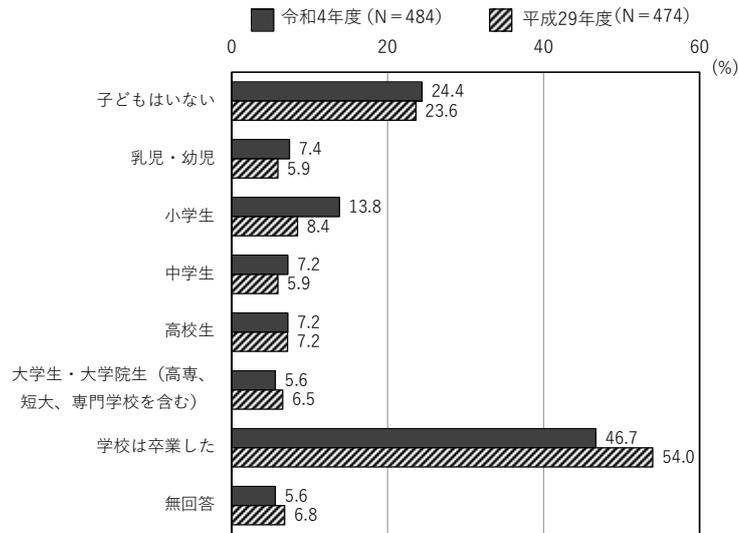
3. 居住地

現在のあなたのお住まいは、次のどちらですか。四万十市、四万十町、中土佐町、津野町にお住まいの方は、合併前の区域でお答えください。(1つだけ○印)



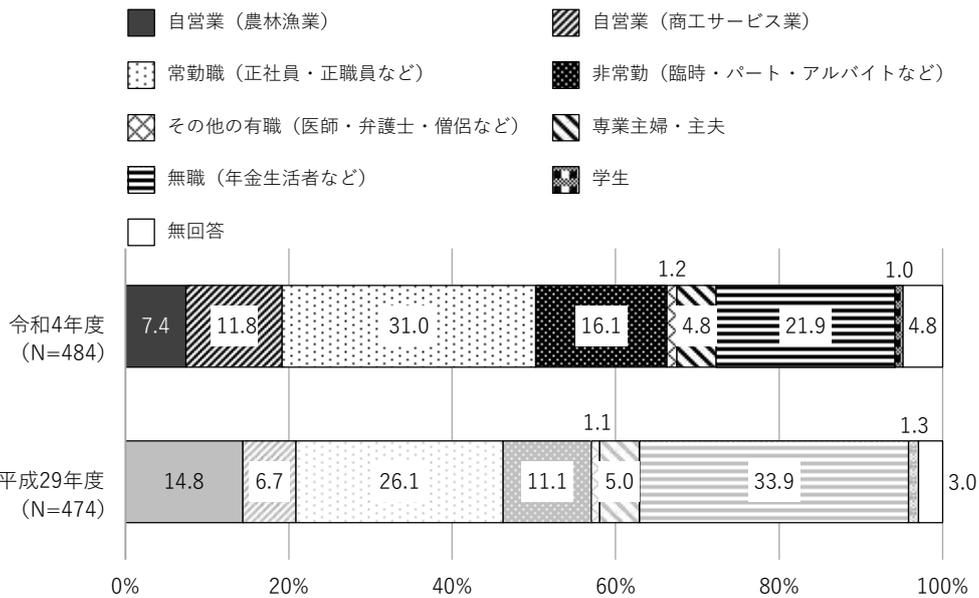
4. 子どもについて

あなたのお子様の成長段階を教えてください。(あてはまるもの全てに○印)



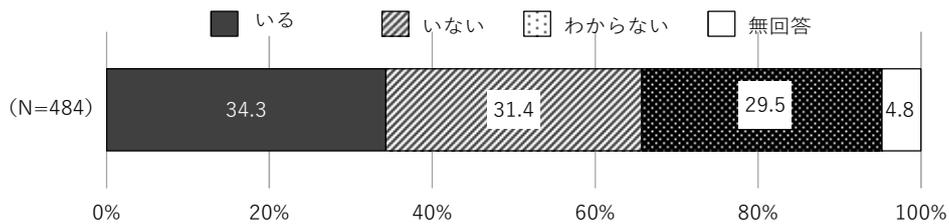
5. 職業

現在のあなたのご職業は何ですか。(1つだけ○印)



6. 後継者

今後、あなたの家を維持していく後継者がいますか。(1つだけ○印)



第3章 結果の総括

第5回目となる今回の調査では、公益財団法人四万十川財団に情報発信してほしい内容や四万十川流域の保全と振興に効果があった取組や今後必要な取組、更には四万十川の環境や景観の変化についてなど新たに設問を追加し、分析を行った。また、自由記述の回答について、流域住民からの生の声を収集することが出来た（第6章資料の3.自由回答一覧を参照）。

今回の調査の結果、暮らしの中で身近に四万十川と関わり、居住地域に愛着を持って生活している流域住民の姿が見受けられた。回答者の半数以上が川に出かけ、8割を超える回答者が地域に住み続けたいと思っている。

一方、環境を守る行動や意欲は前回調査から低下するとともに、20歳代、30歳代の若年層を中心に生活の満足度も前回調査から減少し、収入や雇用といった仕事面や、通勤・通学・通院といった公共交通の整備状況等といった交通・防災について満足度が低い傾向が見受けられた。地域の医療機関や病気に関する相談や診療面での満足度も比較的高いものの、満足していると答えた人の割合は前回調査より減少している。

また、回答者の半数近くは60歳以上、特に上流域では6割を超えており、30歳以下の割合は1割程度にとどまるなど、高齢化の傾向は依然として続いている。

今後の超高齢化社会に向けて、公共交通機関の利便性や地域経済や医療、介護の担い手となる若い世代への仕事や就職面、収入等の状況については依然課題も多く、状況改善の必要性はますます高まっていると言える。

こうした問題の多くは四万十川流域に留まらず、高知県全体が抱えている問題でもあり、県や流域市町村のほか、民間企業や団体、学術研究機関や地域の有識者等が協力し、新たな技術や研究成果を活用しつつ、改善に向けて取り組んでいくべき課題といえる。

<1. 四万十川の保全に対する取組>

公益財団法人四万十川財団に対する流域住民の知名度は低く、前回調査から知名度は低下しており、およそ7割の人が知らないと答えた。居住地域別で見ると財団の事務所がある中流域がその他の流域に比べて若干知名度が高かった。また、公益財団法人四万十川財団に情報発信してほしい内容として、5割以上の人が清掃や美化活動のボランティア情報を求める声が多かった。

四万十川条例に対する流域住民の知名度も前回調査から低下し、68.5%の人が知らないと回答し、特に、前回調査と比較して下流域での知名度の低下が見受けられた。

四万十川条例の取組が四万十川流域の保全と振興に効果があったかについては、それぞれの取組に対しおよそ5～6割の人がそう思うと答えた。特に、効果が高かった取組として「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用についてはおよそ7割の人が効果があったと答えた。また、今後必要な取組の強化・内容として、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」や「環境学習の推進及び情報発信」について9割の人が必要と答えており、四万十川条例に基づく取組を継続していくとともに、景観や自然環境などの保全活動を強化し、活動に関する情報を広く発信していくことが重要であると考えられる。

<2. 四万十川との関わり>

この一年間に四万十川に出かけた人の割合は前回調査から僅かながら増加し、およそ4割の人が月1～2回以上のペースで川に出かけている。川で何をしたかについては、散歩、ジョギング、散歩と答えた人が半数以上で、30歳代～40歳代の子育て世代を中心に水泳、水遊びを楽しむ人も多いことがうかがえる。また、釣りや魚とりに出かける人は毎日、週1～2回ぐらいの頻度で川に出かけている傾向が見受けられた。

四万十川の環境や景観等の変化については、季節ごとの優れた景観のみ良くなったと答えた人が多く、四万十川の水量や清流度、天然の水生動植物の生息や生育は4割以上の人が悪くなったと答えており、河川環境の悪化などが課題にあげられる。

<3. 環境を守る行動や意欲>

環境を守る行動や取組については、全13項目において、前回調査よりも実施率が2.7ポイント低くなっており、環境に対する意識の低下が見受けられた。

環境を守るための寄付金に協力しても良いと思う人の割合も前回調査に比べて減少しているものの、一人あたりの寄付しても良いと思う金額は、前回調査よりも高額を答えた人が増加した。

講演会や美化・清掃活動などの環境を守る活動に参加したことのある人は4割以下と前回調査と比較して5.5ポイント減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で活動自体が少なかったことも要因のひとつと考えられるが、流域住民の環境意識の向上や環境活動への参加促進に向けた取組の強化が必要である。

<4. 通信手段について>

携帯電話やスマートフォンなどの所有率は、前回調査から大幅に増加し、年代・流域などを問わずほぼ全ての人が所有している。携帯電話やスマートフォンなどのインターネット利用率も50歳代以下では8割以上、自宅でのパソコンなどのインターネット利用率も50歳代以下では7割以上であった。

自宅でのインターネットの普及率は17.4ポイント増加し61.4%となったものの、総務省が行った「令和3年通信利用動向調査」でのインターネット利用率（個人）は82.9%と、全国と比べて普及率が低くなった。

<5. 居住意思>

今住んでいる地域にずっと住み続けたい人の割合は前回調査から0.5ポイント増とほぼ同じ割合であった。住み続けたいと答えた割合は30歳代以上では8割を超えており、年代が高くなるにつれて割合も高くなった。特に後継者がいる家庭ではより割合が高くなった。

<6. 生活の満足度>

生活の満足度については、7割近くの人が現在の居住環境に満足しており、前回調査よりも満足度が増加した項目に、自然環境や生活の快適さなど地域のくらしに関する項目と、子育て環境や保育園、幼稚園の充実、公園や運動施設などの利便性があげられる。

一方で、市町村の行政に自分の意見が十分に採り入れられること、仕事や収入等の面、バスや電車等の公共交通機関の利便性については、満足度が低い状態が続いている。

<今後の課題と次回調査にむけての提案>

住民の高齢化に伴い、回答者の半数近くが50歳代～60歳代（回答率49.8%、調査対象地域の人口割合：31.7%）で、30歳代以下の回答率は10.7%（調査対象地域の人口割合：17.6%）と低くなっており、5年後の調査では、若年層の回収率を上げるための工夫が必要と思われる（※調査対象地域の人口の出典：令和2年国勢調査人口等基本集計結果）。例として、過去の調査の年代別の回答率からあらかじめ年代別の調査数を調整したり、母集団（対象地域の年代別人口等）の構成比に調整（拡大集計：ウエイトバック）して集計結果を算出する等の対応を検討すべきであろう。

また、前回調査では、環境を守る行動や意欲について、環境省の「環境にやさしいライフスタイル実態調査」との比較を行い、流域住民と全国調査との比較を行っていたが、環境省の同調査が令和元年度以降実施されておらず、全国調査との比較が出来なかった。

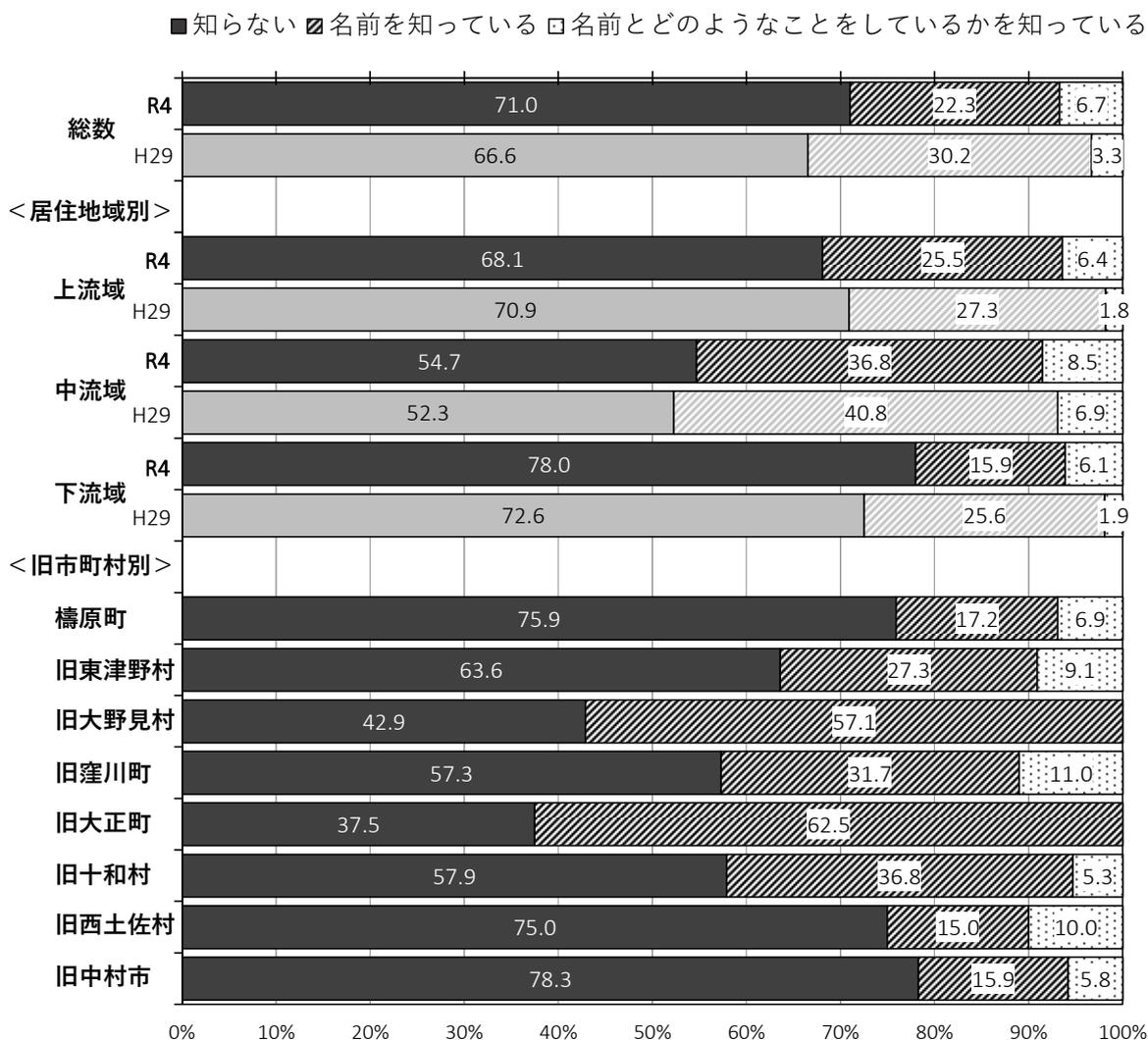
調査開始時とライフスタイルが変化しており、近年の環境を守る行動の変化を踏まえ、前回調査との比較に留意しつつ、全国調査との比較が容易な質問項目への変更を検討すべきであろう。

第4章 結果の概要

1. 四万十川の保全に対する取組

問1 あなたは、「公益財団法人四万十川財団」という組織をご存知ですか。(1つだけ○印)

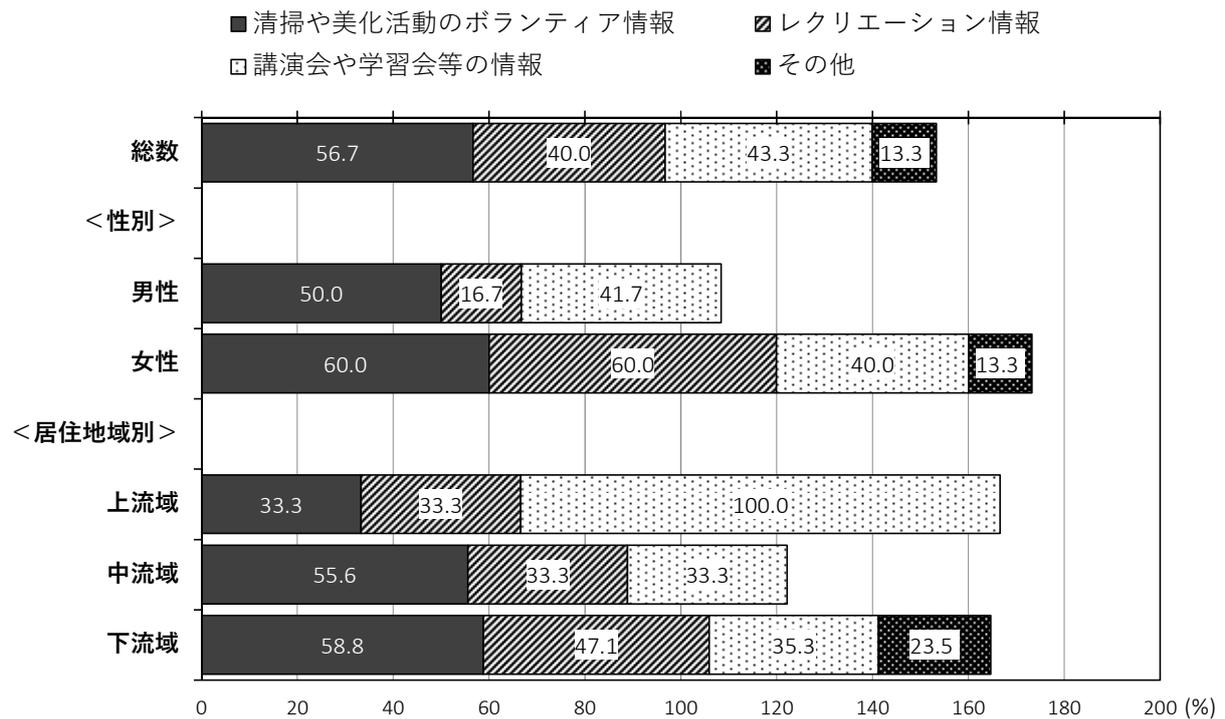
- ・「知らない」と答えた人の割合は71.0%を占め、前回調査と比較して4.4ポイント増加しており、知名度の低下がうかがえたものの、「名前とどのようなことをしているか知っている」と答えた人の割合は3.4ポイント増加した。
- ・財団の事務所がある中流域では45.3%の『知名度』(「名前を知っている」+「名前とどのようなことをしているかを知っている」)があるものの、上流域では31.9%、下流域では22.0%の『知名度』にとどまることから、『知名度』が低い地域への周知が課題である。
- ・旧大正町は『知名度』が62.5%と最も高く、一方で、旧中村市は21.7%、橋原町は24.1%、旧西土佐村は25.0%と『知名度』が低くなった。



問1で「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた方にお聞きします。

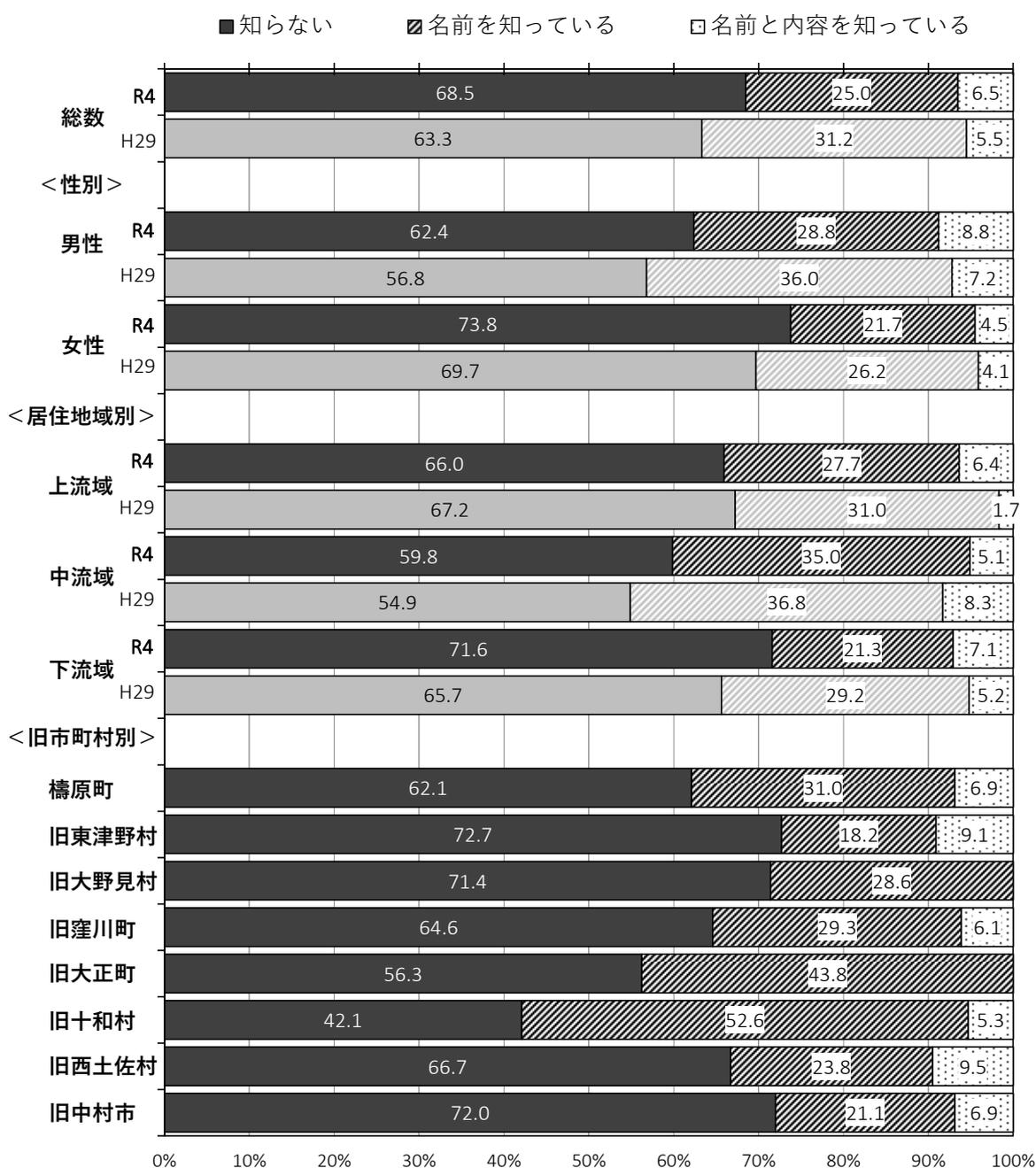
問2 あなたが四万十川について、「公益財団法人四万十川財団」に情報発信してほしい内容を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合は56.7%と最も高く、次いで「講演会や学習会等の情報」が43.3%、「レクリエーション情報」が40.0%、「その他」が13.3%であった。
- ・上流域では「講演会や学習会等の情報」が100.0%、中流域と下流域では「清掃や美化活動のボランティア情報」が5割以上と最も高く、地域によって求めている情報に特徴があることがわかった。



問3 あなたは、「四万十川条例（正式名称：高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例）」をご存知ですか。（1つだけ○印）

- ・「知らない」と答えた人の割合は68.5%を占め、前回調査と比較して5.2ポイント増加した。
- ・「知らない」と答えた人の割合は、男性が62.4%で、女性が73.8%と男性より女性の方が1割以上知名度が低くなった。
- ・中流域では40.1%の『知名度』（「名前を知っている」+「名前と内容を知っている」）があるものの、上流域では34.1%、下流域では28.4%の『知名度』にとどまることから、『知名度』が低い地域への周知が課題である。
- ・旧十和村では57.9%と『知名度』が最も高く、一方で、旧東津野村では27.3%、旧中村市では28.0%、旧大野見村では28.6%と『知名度』が低くなった。

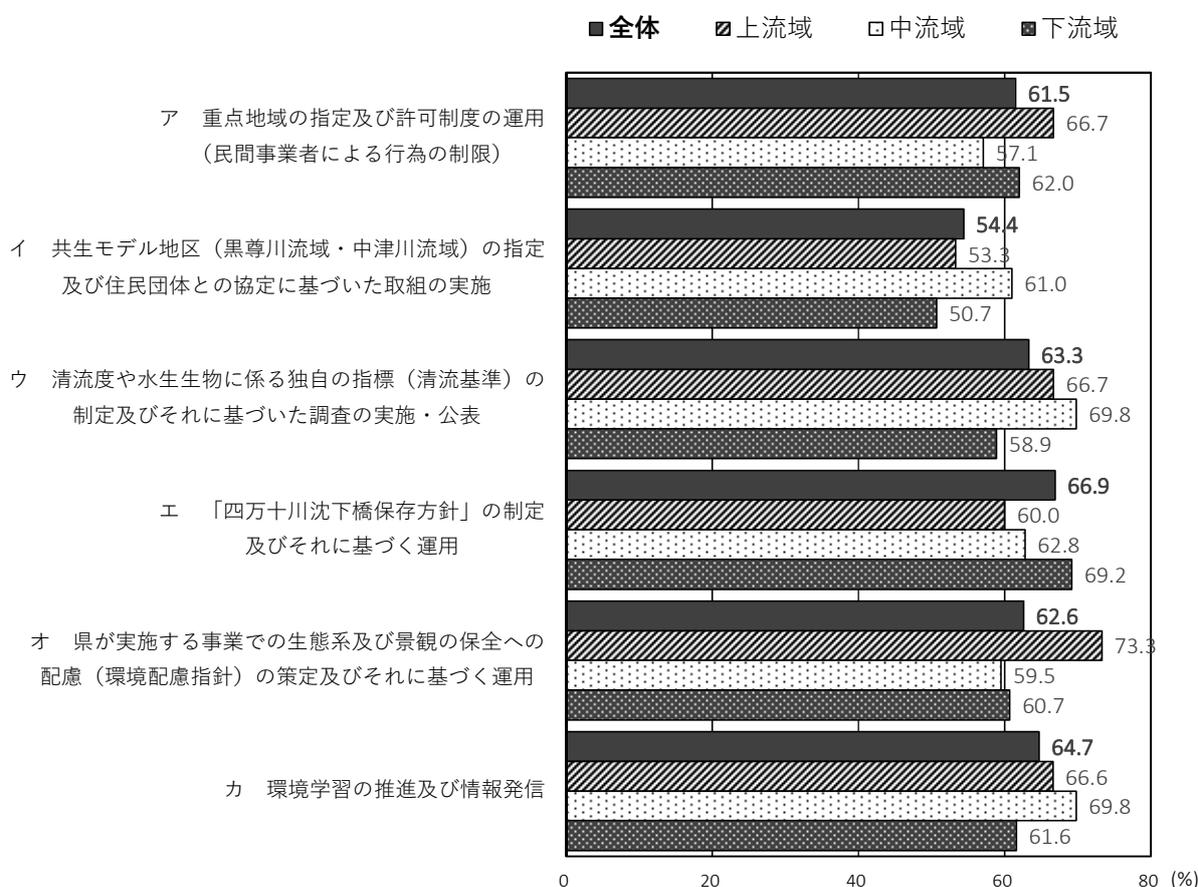


問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問4 あなたは、四万十川条例の取組が四万十川流域の保全と振興に効果があったと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

- ・全6項目中、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と答えた割合が最も高かったのは、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」が66.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が64.7%、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」が63.3%となっており、全ての項目で『そう思う』は5割以上であった。
- ・上流域では、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用」への『そう思う』の割合が高い傾向が見受けられた。
- ・中流域では、「重点地域の指定及び許可制度の運用」について『そう思う』と答えた割合が低い一方、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」への『そう思う』の割合が高い傾向が見受けられた。
- ・下流域では、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」への『そう思う』の割合が高く、地域によって四万十川条例の取組に対する効果への認識に違いがあった。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を
合わせた【そう思う】と答えた割合



- 各設問での旧市町別の特色として、「重点地域の指定及び許可制度の運用」では、旧窪川町、旧東津野村で効果について「どちらともいえない」の割合が高くなった。「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」では、旧十和村、檮原町での『そう思う』の割合が高くなった。

「重点地域の指定及び許可制度の運用」

単位=(%) 網掛け= 高い割合		そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
上 流 域	檮原町	63.7	36.4	0.0
	旧東津野町	50.0	50.0	0.0
	旧大野見村	100.0	0.0	0.0
中 流 域	旧窪川町	52.0	44.0	4.0
	旧大正町	57.2	42.9	0.0
	旧十和村	70.0	20.0	10.0
下 流 域	旧西土佐村	57.2	42.9	0.0
	旧中村市	62.5	38.3	4.2

「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」

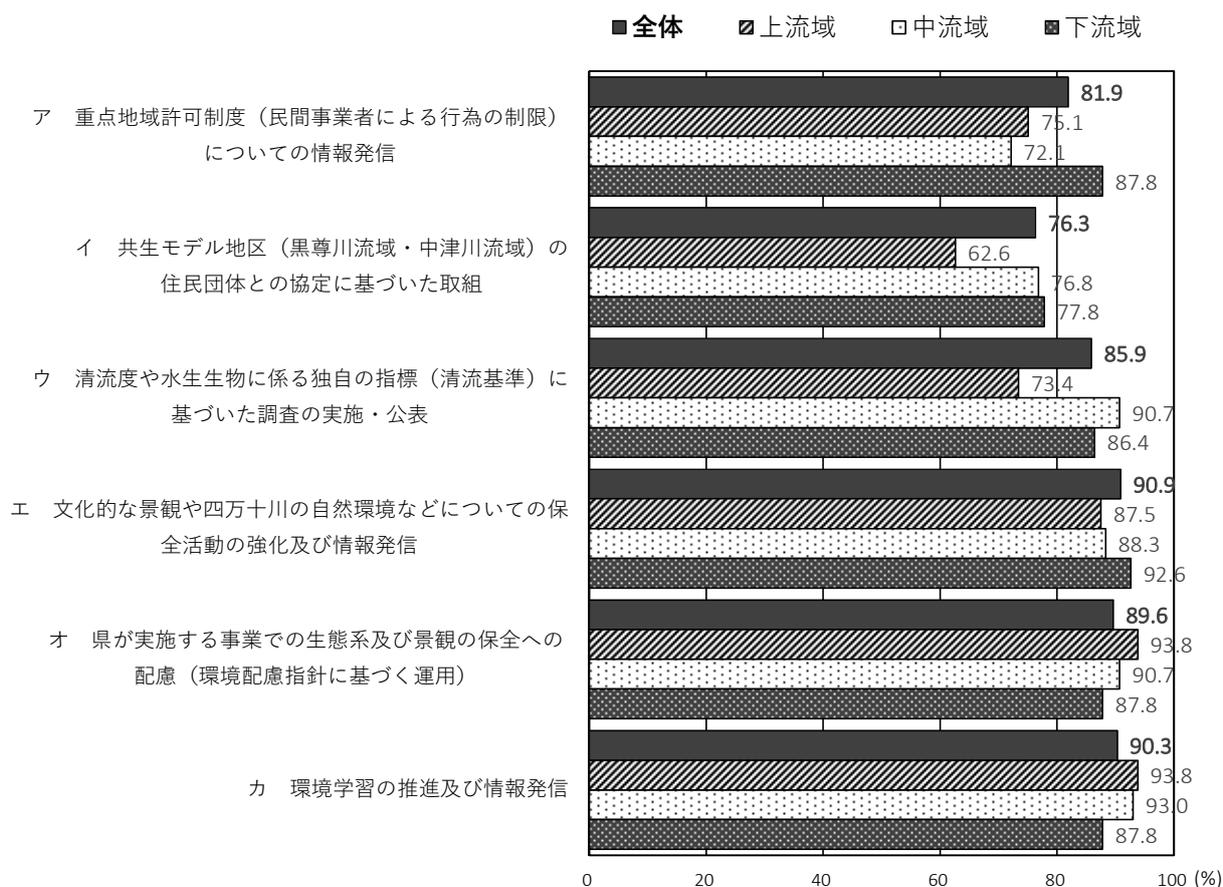
単位=(%) 網掛け= 高い割合		そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
上 流 域	檮原町	72.8	27.3	0.0
	旧東津野町	50.0	50.0	0.0
	旧大野見村	50.0	50.0	0.0
中 流 域	旧窪川町	68.0	28.0	4.0
	旧大正町	57.1	28.6	14.3
	旧十和村	81.8	18.2	0.0
下 流 域	旧西土佐村	57.2	28.6	14.3
	旧中村市	59.1	32.4	8.4

問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問5 あなたは、四万十川流域の保全と振興をより進めるためには、どのような取組の強化・内容の充実が必要だと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・『必要』（「必要」＋「どちらかといえば必要」）と答えた割合は、全ての項目で7割以上であった。全6項目中、『必要』と答えた割合が最も高かったのは、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」の90.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が90.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が89.6%であった。
- ・上流域では、「共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の住民団体との協定に基づいた取組」や「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・広報」の項目について『必要』と答えた割合が低くなっている傾向が見受けられた。「重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」の項目について、中流域では『必要』と答えた割合が低くなっている一方、下流域では『必要』と答えた割合が高くなっていることが見受けられた。

「必要」と「どちらかといえば必要」を
合わせた【必要】と答えた割合



- ・各設問での旧市町別の特色として、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」及び「環境学習の推進及び情報発信」が、いずれも旧東津野村、旧大野見村、旧大正町、旧西土佐村で『必要』の割合は100.0%と高くなっている。

「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」

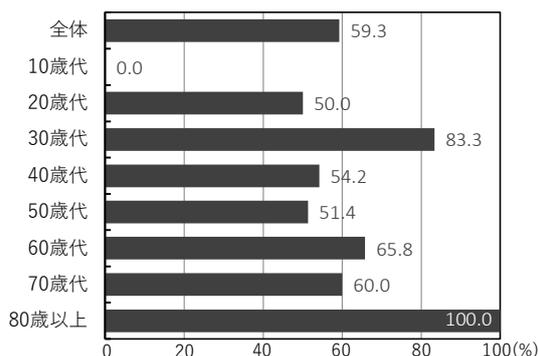
単位=(%) 網掛け= 高い割合		必要	どちらとも いえない	不必要
上 流 域	禰原町	81.8	18.2	0.0
	旧東津野町	100.0	-	0.0
	旧大野見村	100.0	-	0.0
中 流 域	旧窪川町	84.7	11.5	3.8
	旧大正町	100.0	-	0.0
	旧十和村	90.0	10.0	0.0
下 流 域	旧西土佐村	100.0	-	0.0
	旧中村市	91.9	6.8	1.4

「環境学習の推進及び情報発信」

単位=(%) 網掛け= 高い割合		必要	どちらとも いえない	不必要
上 流 域	禰原町	91.0	9.1	0.0
	旧東津野町	100.0	-	0.0
	旧大野見村	100.0	-	0.0
中 流 域	旧窪川町	92.3	7.7	0.0
	旧大正町	100.0	-	0.0
	旧十和村	90.0	10.0	0.0
下 流 域	旧西土佐村	100.0	-	0.0
	旧中村市	86.7	12.0	1.3

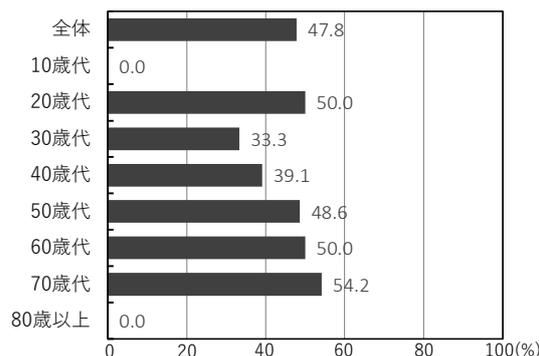
- ・四万十川条例の取組（全6項目）について、四万十川流域の保全と振興に効果があったかについて『そう思う』と回答し、かつ、取組の強化・内容の充実が『必要』と答えた人の割合は、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」が64.7%と最も高く、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が63.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用／県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が60.4%といずれも6割以上であった。
- ・「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」は20歳代（75.0%）と70歳代（70.4%）がその他の年代と比べて高くなった。
- ・「重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）／重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」は30歳代（83.3%）と80歳以上（100.0%）がその他の年代と比べて高くなった。

【効果】重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）
【必要】重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信



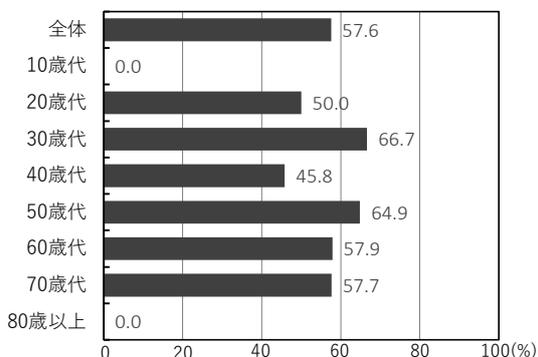
【効果】共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の指定及び住民団体との協定に基づいた取組の実施

【必要】共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の住民団体との協定に基づいた取組



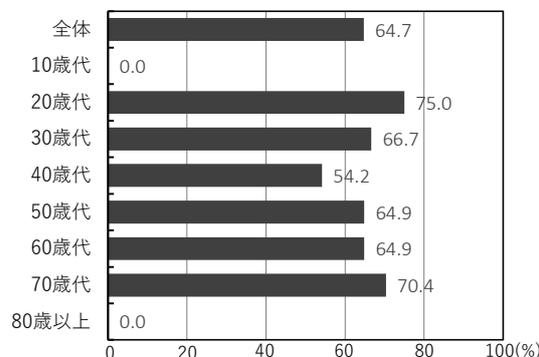
【効果】清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表

【必要】清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・公表



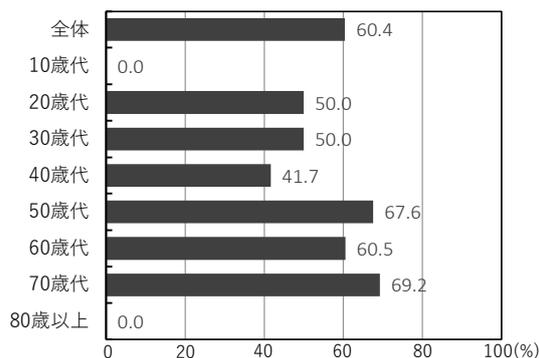
【効果】「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用

【必要】文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信



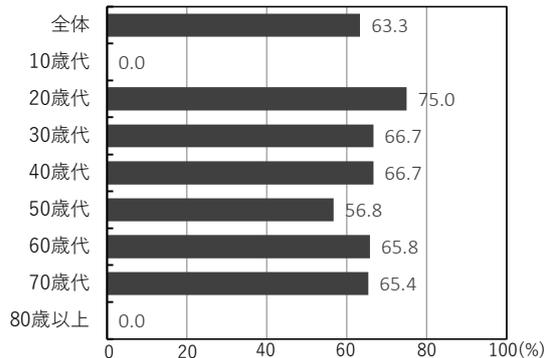
【効果】 県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用

【必要】 県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）に基づく運用



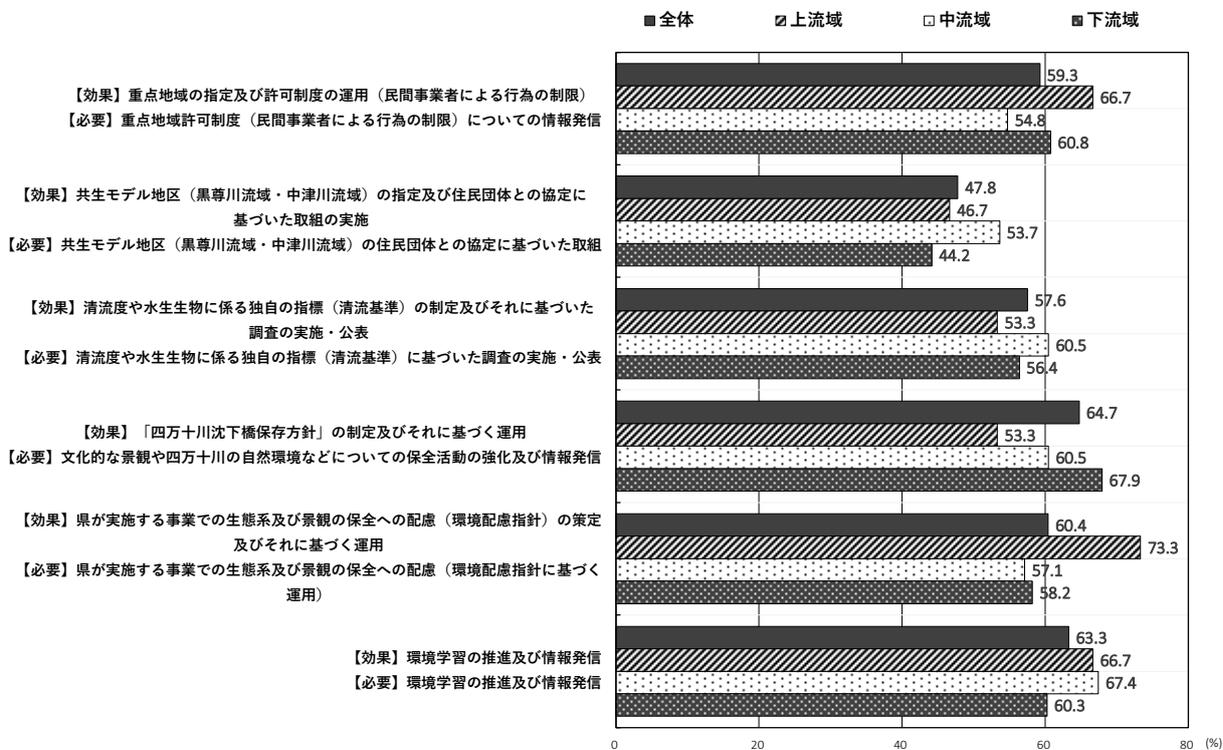
【効果】 環境学習の推進及び情報発信

【必要】 環境学習の推進及び情報発信



- ・下流域では「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」が67.9%と、その他の流域と比べて高くなった。
- ・上流域では「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用／県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が73.3%、中流域では「環境学習の推進及び情報発信」が67.4%とそれぞれ高くなった。

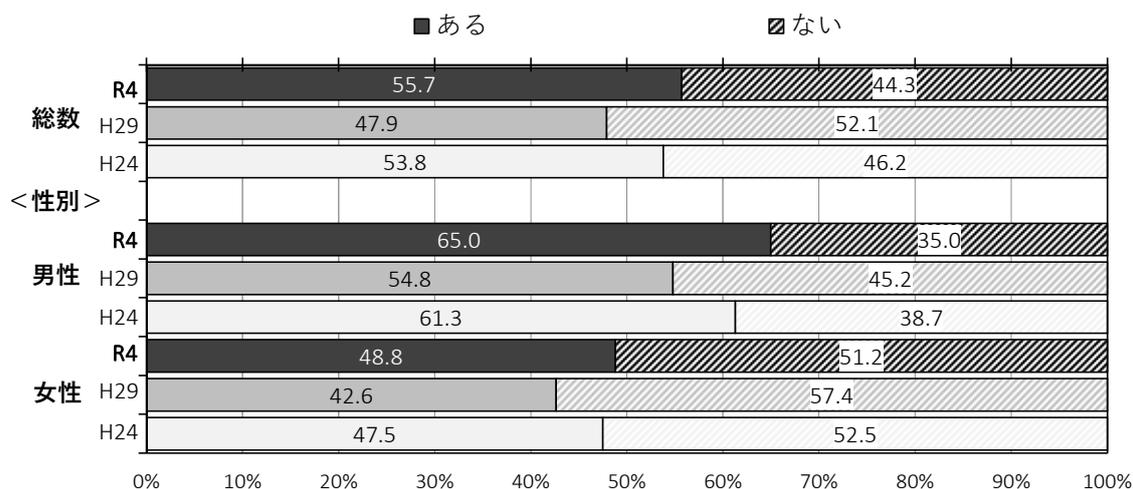
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】と答えて、かつ「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせた【必要】と答えた割合



2. 四万十川との関わり

問6 あなたは、この1年間に仕事以外で川にでかけたことがありますか。(1つだけ○印)

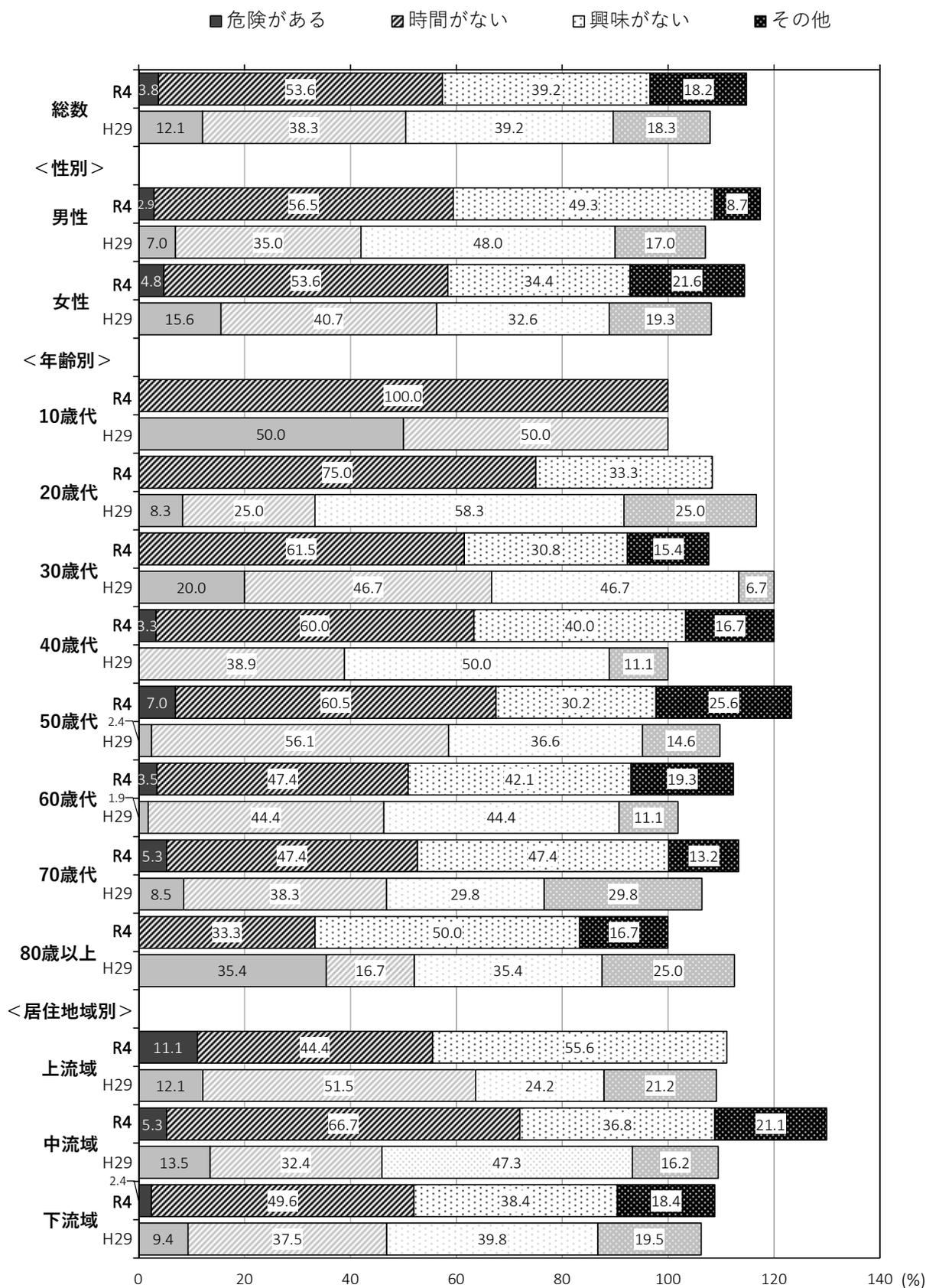
- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、55.7%（前回：47.9%・前々回：53.8%）と直近3回の調査の中で最も高くなった。
- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、男性が65.0%、女性が48.8%と、女性より男性の方が川に出かける人の割合が2割程度高くなった。



問6で「ない」と答えた方にお聞きします。

問7 問6で「ない」と答えた理由を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

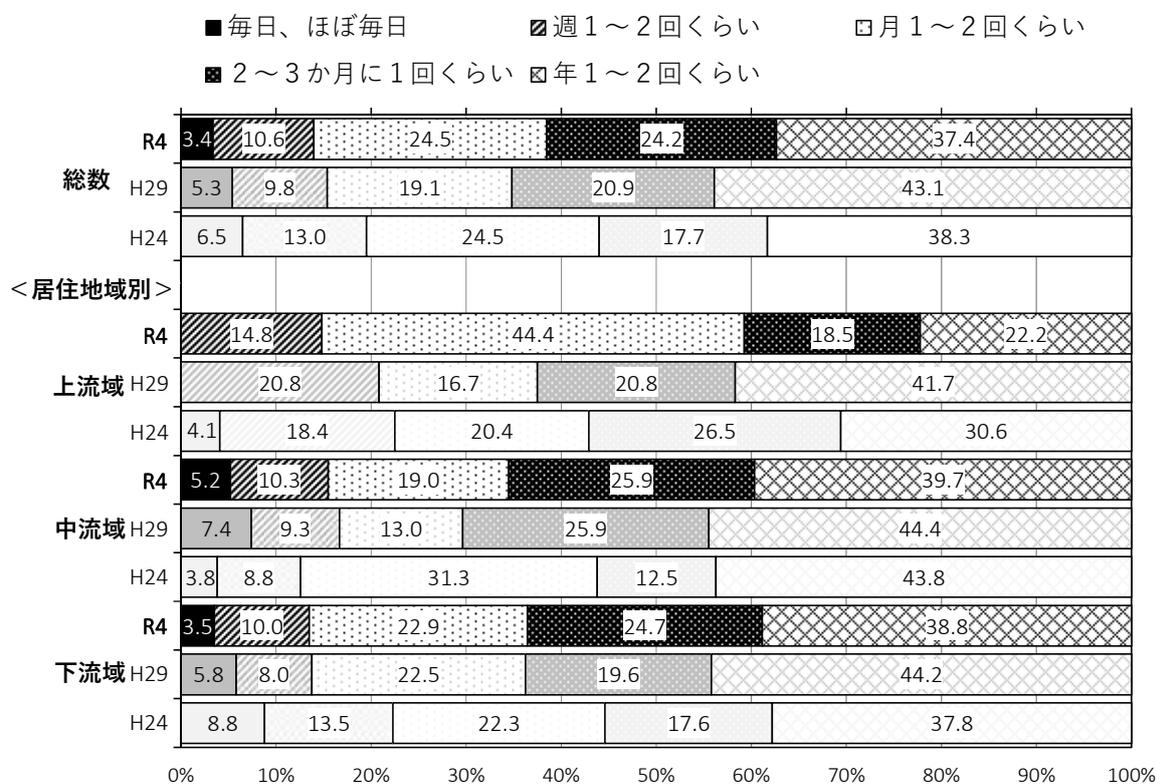
- ・「時間がない」と答えた人の割合は53.6%（前回：38.3%）と前回調査から15.3ポイント増加し最も高く、次いで「興味がない」が39.2%（前回：39.2%）となった。
- ・男女ともに「時間がない」と答えた人の割合は5割以上と最も高く、男性では「興味がない」と答えた人の割合が49.3%と比較的高くなった。また、女性では「その他」で「(川にでかける)用事がない・機会がない・理由がない」等の意見があった。
- ・60歳代以下では「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、70歳代以上では「興味がない」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・中流域と下流域では「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、上流域では「興味がない」と答えた人の割合が最も高くなった。



問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問8 あなたは、この1年間にどれくらい川にでかけましたか。(1つだけ○印)

- ・「年1～2回くらい」と答えた人の割合が37.4%（前回：43.1%）で最も高く、次いで「月1～2回くらい」が24.5%で、「2～3か月に1回くらい」が24.2%と続いている。
- ・「月1～2回くらい」の24.5%と「週1～2回くらい」の10.6%と「毎日、ほぼ毎日」の3.4%を合わせると38.5%（前回：34.2%、前々回：44.0%）が『月に1～2回くらい』以上は川に出かけており、前回調査から4.3ポイント増加したが、前々回よりも5.5ポイント減少した。
- ・『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合は、上流域が59.2%（前回：37.5%、前々回：42.9%）と直近3回の調査で割合が最も高くなったものの、上流域では「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は0.0%（前回：0.0%、前々回：4.1%）であった。また、中流域と下流域では『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合はいずれも4割以下であった。



問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問9 あなたは、この1年間に川で、何をしましたか。(あてはまるもの全てに○印)

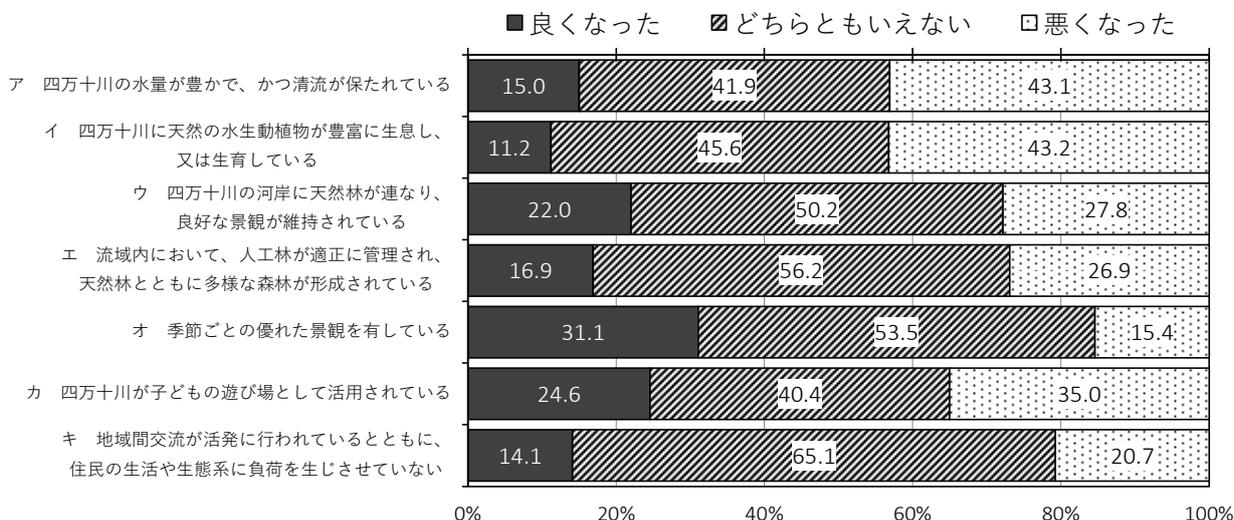
- ・「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は56.4%と最も高く、次いで「水泳、水遊び」33.3%であった。
- ・川に出かけた頻度別では、いずれの頻度も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合が最も高く、特に毎日、ほぼ毎日では88.9%と最も高く、「アユ以外の釣り、魚とり」「アユ釣り、アユとり」と答えた人は週に1～2回以上と川に出かける頻度は高いことがうかがえる。

単位=(%) 網掛け=		散歩、ジョギング、散策	水泳、水遊び	清掃活動などのボランティア活動	アユ以外の釣り、魚とり	キャンプ、バーベキュー	その他	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	アユ釣り、アユとり	ボート、カヌーなど
1位										
2位										
全体		56.4	33.3	17.0	14.4	11.7	11.7	10.2	9.1	5.3
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	88.9	-	11.1	33.3	-	22.2	22.2	22.2	11.1
	週1～2回くらい	57.1	32.1	14.3	25.0	7.1	7.1	21.4	32.1	10.7
	月1～2回くらい	73.0	31.7	14.3	12.7	20.6	15.9	14.3	9.5	3.2
	2～3か月に1回くらい	62.5	37.5	25.0	18.8	15.6	10.9	6.3	1.6	6.3
	年1～2回くらい	39.4	35.4	15.2	8.1	6.1	9.1	6.1	6.1	4.0

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

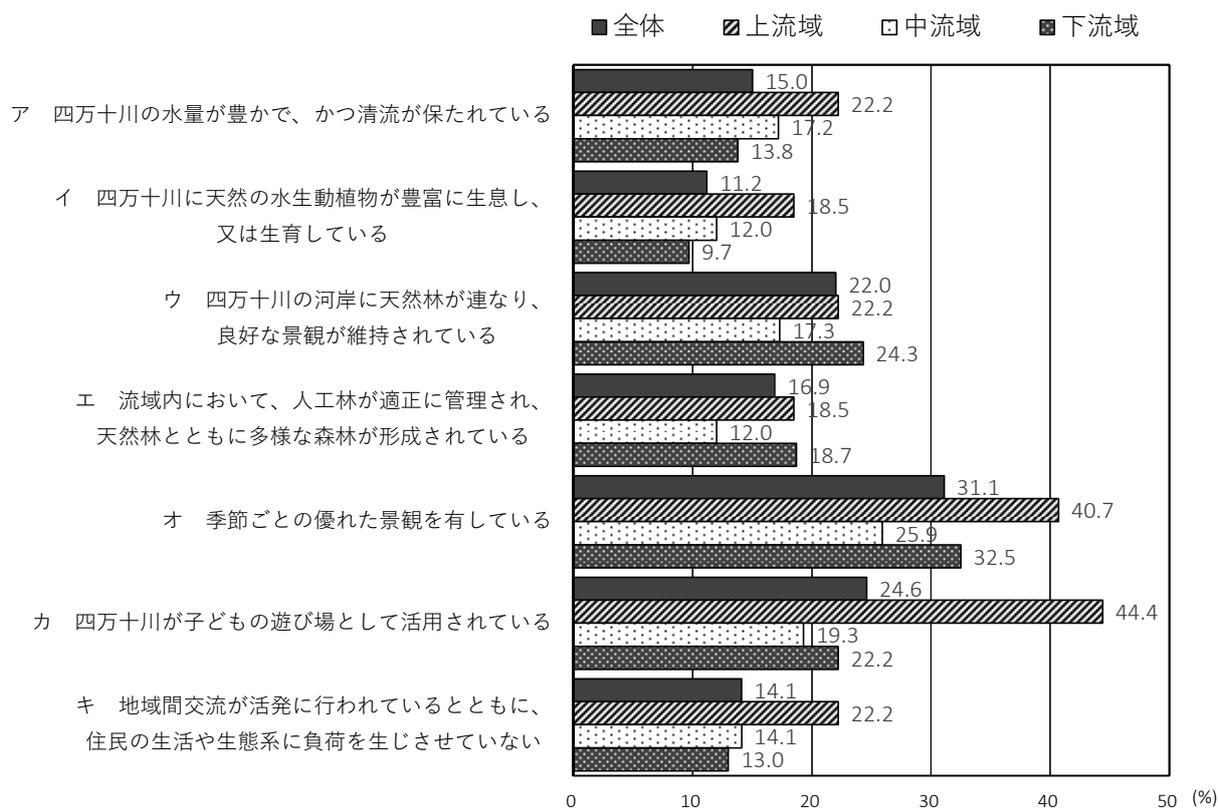
問10 あなたは、四万十川の環境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。ア～キのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・全7項目中、『良くなった』(「良くなった」+「どちらかといえば良くなった」)が『悪くなった』(「悪くなった」+「どちらかといえば悪くなった」)を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」の1項目のみで、『良くなった』と答えた人の割合は31.1%であった。
- ・『悪くなった』と答えた人の割合が最も高かったのは「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.2%で、次いで「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」が43.1%、「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」が35.0%であった。

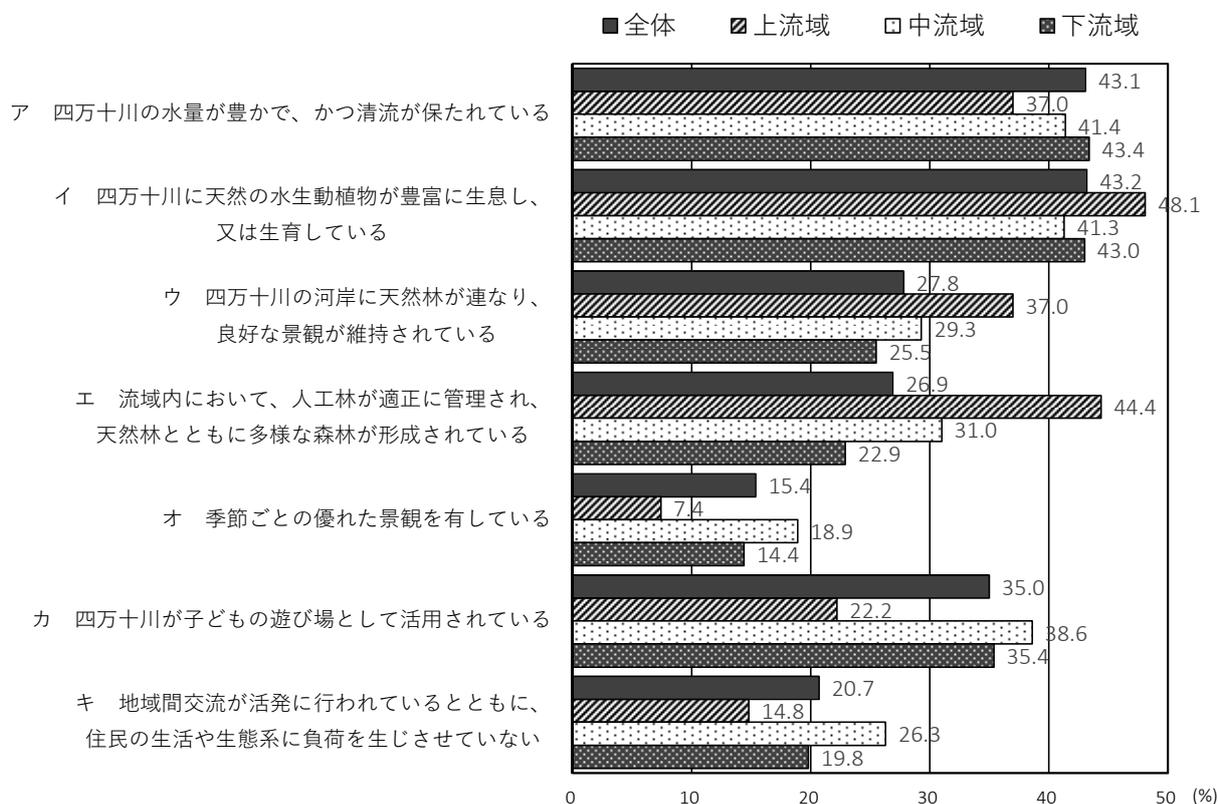


- ・全流域で『悪くなった』と答えた人の割合が『良くなった』を最も上回ったのは、「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」（上流域：29.6ポイント差・中流域：29.3ポイント差・下流域：33.3ポイント差）で、次いで上流域では「流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている」（25.9ポイント差）、中流域及び下流域では「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」（中流域：24.2ポイント差・下流域：29.6ポイント差）であった。
- ・川に出かけた頻度別では、「週1～2回くらい」以下においては「季節ごとの優れた景観を有している」で『良くなった』と答えた人の割合が高く、一方で、「毎日、ほぼ毎日」では7項目全てで『悪くなった』と答えた人の割合が高くなった。特に「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」で77.7%と最も高くなった。
- ・「川で何をしたか」別では、「アユ釣り、アユとり」以外では「季節ごとの優れた景観を有している」と答えた人の割合は『良くなった』が『悪くなった』を上回っており、特に「キャンプ、バーベキュー」では『良くなった』が48.4%と最も高くなった。
- ・「アユ釣り、アユとり」では7項目全てで『悪くなった』が『良くなった』を上回っており、特に「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」と「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」と「四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている」が『悪くなった』と答えた人の割合が5割以上と高くなった。
- ・「清掃活動などのボランティア活動」においても「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」が『悪くなった』と答えた人の割合が54.5%と最も高くなった。
- ・これらのことから、景観面以外は悪くなったと感じる割合が高く、特に、アユ釣り等の目的で川に出かける頻度が高く、川と密接に生活している人たちは、四万十川の水量や水生动植物への影響を感じていることがうかがえる。

「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」
を合わせた【良くなった】と答えた割合



「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」
を合わせた【悪くなった】と答えた割合



<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け=		「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった】と答えた割合						
1位		ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている	イ 四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している	ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている	エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている	オ 季節ごとの優れた景観を有している	カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている	キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない
2位								
全体		15.0	11.2	22.0	16.9	31.1	24.6	14.1
川に出かけた頻度別	ほぼ毎日	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	22.2
	週1~2回くらい	10.7	14.3	14.3	14.3	21.4	21.5	11.1
	月1~2回くらい	17.7	9.7	29.1	22.6	37.7	30.7	14.6
	2~3か月に1回くら	17.2	15.9	17.2	14.3	29.7	26.6	17.7
	年1~2回くらい	13.6	7.3	24.2	16.5	31.9	21.9	11.7
川で何をしたか別	散歩、ジョギング、散策	16.3	12.3	24.0	18.4	33.8	23.7	15.3
	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	14.8	7.4	18.5	14.8	18.5	29.6	15.4
	水泳、水遊び	16.4	10.6	25.6	17.5	35.3	33.0	19.5
	アユ釣り、アユとり	16.6	8.3	4.3	0.0	4.2	8.4	8.4
	アユ以外の釣り、魚とり	13.5	13.9	5.4	10.8	16.2	29.7	8.4
	ボート、カヌーなど	14.3	14.3	35.7	14.2	35.7	35.7	30.8
	キャンプ、バーベキュー	19.3	22.6	32.2	25.8	48.4	36.7	16.7
	清掃活動などのボランティア活動	8.8	6.8	13.3	13.3	24.4	20.0	8.9
その他	6.4	9.7	25.9	19.4	32.2	19.4	16.2	

単位=(%) 網掛け=		「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」を合わせた【悪くなった】と答えた割合						
1位		ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている	イ 四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している	ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている	エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている	オ 季節ごとの優れた景観を有している	カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている	キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない
2位								
全体		43.1	43.2	27.8	26.9	15.4	35.0	20.7
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	66.6	66.6	55.5	55.5	22.2	77.7	55.5
	週1~2回くらい	46.4	50.0	39.2	32.1	17.9	39.2	11.1
	月1~2回くらい	38.7	40.3	24.2	24.2	13.1	29.1	11.3
	2~3か月に1回くら	42.2	42.8	23.5	25.3	10.9	36.0	22.6
	年1~2回くらい	42.7	40.6	26.3	25.8	18.6	32.3	25.5
川で何をしたか別	散歩、ジョギング、散策	47.6	47.6	28.7	25.9	17.6	37.8	19.4
	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	40.7	48.1	22.2	25.9	14.8	40.7	23.1
	水泳、水遊び	31.8	35.3	24.4	19.8	8.3	23.5	11.0
	アユ釣り、アユとり	54.2	54.2	52.2	45.8	20.8	33.4	20.8
	アユ以外の釣り、魚とり	45.9	33.3	27.0	27.0	5.4	16.2	19.5
	ボート、カヌーなど	21.4	28.5	28.6	21.4	7.1	14.2	15.4
	キャンプ、バーベキュー	25.8	22.6	9.7	16.1	3.2	20.0	6.6
	清掃活動などのボランティア活動	48.9	54.5	26.6	28.9	17.8	37.8	26.7
その他	45.2	38.8	35.5	35.5	25.8	51.7	35.5	

3. 環境を守る行動や意欲

問11 あなたは、次のことがらについて、日頃どの程度行なっていますか。ア～スのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

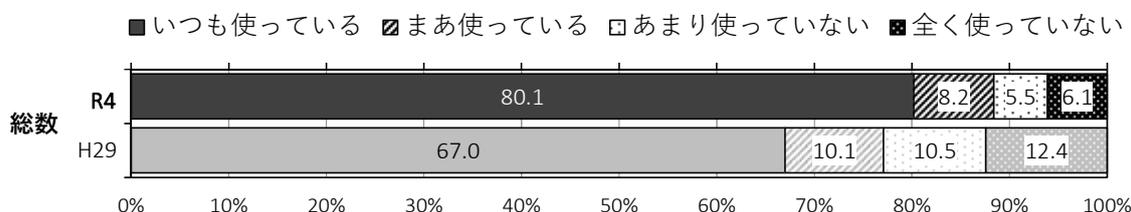
- ・前回調査では、環境を守る行動について環境省の「環境にやさしいライフスタイル実態調査（平成28年度）」との比較を行っていたが、環境省の同調査が令和元年度以降実施されておらず、近年の国の調査で比較できる項目が無かったため、今回は属性ごとの特徴について分析した。
- ・13項目中11項目において、前回調査よりも『実施率』（「いつも行っている」＋「だいたい行っている」）が減少しており、『実施率』の高い順に並べた項目ごとの順位は、第1位は「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」が94.1%（前回：94.3%・0.2ポイント減少）、第2位が「使った油は流しから流さないようにしている」が86.2%（前回：85.4%・0.8ポイント増加）であった。一方で、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」と「米のとき汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」の『実施率』が3割未満と低くなった。
- ・80歳以上は全13項目の『実施率』の平均値が74.7%と最も高くなった。
- ・20歳代では全13項目の『実施率』の平均値が47.7%と最も低くなった。また、30歳代と40歳代の全13項目の『実施率』の平均値も全体に比べて低いことから、20歳代から40歳代への環境を守る行動や意識への啓発を行う必要がある。
- ・全ての流域において「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」の『実施率』が最も高く、中流域は『実施率』98.3%と高くなった。
- ・上流域では「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」が『実施率』6.6%と全体の『実施率』20.1%から13.5ポイント下回り、その他の流域と比べて『実施率』が低く、それらのイベントの開催が少ないことが理由ではないかと推測される。
- ・下流域では「風呂の残り湯は、せんとく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」が『実施率』27.8%で、その他の流域と比べて『実施率』が低くなった。

<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け= 	「いつも行っている」と「だいたい行っている」を合わせた【実施率】の割合												
	全体 (R4)	全体 (H29)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳 以上	上流域	中流域	下流域
サ ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている	94.1	94.3	100.0	86.7	93.9	89.9	92.6	95.5	98.8	100.0	97.7	98.3	91.6
イ 使った油は流しから流さないようにしている	86.2	85.4	100.0	86.7	81.8	85.4	83.1	87.2	90.4	100.0	93.3	87.0	85.2
シ ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	84.0	88.6	100.0	60.0	84.8	70.0	80.8	88.0	95.1	100.0	93.3	95.7	77.1
コ 新聞・雑誌は、古紙回収に回している	78.0	80.3	100.0	46.6	59.4	67.1	83.2	80.4	87.6	100.0	86.4	77.5	75.9
キ 日常の生活で電気は、こまめに消している	77.3	79.7	100.0	60.0	68.7	75.2	72.6	81.2	82.9	75.0	82.3	77.8	76.6
ク 洗ざいやシャンプーなどは、余分に使わないようにしている	73.6	75.5	100.0	53.3	62.5	71.1	74.7	74.6	82.1	87.5	69.8	76.5	73.4
カ 日常の生活で節水に気をつけている	68.7	71.8	100.0	60.0	60.6	56.6	74.5	68.5	75.3	87.5	64.5	63.3	71.2
ク 省エネタイプの家庭電化製品を購入するよう心がけている	65.0	66.7	100.0	26.7	60.6	63.3	69.4	67.7	62.2	75.0	68.8	68.4	63.7
ケ 日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている	59.3	66.9	50.0	40.0	45.4	46.6	53.7	65.1	75.6	75.0	64.5	67.5	54.8
ウ よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている	52.7	49.4	100.0	46.7	45.4	43.3	54.8	52.6	59.8	87.5	41.3	61.5	51.2
オ 風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している	31.7	36.4	50.0	20.0	27.3	20.2	37.9	29.3	39.5	50.0	40.0	35.1	27.8
ア 米のとぎ汁やみそ汁などは、流しから流さないようにしている	22.3	27.2	50.0	13.4	15.2	12.4	26.3	17.3	38.2	33.3	20.5	23.2	21.4
ス 不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している	20.1	25.5	50.0	20.0	24.3	22.2	23.1	16.6	13.5	0.0	6.6	19.7	21.3
『実施率』の平均値	62.5	65.2	84.6	47.7	56.1	55.6	63.6	63.4	69.3	74.7	63.8	65.5	60.9

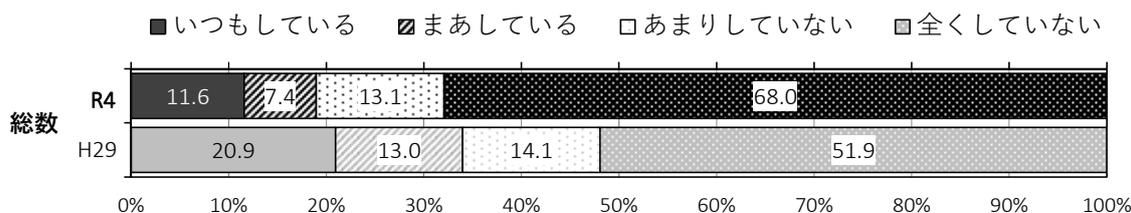
問12 あなたのご家庭では、日頃、流しの排水口や三角コーナーで水切り袋などを使っていますか。
(水切り袋が不要なシステムキッチンなどの場合は1を選んでください。)(1つだけ○印)

- ・「いつも使っている」と答えた人の割合は80.1%で、「まあ使っている」と答えた人の割合の8.2%と合わせた『使用率』は88.3% (前回: 77.1%) で11.2ポイント増加しており、水切り袋の設置等が浸透している。



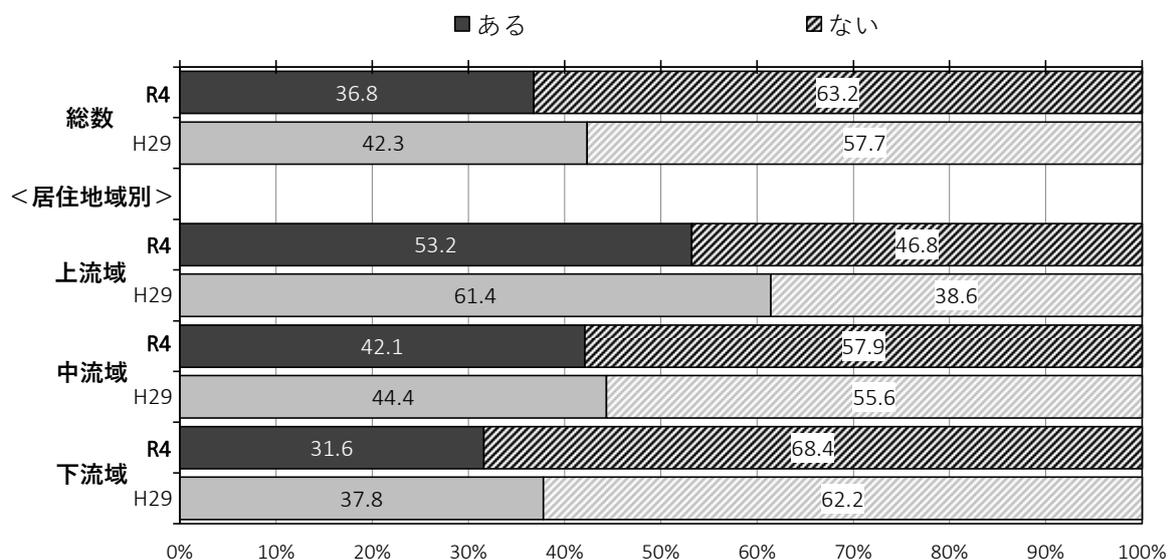
問13 あなたのご家庭では、日頃、コンポスト容器や電気式の生ごみ処理機などを利用して、家庭から出る生ごみのたい肥(ひ)化に取り組んでいますか。(1つだけ○印)

- ・「いつもしている」と答えた人の割合は11.6%で、「まあしている」と答えた人の割合の7.4%と合わせた『実施率』は19.0% (前回: 33.9%) で前回調査から14.9ポイント減少した。



問14 あなたは、講演会などの催しや、植樹、間伐(かんばつ)、リサイクル活動、美化・清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

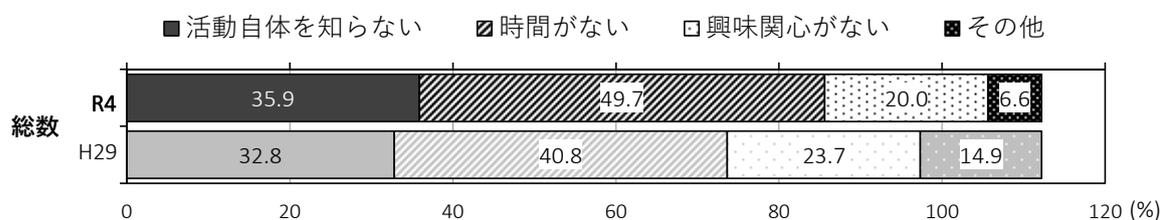
- ・「ある」と答えた人の割合は、36.8% (前回: 42.3%) と前回調査から5.5ポイント減少した。
- ・前回調査と同様に上流域になるほど「ある」と答えた人の割合が高い傾向になっている。



問 14 で「ない」と答えた方にお聞きします。

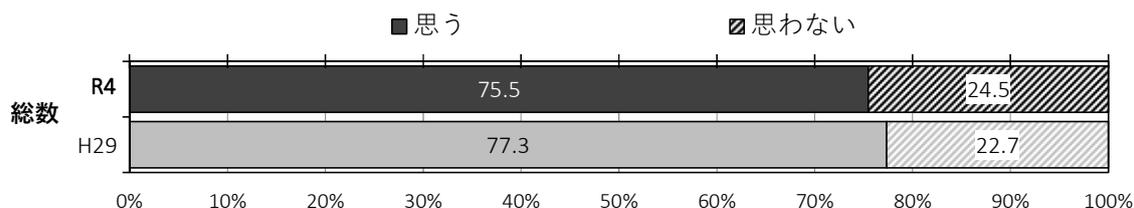
問 15 問 14 で「ない」と答えた理由をお選びください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「時間がない」と答えた人の割合が 49.7% (前回：40.8%) と最も高く、前回調査から 8.9 ポイント増加しており、次いで「活動自体を知らない」が 35.9% (前回：32.8%)、「興味関心がない」が 20.0% (前回：23.7%) となった。



問 16 あなたは、四万十川やその流域の環境を保全するために、例えば寄付を募(つ)のるとすれば、協力してもよいと思いますか。(1つだけ○印)

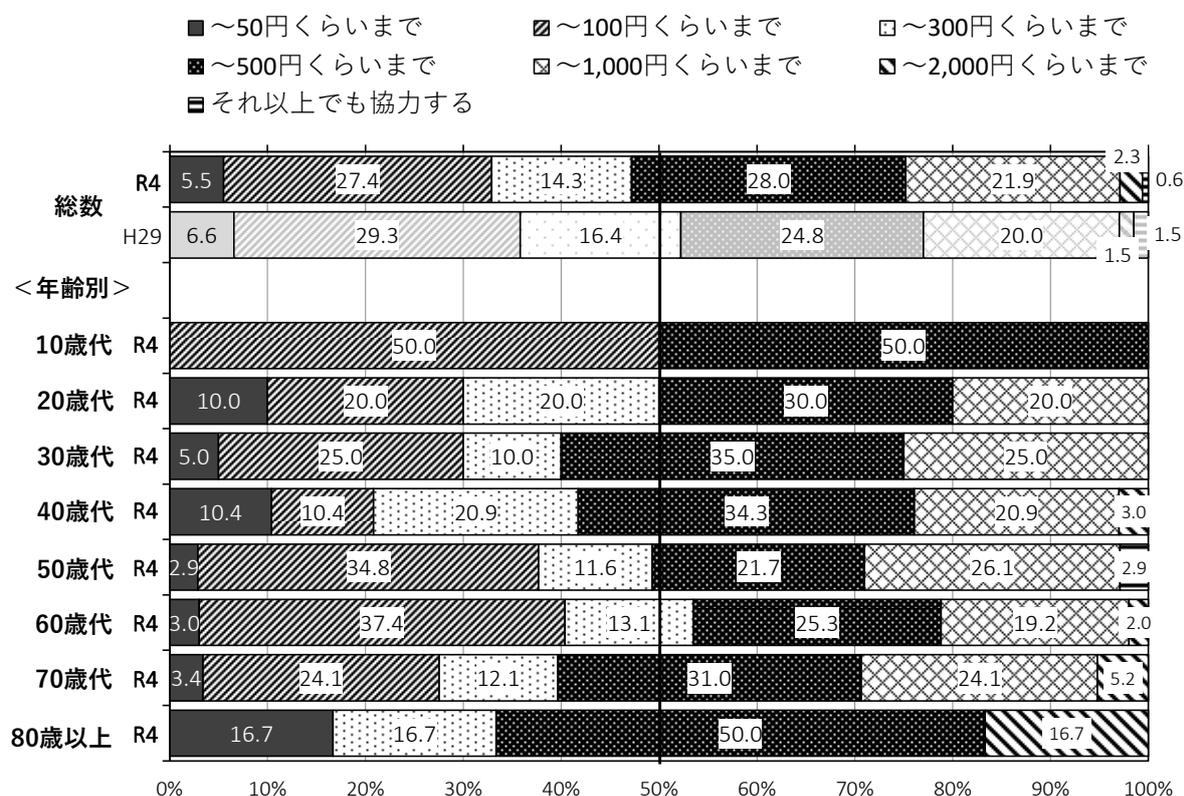
- ・「思う」と答えた人の割合は 75.5% (前回：77.3%) で、前回調査から 1.8 ポイントとやや減少した。



問16で「思う」と答えた方にお聞きします。

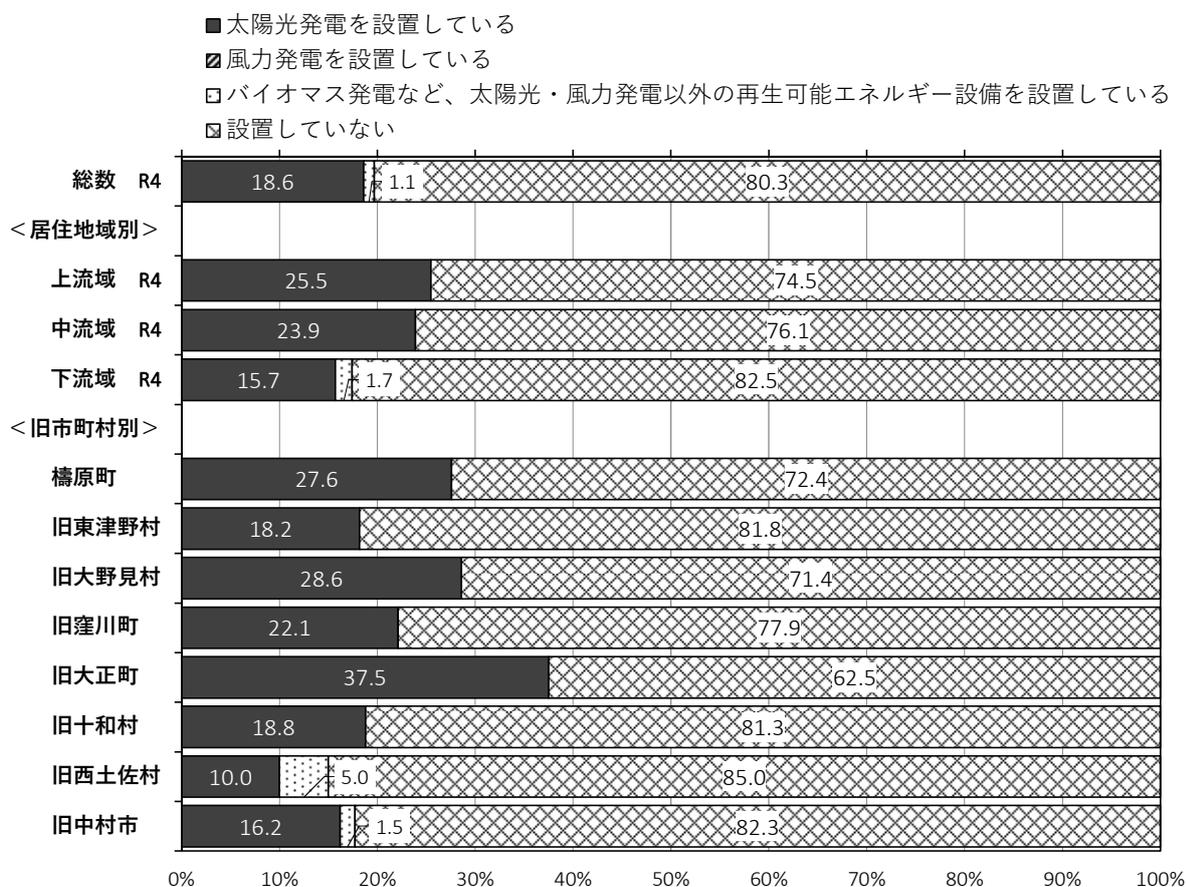
問17 では、あなたが、1か月あたり協力してもよいと思う金額は、次のどれですか。(1つだけ○印)

- ・「～500円くらいまで」以上と答えた人の割合は52.8%（前回：47.8%）と5.0ポイント増加した。
- ・「～500円くらいまで」以上と答えた人の割合は60歳代を除いた年代で5割を超えており、特に70歳代以上の高年齢層は協力してもよいと思う上限額が高くなっている傾向が見受けられた。



問18 あなたのご家庭では、環境に配慮した再生可能エネルギー設備を設置していますか。(あてはまるもの全てに○印)

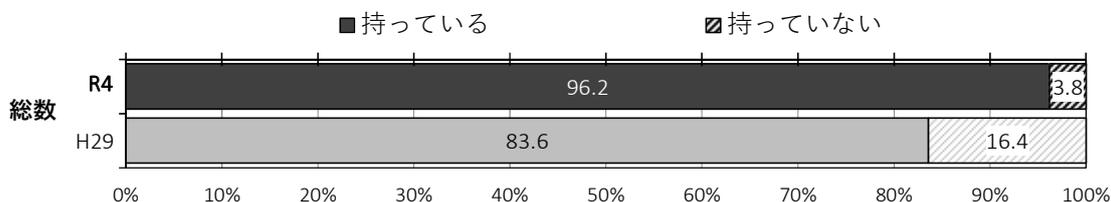
- ・「設置していない」と答えた人の割合が80.3%と最も高く、次いで「太陽光発電を設置している」18.6%、「バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備を実施している」1.1%であった。
- ・「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合は上流域が25.5%と最も高く、次いで中流域が23.9%、下流域が15.7%であった。
- ・旧大正町は「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合が37.5%と最も高く、一方で、旧西土佐村は10.0%と「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合が低くなった。



4. 通信手段について

問19 あなたは、携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つだけ○印)

- ・「持っている」と答えた人の割合は96.2%で、前回調査から12.6ポイントと増加した。

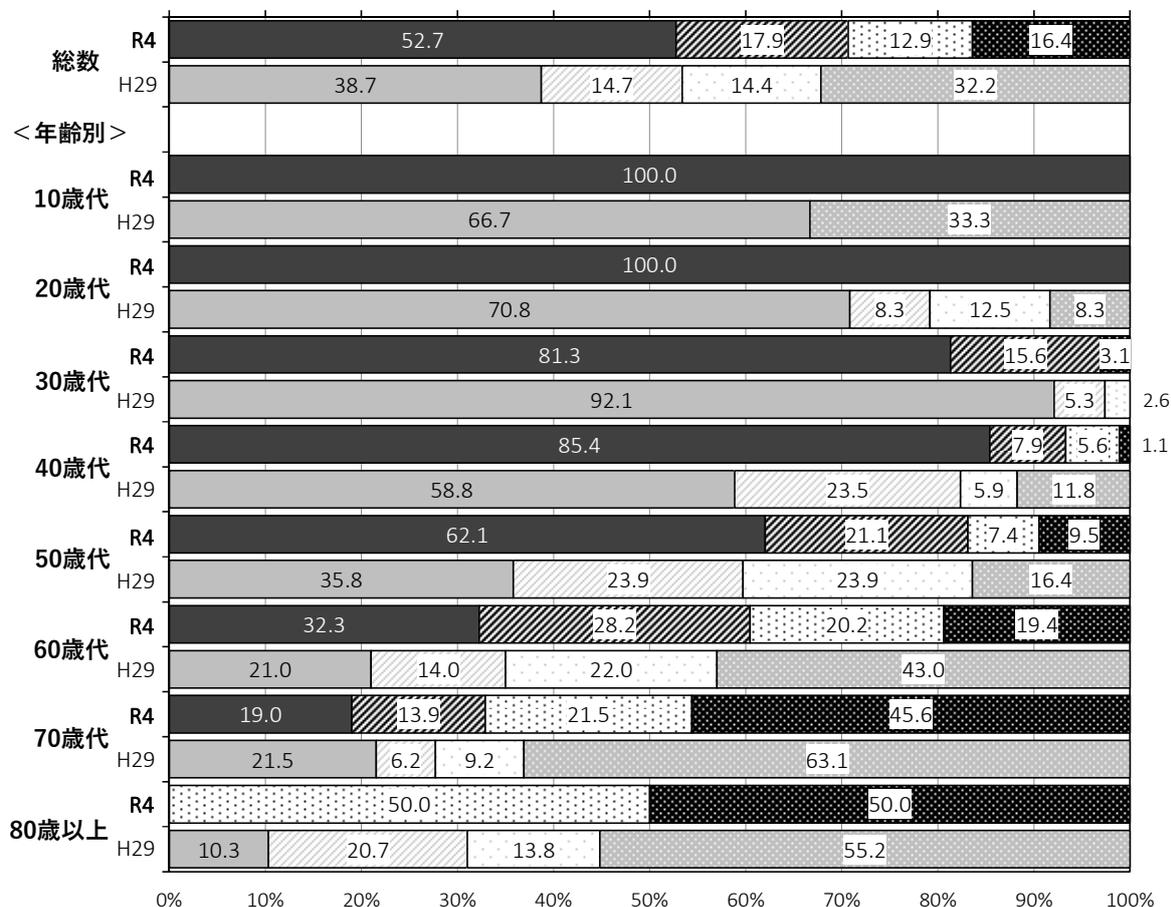


問19で「持っている」と答えた方にお聞きします。

問20 では、あなたは、日頃、携帯電話やスマートフォンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）を利用していますか。(1つだけ○印)

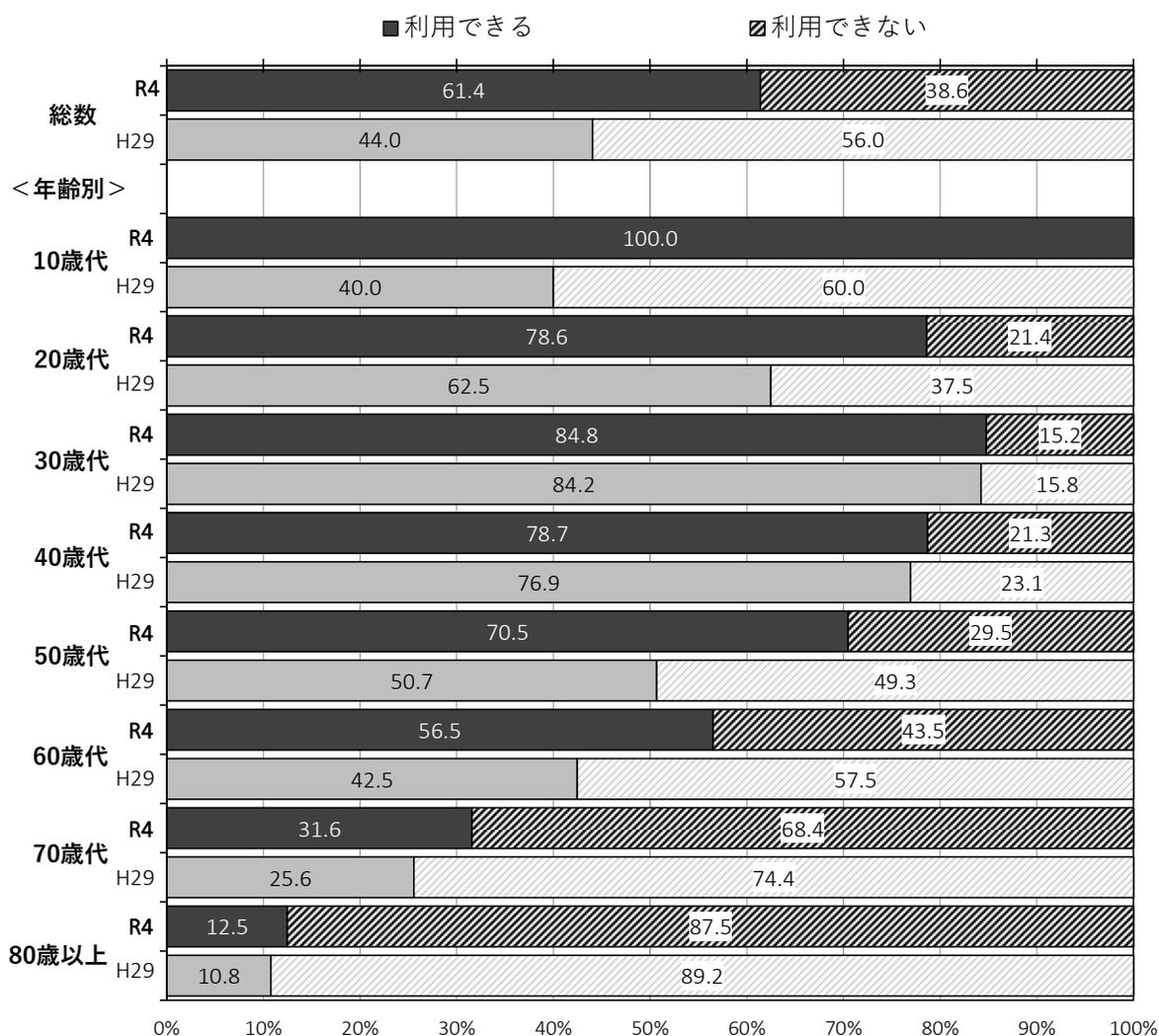
- ・「いつも利用している」と答えた人の割合は52.7%、「まあ利用している」と答えた人の割合は17.9%で、これらを合わせた『利用率』は70.6%であり、前回調査の53.4%から17.2ポイント増加した。特に「いつも利用している」と答えた人の割合が前回調査の38.7%から52.7%へと増加した。
- ・20歳代以下の『利用率』は100.0%と最も高く、年代が高くなるにつれて低くなった。

■いつも利用している ■まあ利用している □あまり利用していない ■全く利用していない



問 21 あなたのお宅では、パソコンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）が利用できますか。（1つだけ○印）

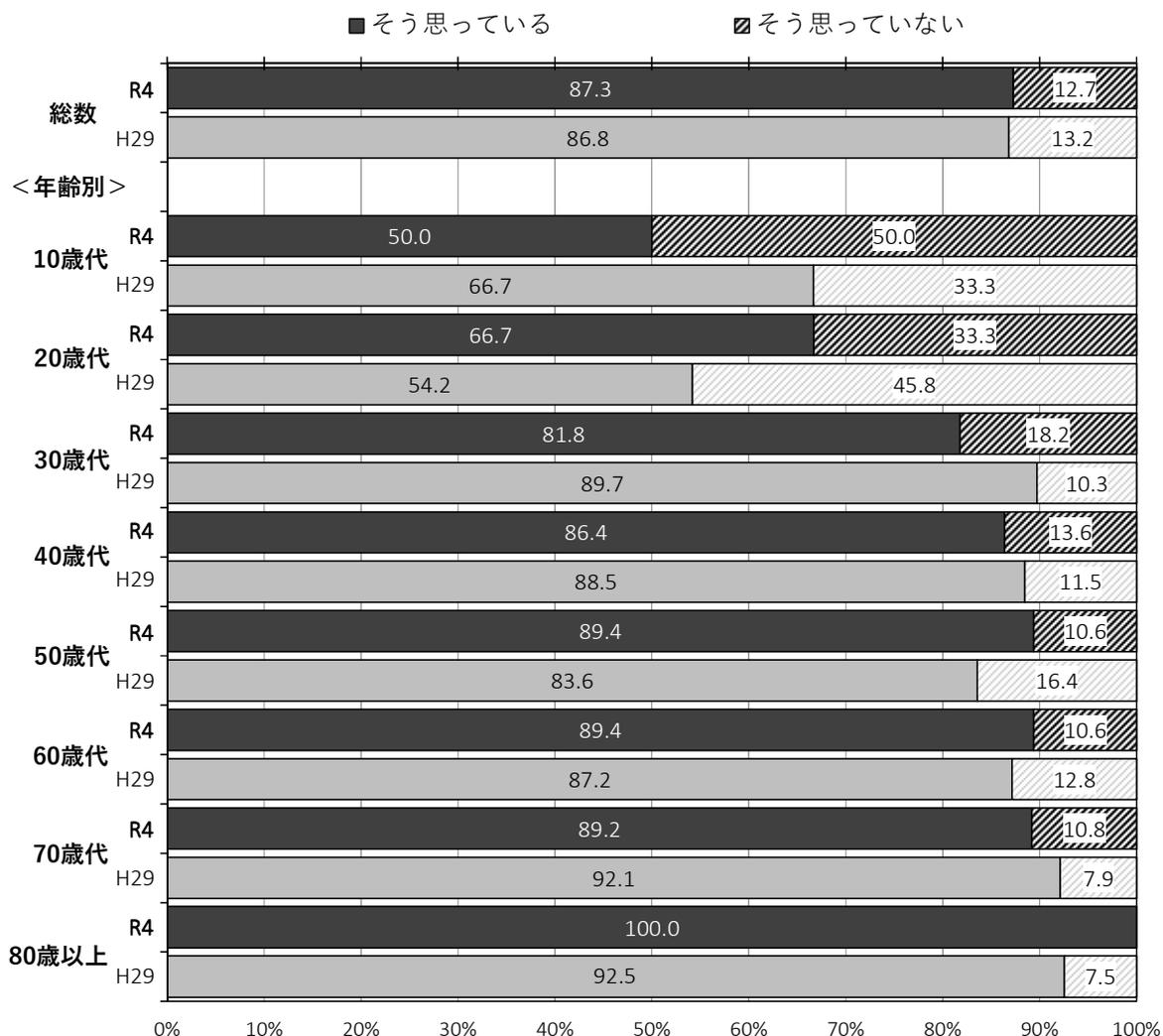
- ・「利用できる」と答えた人の割合は 61.4%（前回：44.0%）で、前回調査から 17.4 ポイント増加した。
- ・総務省が行った「令和3年通信利用動向調査」でのインターネット利用者の割合（個人）は 82.9%であり、全国と比べて普及率が 21.5 ポイント低くなった。



5. 居住意思

問 22 あなたは、今お住まいのこの地域にずっと住み続けたいと思いますか。(1つだけ○印)

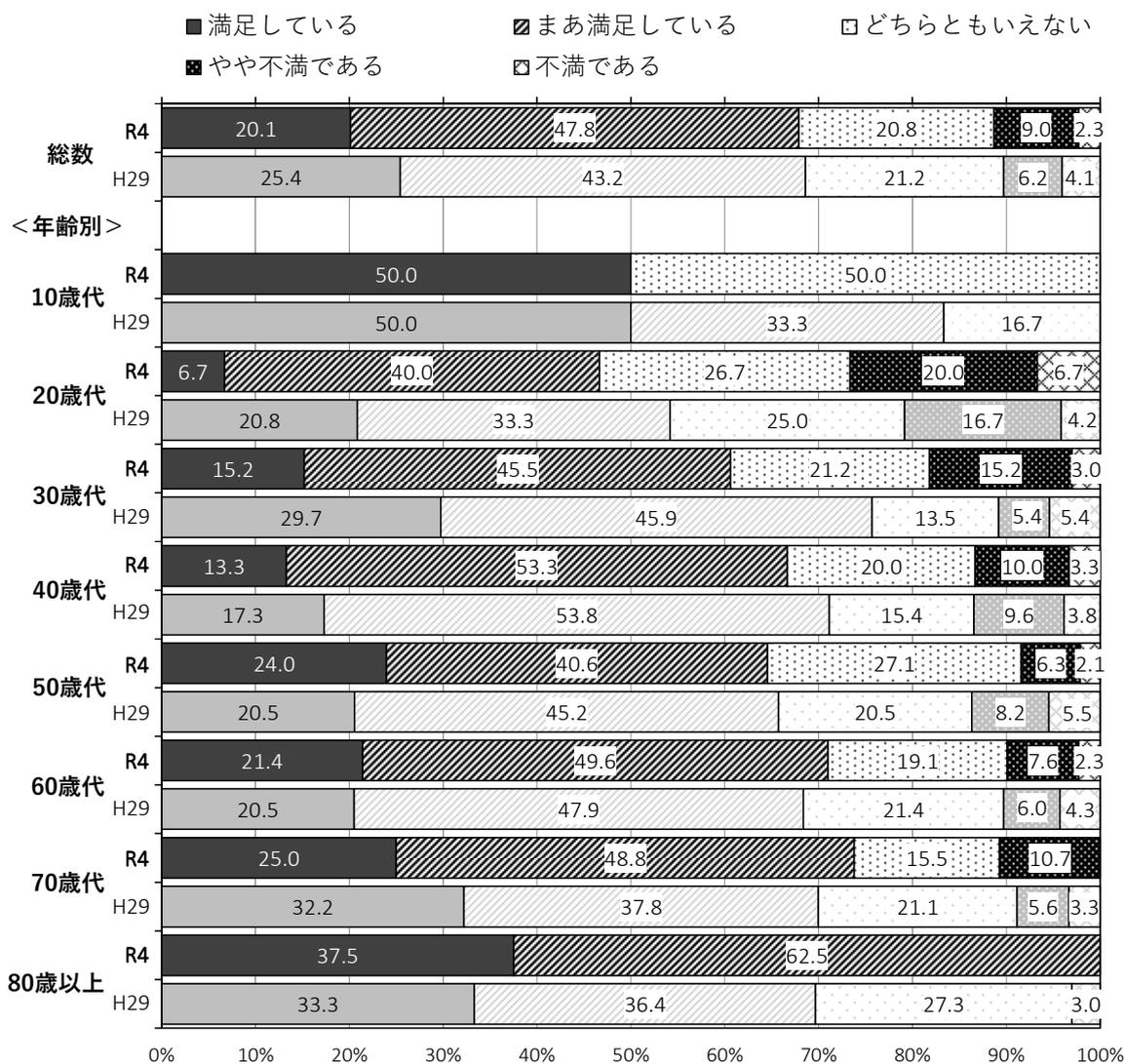
- ・「そう思っている」と答えた人の割合は87.3%であり、前回調査から0.5ポイント増加した。
- ・30歳代以上では「そう思っている」と答えた人の割合は8割以上を占めた。また、20歳代は、「そう思っている」と答えた人の割合は66.7%と前回調査から12.5ポイント増加した。



6. 生活の満足度

問 23 あなたは、今お住まいの地域を総合的にみて、どの程度満足していますか。(1つだけ○印)
また、その理由を下の枠内に記入してください。

- ・「満足している」及び「まあ満足している」と答えた人の割合を合わせた『満足度』は67.9%であり、前回調査の68.6%から0.7ポイント減少した。
- ・50歳代以下の年代で『満足度』が減少しており、特に、20歳代においては46.7%と満足度が低い一方で、60歳代以上の年代では『満足度』が7割を超えた。
- ・旧西土佐村、旧窪川町、檮原町の『満足度』が高い傾向が見受けられた。



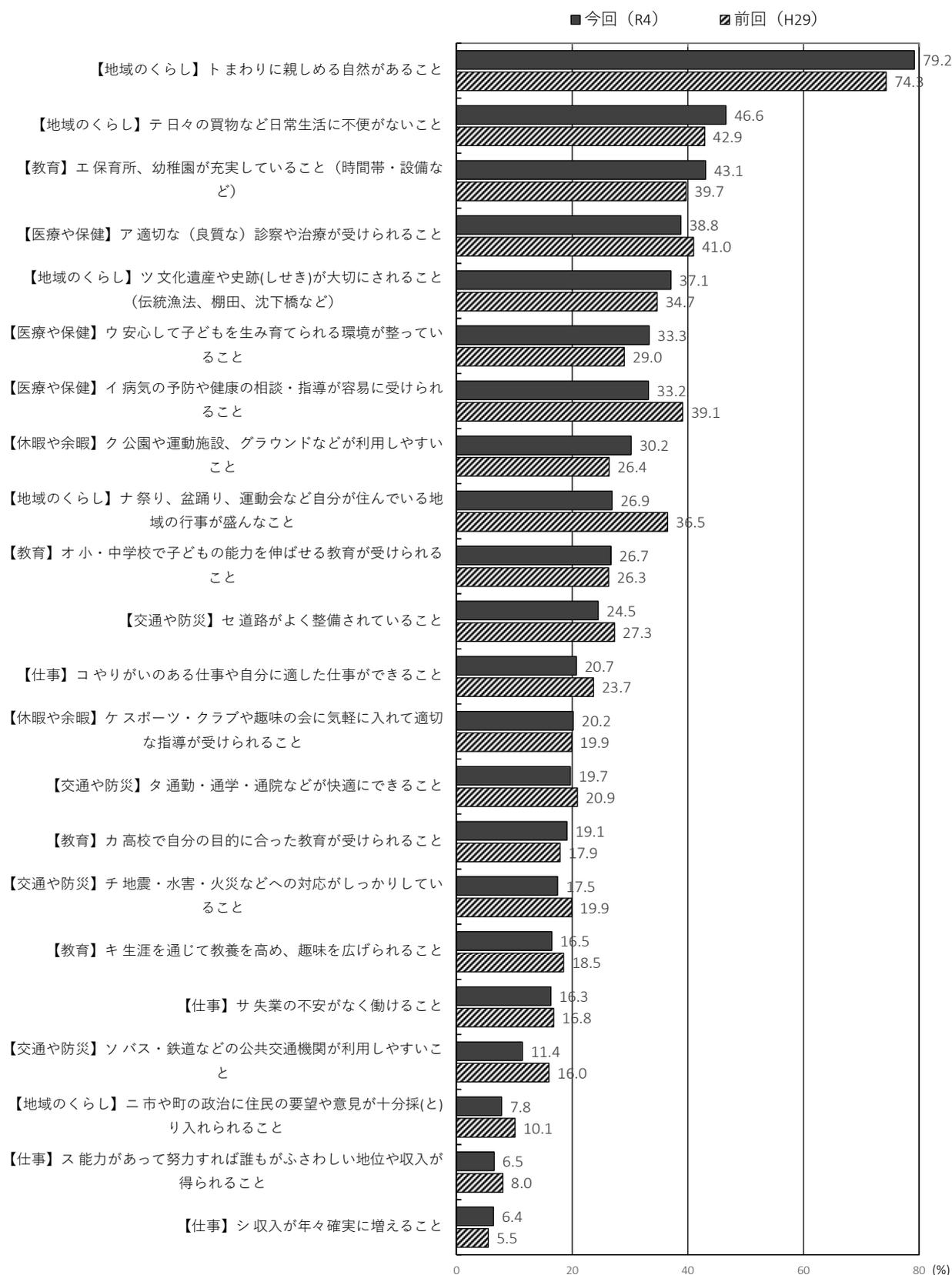
<居住地別>

単位=(%) 網掛け=高い割合		満足している	どちらともいえない	不満である
上流域	檮原町	72.4	17.2	10.3
	旧東津野町	54.6	36.4	9.1
	旧大野見村	42.9	57.1	0.0
中流域	旧窪川町	74.0	14.8	11.1
	旧大正町	56.3	37.5	6.3
	旧十和村	47.4	47.4	5.3
下流域	旧西土佐村	76.2	14.3	9.6
	旧中村市	69.5	18.5	12.0

問 24 あなたは、今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。ア～ニのあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・「まわりに親しめる自然があること」と答えた人の『満足度』（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）は、79.2%（前回：74.3%）で、前回調査より4.9ポイント増加した。
- ・『満足度』の低い項目は、自治体への要望や意見の反映、安定した仕事や地位や収入、公共交通機関の利便性に関して前回調査より不満な状況であった。
- ・80歳以上は全22項目の『満足度』の平均値が52.2%と最も高く、一方で、20歳代では全22項目の『満足度』の平均値が17.6%と最も低く、特に「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』は13.3%と全体の『満足度』38.8%から25.5ポイント下回り、その他の年代と比べて満足度が低いことがわかる。また、10歳代～20歳代においては、安定した仕事や地位や収入、公共交通機関の利便性に関して『満足度』が0.0%となっており、特に不満があることがうかがえた。
- ・上流域は「保育所、幼稚園が充実していること（時間帯・設備など）」と「安心して子どもを育てられる環境が整っていること」と「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が5割以上と高い一方で、「日々の買物など日常生活に不便がないこと」と「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』が2割程度とその他の流域より低くなった。
- ・中流域は「安心して子どもを育てられる環境が整っていること」と「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が2割程度とその他の流域より低いことがうかがえた。
- ・下流域は「日々の買物など日常生活に不便がないこと」の『満足度』が5割以上とその他の流域より高くなった。

「十分満たされている」と「かなり満たされている」
を合わせた【満足度】の割合



<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け= 	「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた【満足度】の割合												
	全体 (R4)	全体 (H29)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	上流域	中流域	下流域
【地域の暮らし】ト まわりに親しめる自然があること	79.2	74.3	100.0	60.0	81.8	80.7	80.2	80.7	78.5	75.0	68.9	80.0	80.4
【地域の暮らし】テ 日々の買物など日常生活に不便がないこと	46.6	42.9	0.0	26.7	42.5	42.1	40.6	49.3	59.8	75.0	17.4	45.3	52.6
【教育】エ 保育所、幼稚園が充実していること (時間帯・設備など)	43.1	39.7	50.0	40.0	48.5	39.0	33.0	43.9	56.5	71.5	63.6	42.3	39.9
【医療や保健】ア 適切な(良質な)診察や治療が受けられること	38.8	41.0	50.0	13.3	36.3	28.4	30.9	43.5	53.1	75.0	23.9	37.0	42.1
【医療や保健】ウ 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること	33.3	29.0	50.0	26.7	42.4	37.5	28.1	33.1	29.5	62.5	52.2	24.8	33.8
【医療や保健】イ 病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること	33.2	39.1	50.0	20.0	40.6	19.5	20.6	39.4	48.8	75.0	51.1	24.1	34.0
【仕事】サ 失業の不安がなく働けること	16.3	16.8	0.0	0.0	15.2	19.3	16.4	15.2	17.7	50.0	10.7	20.1	15.9
【交通や防災】ソ バス・鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと	11.4	16.0	0.0	0.0	3.0	5.7	7.2	15.0	23.7	25.0	2.2	14.1	11.8
【地域の暮らし】ニ 市や町の政治に住民の要望や意見が十分採(と)り入れられること	7.8	10.1	0.0	6.7	0.0	8.0	6.3	11.0	6.8	14.3	14.9	6.2	7.1
【仕事】ス 能力があつて努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること	6.5	8.0	0.0	0.0	9.1	7.9	7.3	6.6	2.8	20.0	6.5	9.1	5.5
【仕事】シ 収入が年々確実に増えること	6.4	5.5	0.0	0.0	3.0	12.5	8.3	4.8	1.5	16.7	4.3	8.3	6.2
『満足度』の平均値	26.4	27.0	22.7	17.6	26.4	24.2	23.6	27.3	31.0	52.2	26.9	24.9	27.1

第5章 集計結果（★は新設）

1. 四万十川の保全に対する取組

（1）「公益財団法人四万十川財団」の知名度等

問1 あなたは、「公益財団法人四万十川財団」という組織をご存知ですか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「知らない」と答えた人の割合が71.0%（前回：66.6%）と前回調査から4.4ポイント増加しており、前回に引き続き「公益財団法人四万十川財団」の知名度が低いことがうかがえた。
- ・「知らない」と答えた人の割合は、性別間で大きな差はなく、男性が70.1%（前回：64.1%）で、女性は71.8%（前回：69.2%）と男女ともに前回調査から増加した。

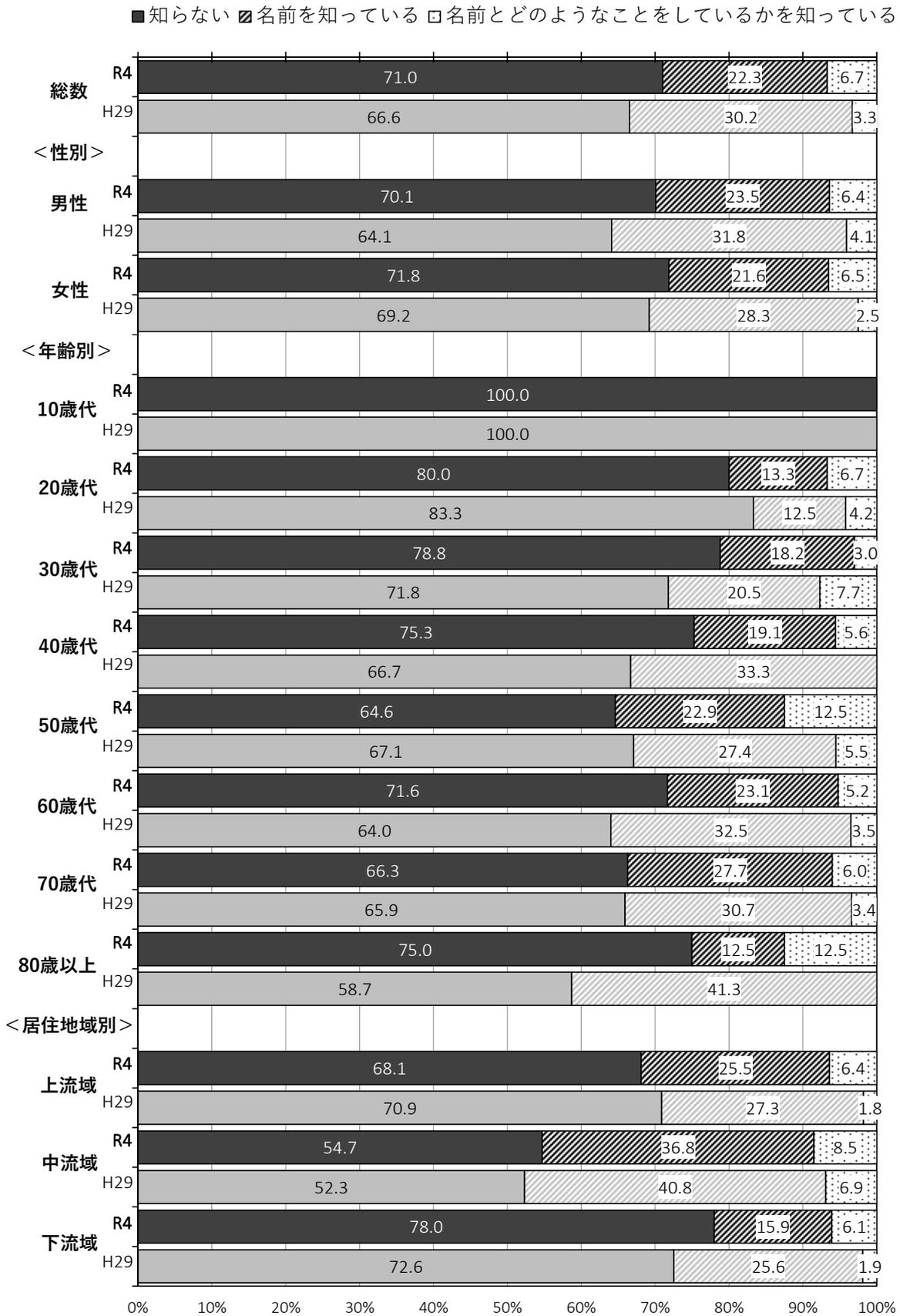
【年齢別】

- ・「知らない」と答えた人の割合は、10歳代が100.0%（前回：100.0%）で最も高く、30歳代～40歳代、60歳代以上では前回調査から増加しており、特に80歳以上では16.3ポイント（今回：75.0%・前回：58.7%）と最も増加した。
- ・「名前を知っている」と答えた人の割合は、30歳代以上の年代で前回調査から減少した。また、80歳以上を除いて年齢が高くなるにつれて「名前を知っている」と答えた人の割合が高い傾向が見られた。
- ・「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた人の割合は、20歳代、40歳代以上で前回より増加した。

【居住地域別】

- ・「知らない」と答えた人の割合が最も高かったのは下流域の78.0%（前回：72.6%）で、前回調査から5.4ポイント増加した。
- ・「知らない」と答えた人の割合が最も低かったのは中流域の54.7%（前回：52.3%）で、前回調査から2.4ポイント増加した。
- ・中流域では「名前とどのようなことをしているかを知っている」が8.5%（前回：6.9%）であり、その他の流域と比べて知名度が高い特徴が見られた。

図表 「公益財団法人四万十川財団」の知名度等



(2)「公益財団法人四万十川財団」に求める情報★

問1で「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた方にお聞きします。

問2 あなたが四万十川について、「公益財団法人四万十川財団」に情報発信してほしい内容を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合が56.7%と最も高く、次いで「講演会や学習会等の情報」が43.3%で、「レクリエーション情報」が40.0%であった。

【性別】

- ・男女ともに「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合が最も高く、女性は同率で「レクリエーション情報」(60.0%)であった。

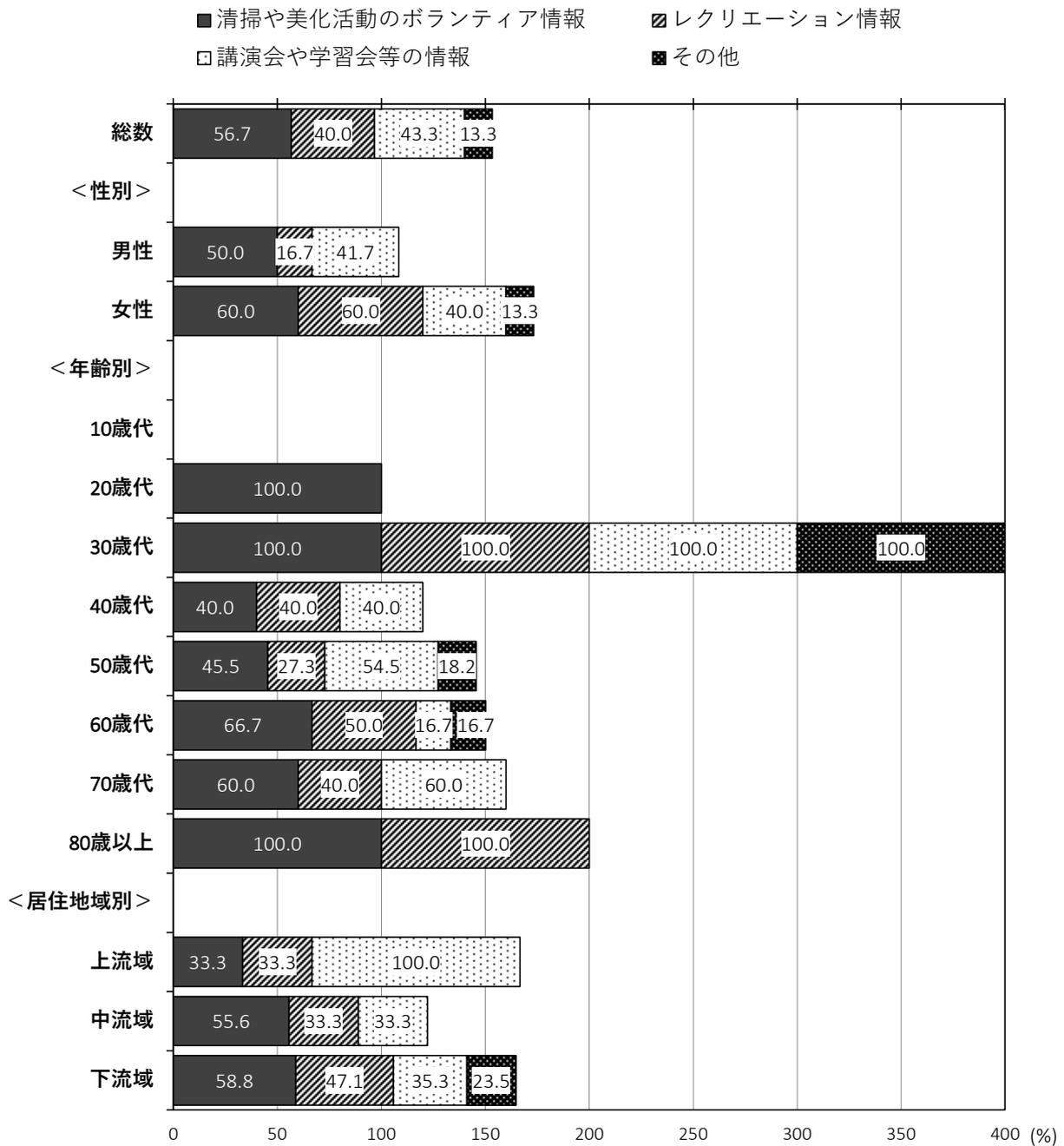
【年齢別】

- ・年代によって「清掃や美化活動のボランティア情報」「講演会や学習会等の情報」「レクリエーション情報」と答えた人の割合が分散した。

【居住地域別】

- ・中流域と下流域では「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合が5割以上と最も高く、上流域では「講演会や学習会等の情報」と答えた人の割合が100.0%と最も高くなった。

図表 「公益財団法人四万十川財団」に求める情報



(3)「四万十川条例」の知名度等

問3 あなたは、「四万十川条例（正式名称：高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例）」をご存知ですか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「知らない」と答えた人の割合は68.5%（前回：63.3%）と前回調査から5.2ポイント増加しており、前回に引き続き「四万十川条例」の知名度が低いことがうかがえた。

【性別】

- ・「知らない」と答えた人の割合は、男性が62.4%（前回：56.8%）で、女性は73.8%（前回：69.7%）と男女ともに前回調査から増加しており、男性より女性の方が1割以上割合が高くなった。

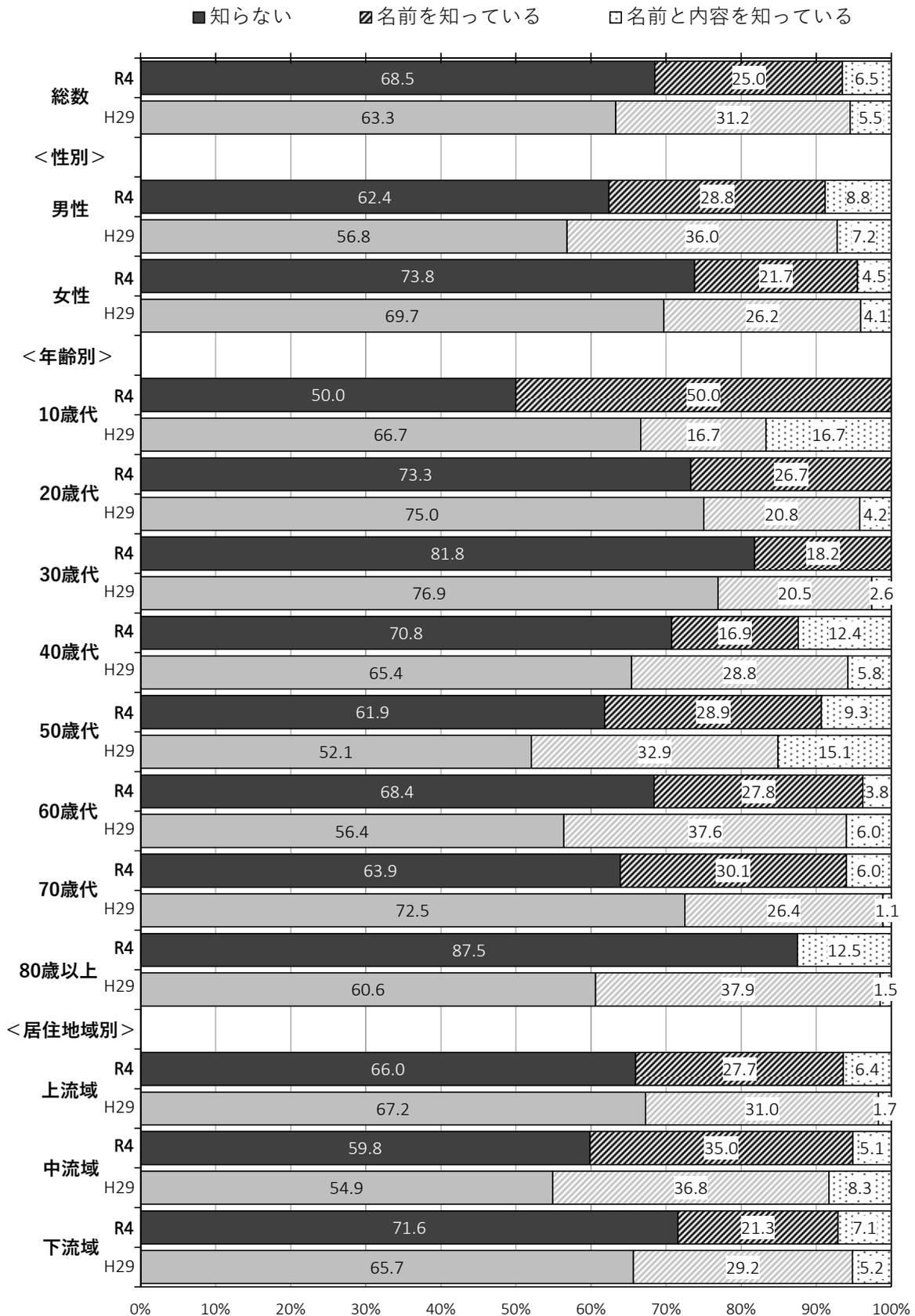
【年齢別】

- ・「知らない」と答えた人の割合が最も高くなったのは80歳以上の87.5%（前回：60.6%）で前回調査から26.9ポイント増加した。また、10歳代、20歳代、70歳代以外の年代で前回調査よりも増加した。
- ・「名前を知っている」と答えた人の割合が前回調査から減少したのは30歳代～60歳代、80歳代以上であった。
- ・「名前と内容を知っている」と答えた人の割合は、10歳代～30歳代で0.0%、50歳代～70歳代が1割を下回った。
- ・前回調査より知名度が上がったのは20歳代、70歳代で、「知らない」と答えた人の割合は20歳代が73.3%（前回：75.0%・1.7ポイント減少）、70歳代が63.9%（前回：72.5%・8.6ポイント減少）であった。

【居住地域別】

- ・「知らない」と答えた人の割合は、下流域が71.6%（前回：65.7%）と最も高く、前回調査から5.9ポイント増加した。
- ・「名前を知っている」と答えた人の割合は、全ての流域で前回調査から減少した。
- ・「名前と内容を知っている」と答えた人の割合は、全ての流域で1割を下回ったが、上流域と下流域では前回調査よりも増加した。
- ・中流域は、「名前を知っている」が35.0%（前回：36.8%・1.8ポイント減少）、「名前と内容を知っている」が5.1%（前回：8.3%・3.2ポイント減少）と、その他の流域と比べて知名度が高い特徴が見られるものの、前回調査よりも減少している。

図表 「四万十川条例」の知名度等



(4) 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組★

問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問4 あなたは、四万十川条例の取組が四万十川流域の保全と振興に効果があったと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

【全体】

- ・全6項目中、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高かったのは、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」が66.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が64.7%、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」が63.3%となっており、全ての項目で『そう思う』が5割を超えた。

【性別】

- ・全6項目中5項目で男性より女性の方が『そう思う』と答えた割合が高く、全ての項目で6割以上となっており、特に「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」と「環境学習の推進及び情報発信」ではいずれも74.1%と最も高くなった。
- ・女性より男性の方が『そう思う』と答えた割合が高かった項目は、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」で68.4%であった。

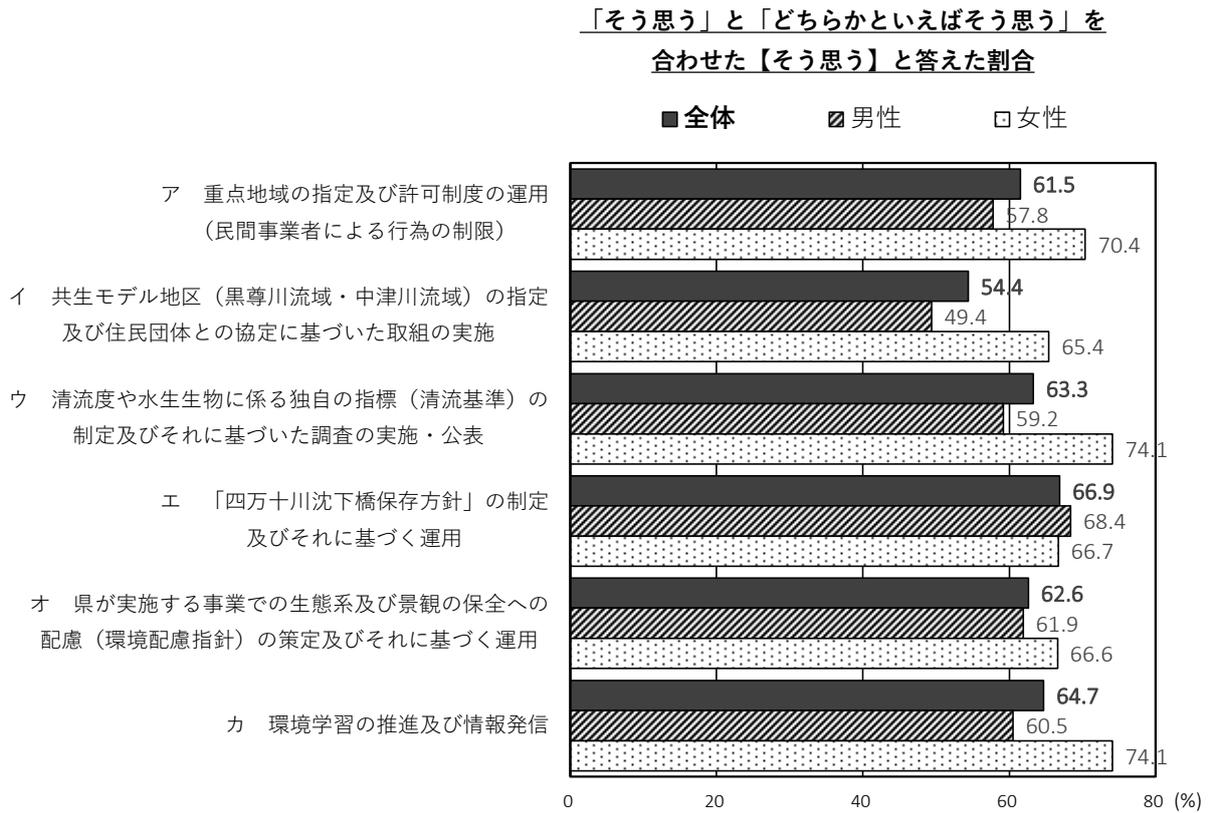
【年齢別】

- ・30歳代で「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」において『そう思う』と答えた割合が83.4%と高くなった。
- ・70歳代で「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用」において『そう思う』と答えた割合が76.9%と高くなった。
- ・80歳代以上では「重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）」において『そう思う』と答えた割合が100.0%で、その他の項目は0.0%であった。

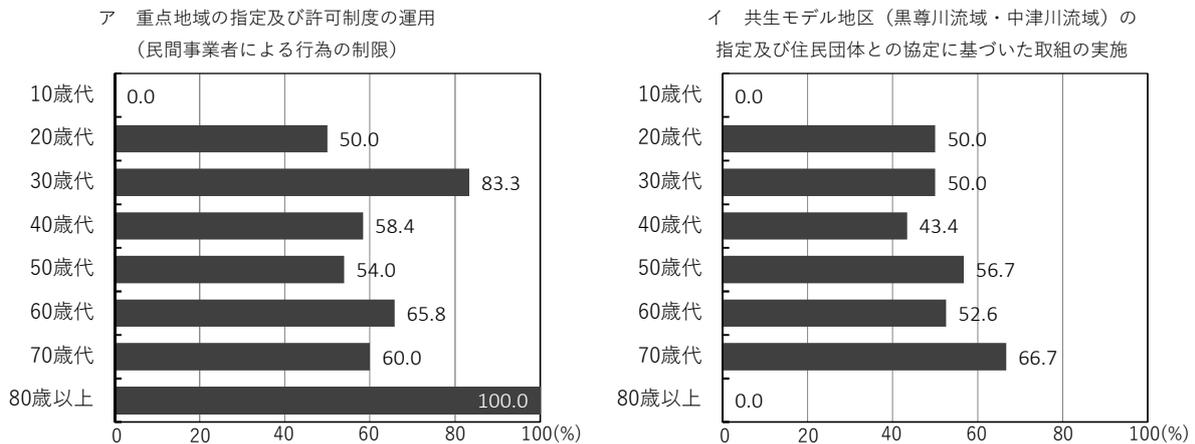
【居住地域別】

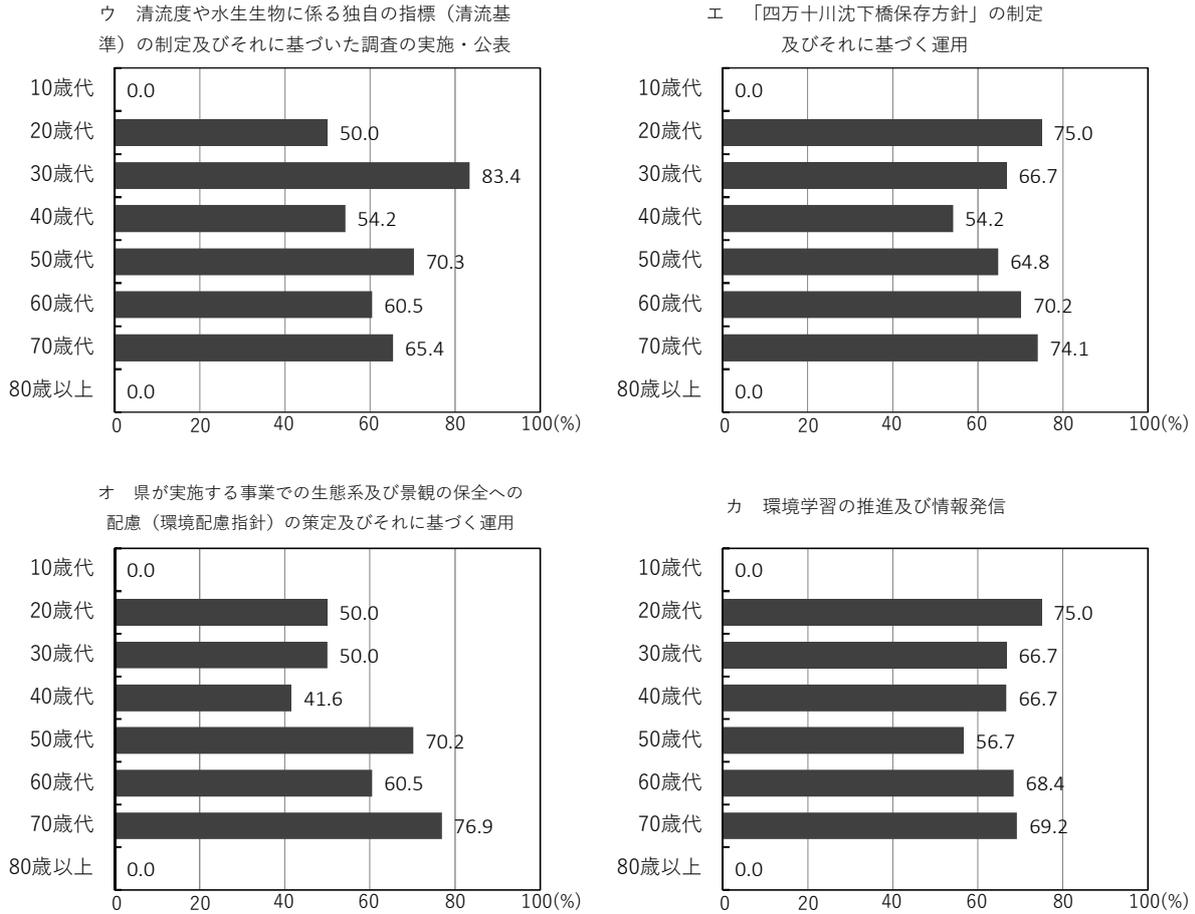
- ・上流域では「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用」において『そう思う』と答えた割合が73.3%と高くなった。
- ・中流域では「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」と答えた割合が69.8%と高くなった。
- ・下流域では「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」において『そう思う』と答えた割合が69.2%と高くなった。

図表 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組 <全体+性別>

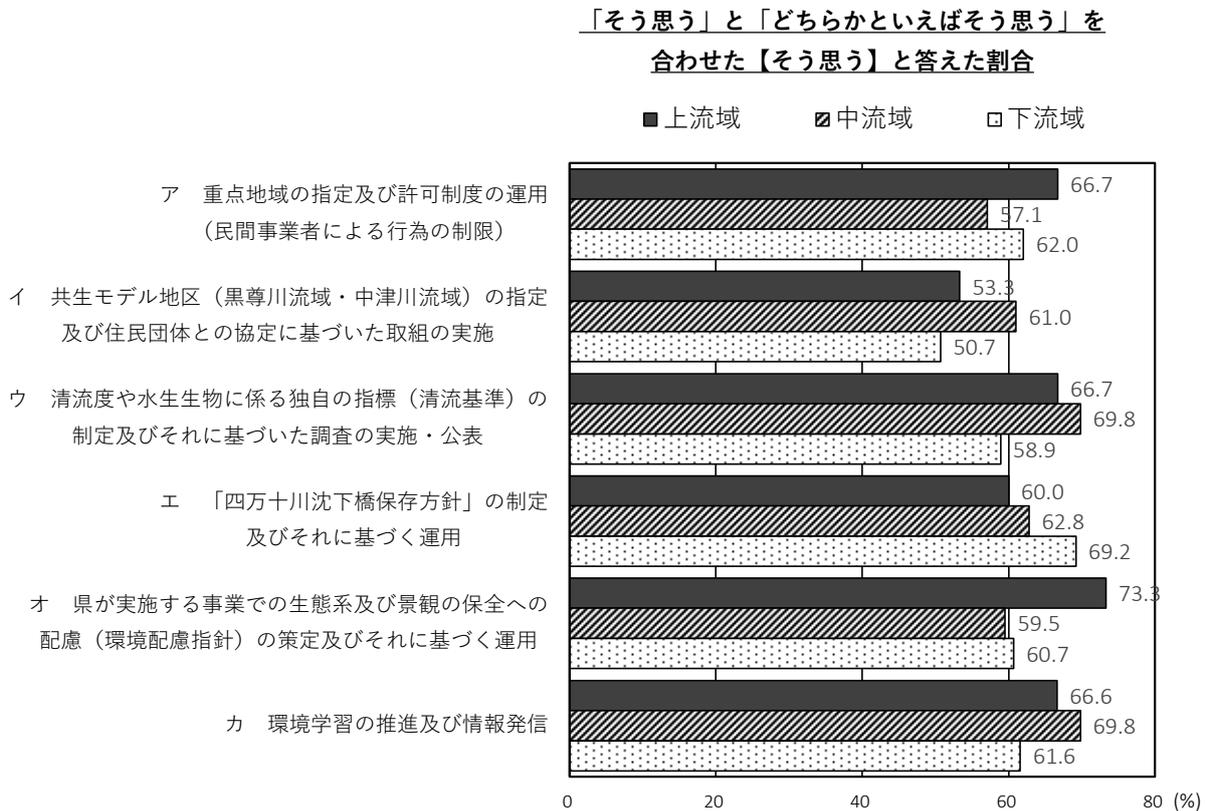


図表 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組 <年齢別>





図表 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組 <居住地域別>



(5) 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組★

問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問5 あなたは、四万十川流域の保全と振興をより進めるためには、どのような取組の強化・内容の充実が必要だと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・『必要』（「必要」＋「どちらかといえば必要」）と答えた割合は、全ての項目で7割以上であった。
- ・全6項目中、『必要』と答えた割合が最も高かったのは、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」の90.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が90.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が89.6%であった。

【性別】

- ・全6項目中5項目で男性より女性のほうが『必要』と答えた割合が高く、最も高くなったのは「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」と「環境学習の推進及び情報発信」で、いずれも96.6%であった。
- ・女性より男性の方が『必要』と答えた割合が高くなった項目は、「重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」の84.2%であった。

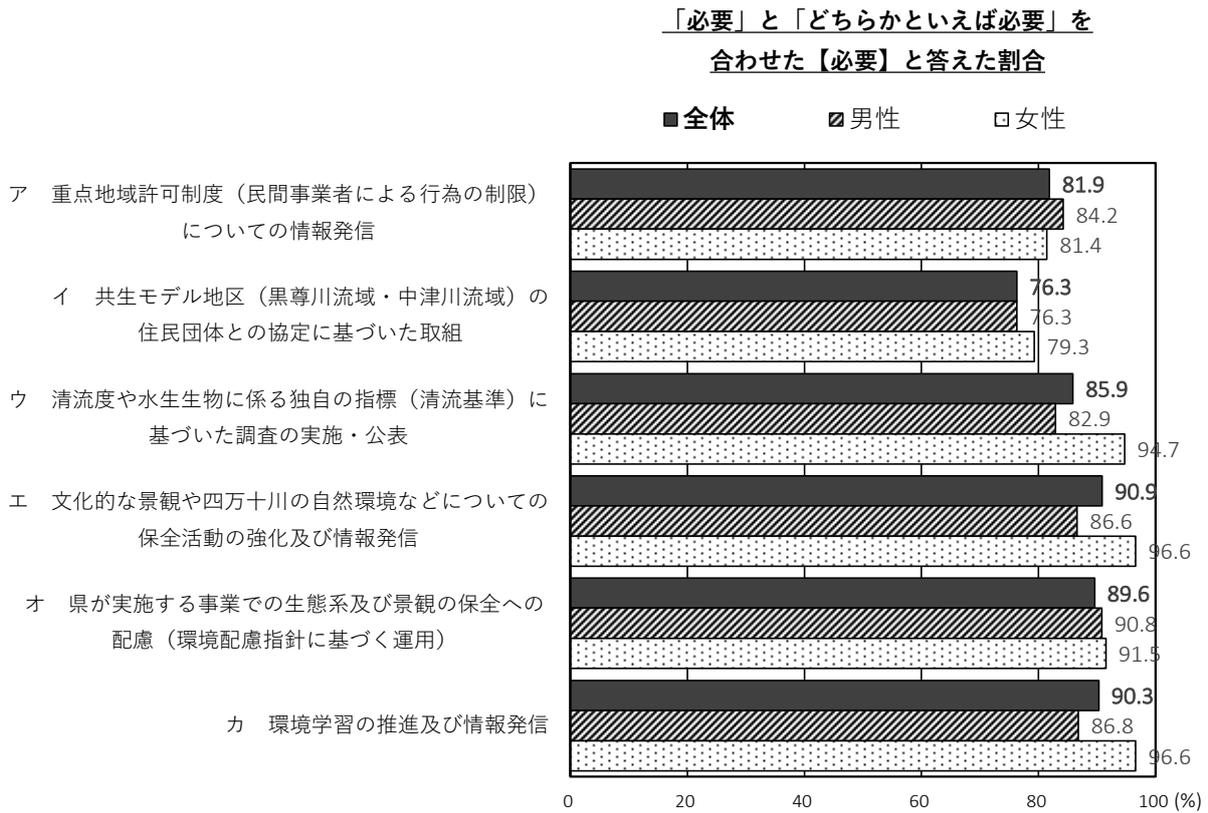
【年齢別】

- ・10歳代では6項目全て『必要』と答えた割合が100.0%で、20歳代も6項目中4項目で『必要』と答えた割合が100.0%となった。
- ・70歳代では「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・公表」「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」「環境学習の推進及び情報発信」において『必要』と答えた割合が9割以上と高くなった。
- ・80歳代以上では「重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」において『必要』と答えた割合が100.0%で、その他の項目は0.0%であった。

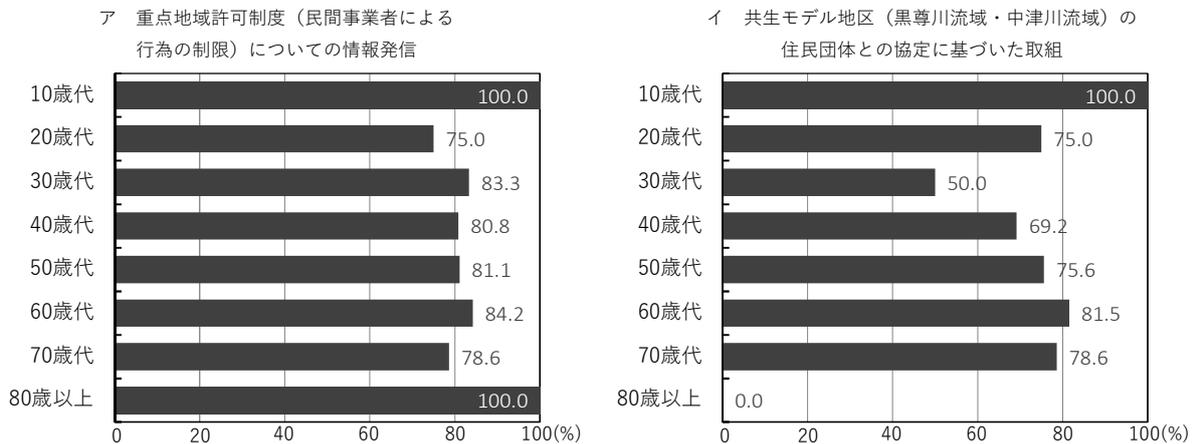
【居住地域別】

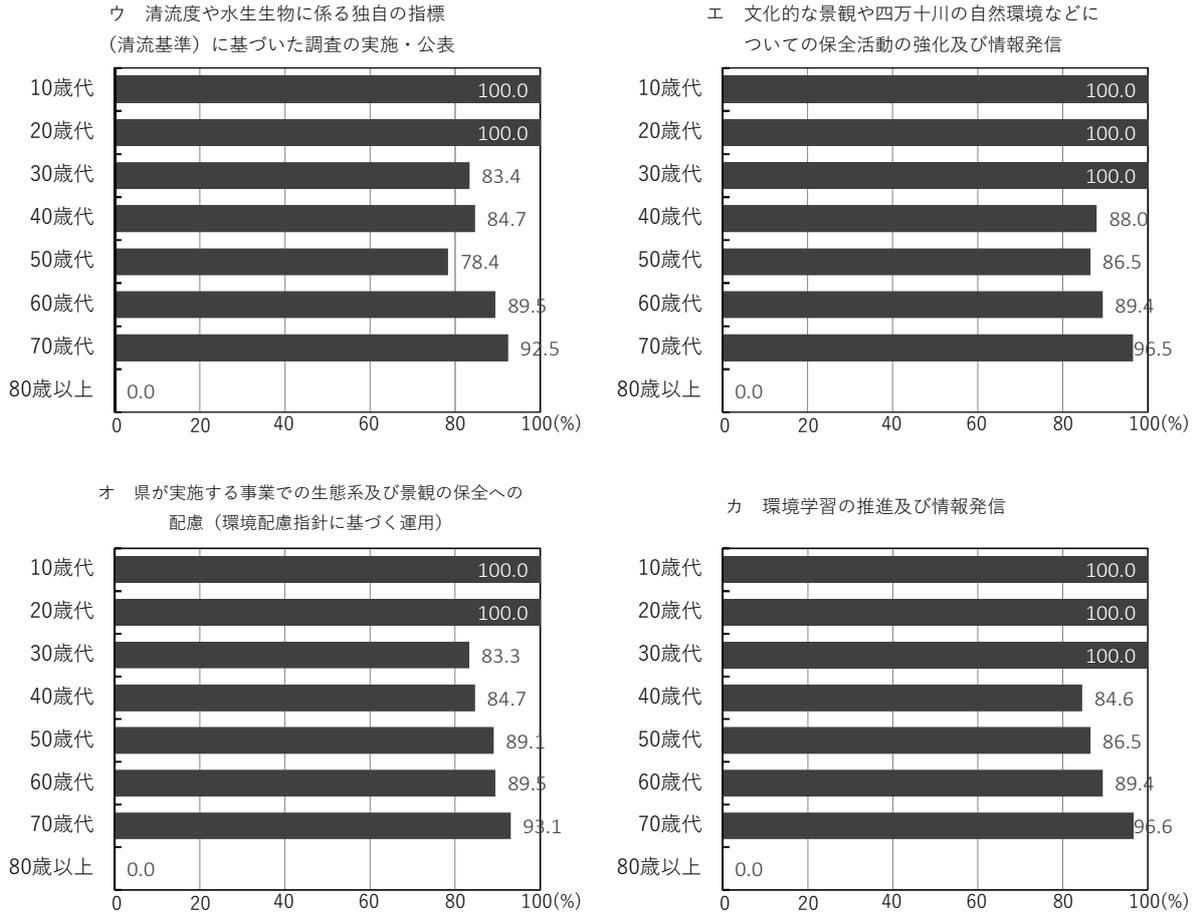
- ・上流域で『必要』と答えた人の割合が高くなったのは、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」「環境学習の推進及び情報発信」であり、いずれも93.8%であった。
- ・中流域で『必要』と答えた人の割合が高くなったのは、「環境学習の推進及び情報発信」の93.0%であった。
- ・下流域で『必要』と答えた人の割合が高くなったのは、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」の92.6%であった。

図表 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組 <全体+性別>



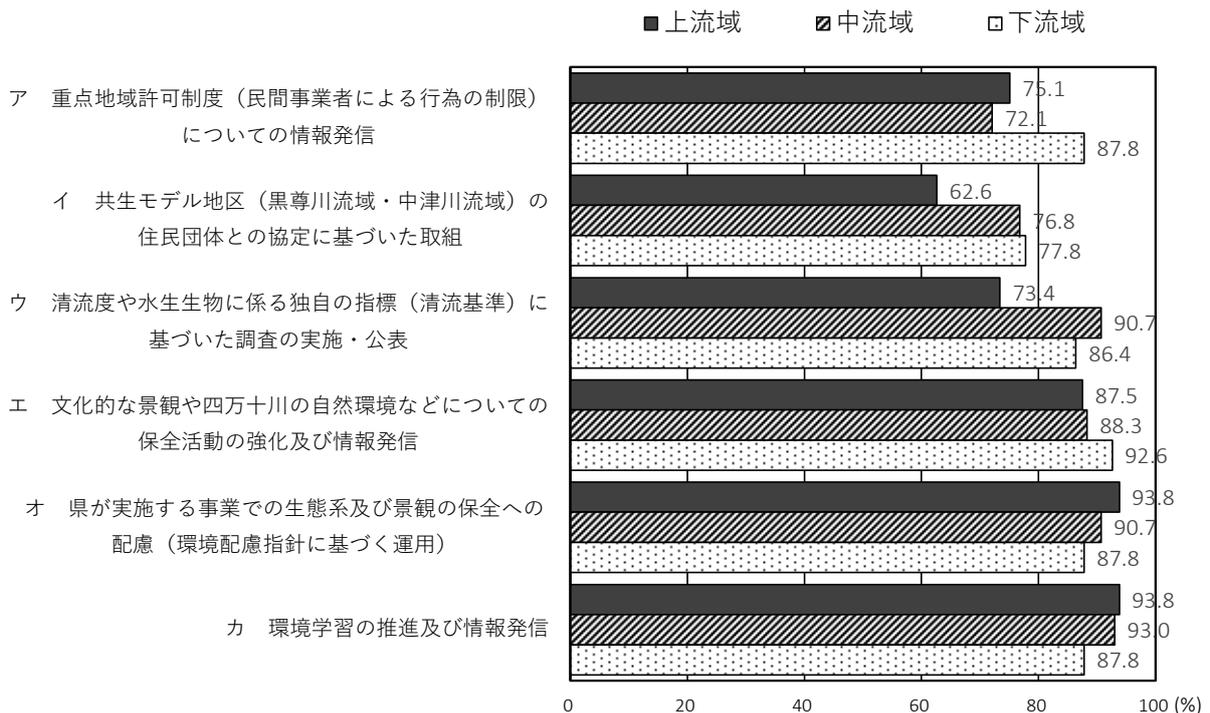
図表 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組 <年齢別>





図表 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組 <居住地域別>

「必要」と「どちらかといえば必要」を
合わせた【必要】と答えた割合



2. 四万十川との関わり

(1) 川に出かけたこと

問6 あなたは、この1年間に仕事以外で川にでかけたことがありますか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、55.7%（前回：47.9%・前々回：53.8%）と前回調査から7.8ポイント増加し、直近3回の調査の中で最も高くなった。

【性別】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、男性が65.0%（前回：54.8%・前々回：61.3%）で、女性が48.8%（前回：42.6%・前々回：47.5%）と男女ともに直近3回の調査の中で最も高くなった。また、女性より男性の方が川に出かける人の割合が2割程度高くなった。

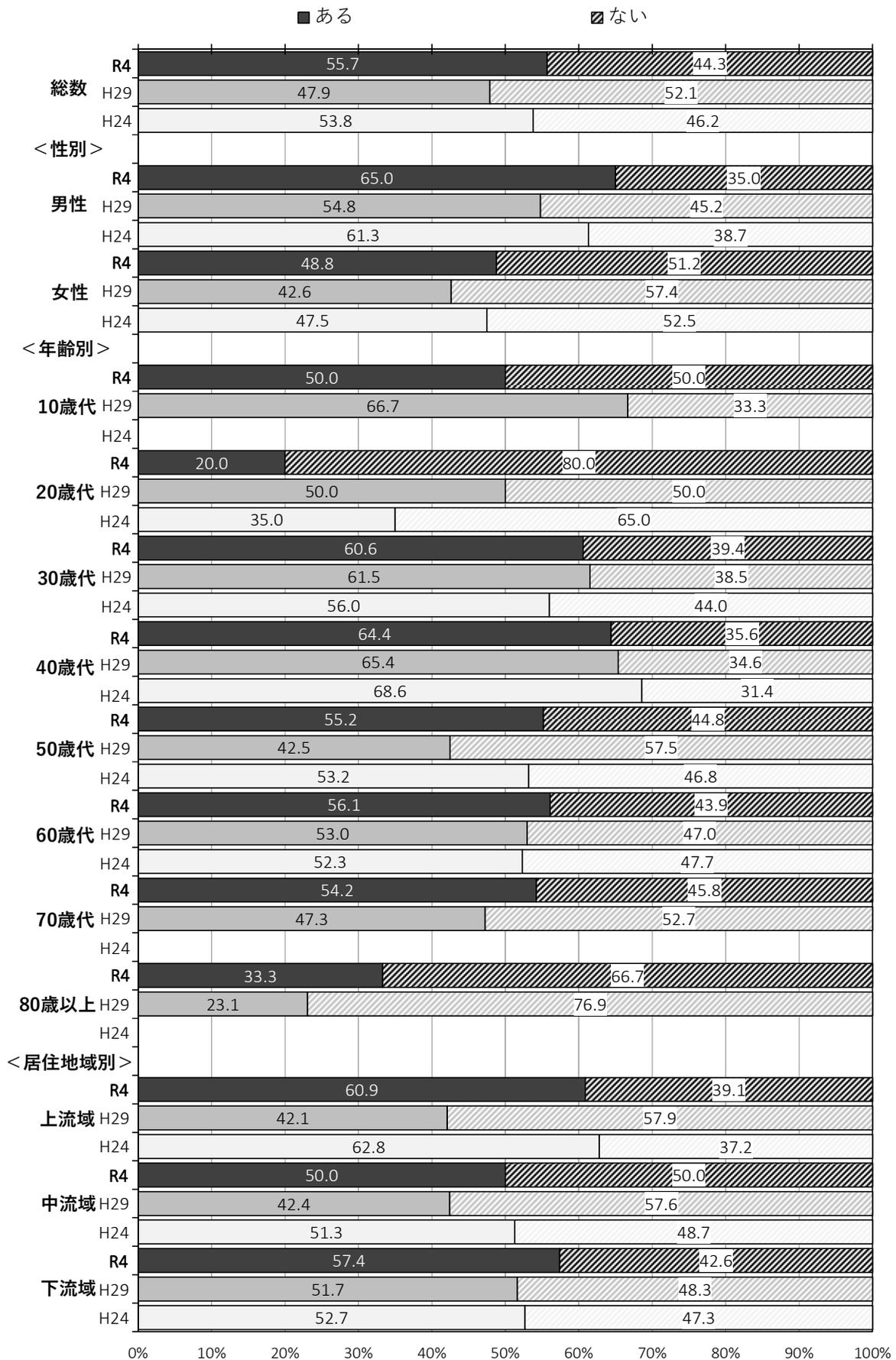
【年齢別】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合が最も高いのは40歳代の64.4%（前回：65.4%・前々回：68.6%）で、直近3回の調査の中で最も低くなった。
- ・「ある」と答えた人の割合が最も低いのは20歳代の20.0%（前回：50.0%・前々回：35.0%）で前回調査から30.0ポイント減少し、直近3回の調査の中で最も低くなった。
- ・50歳代以上の年代では川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合がそれぞれ直近3回の調査の中で最も高くなった。

【居住地域別】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、全ての流域で前回調査より増加し、上流域では60.9%（前回：42.1%・18.8ポイント増加）と最も高く、下流域では57.4%（前回：51.7%・前々回：52.7%）と直近3回の調査の中で最も高くなった。

図表 川に出かけたこと



(2) 川に出かけなかった理由

問6で「ない」と答えた方にお聞きします。

問7 問6で「ない」と答えた理由を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「時間がない」と答えた人の割合は53.6%（前回：38.3%・15.3ポイント増加）が最も高く、次いで「興味がない」が39.2%（前回：39.2%）となった。

【性別】

- ・男女ともに「時間がない」と答えた人の割合は5割以上と最も高くなった。
- ・「興味がない」と答えた人の割合は、男性が49.3%（前回：48.0%・1.3ポイント増加）、女性が34.4%（前回：32.6%・1.8ポイント増加）と、男性が高くなった。

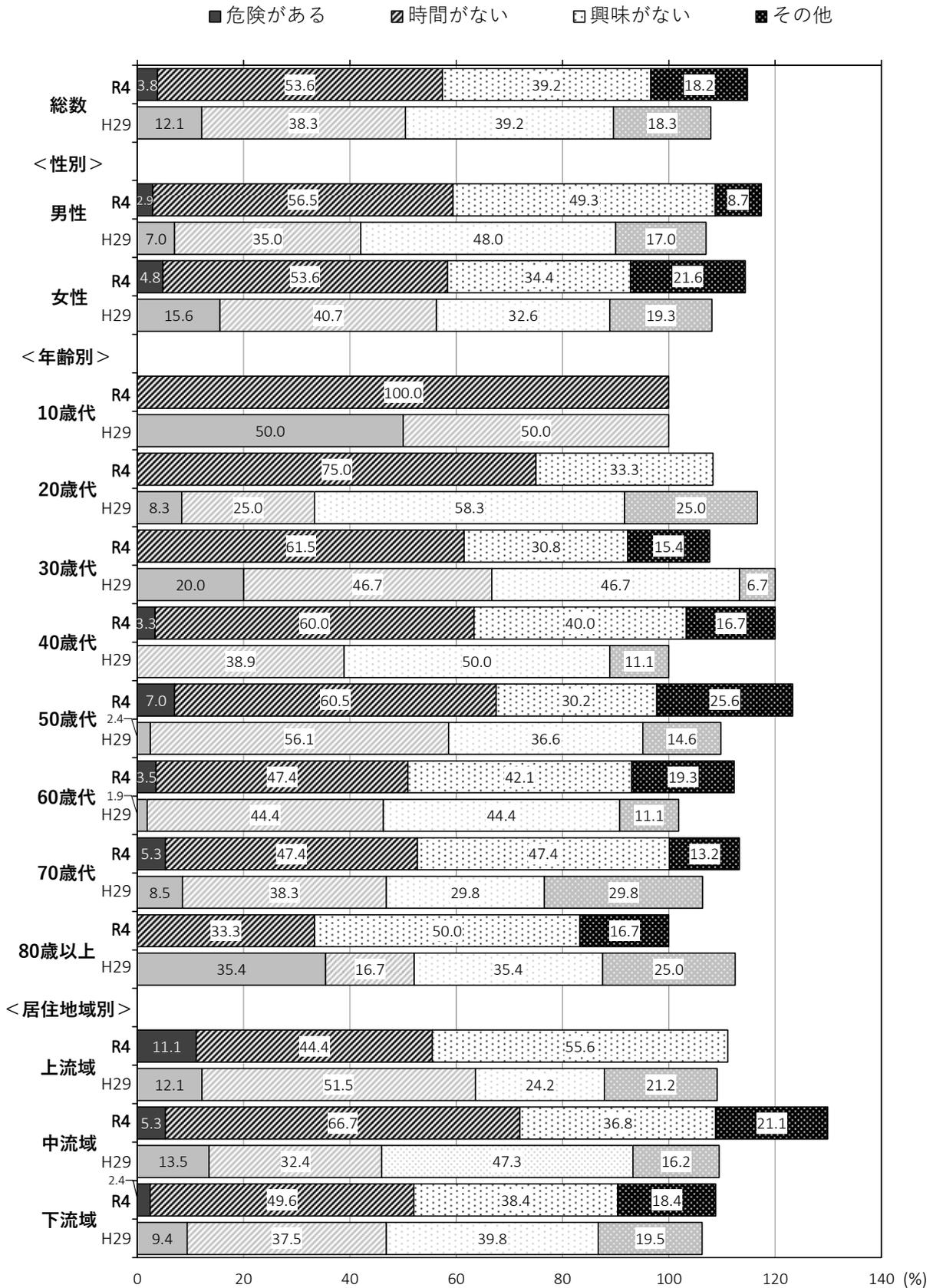
【年齢別】

- ・全ての年代で上位を占めた理由は「時間がない」と「興味がない」であった。
- ・「時間がない」と答えた人の割合が最も高くなったのは10歳代の100.0%（前回：50.0%・50.0ポイント増加）で、次いで20歳代が75.0%（前回：25.0%・50.0ポイント増加）であった。
- ・「興味がない」の割合が最も高くなったのは80歳以上の50.0%（前回：35.4%・14.6ポイント増加）であった。

【居住地域別】

- ・全ての流域で上位を占めた理由は「時間がない」と「興味がない」で、特に中流域では「時間がない」が66.7%（前回：32.4%・34.3ポイント増加）、上流域では「興味がない」が55.6%（前回：24.2%・31.4ポイント増加）と、その他の流域より高くなった。

図表 川に出かけなかった理由



(3) 川に出かけた頻度

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問8 あなたは、この1年間にどれくらい川にでかけましたか。(1つだけ○印)

- ・「年1～2回くらい」と答えた人の割合が37.4%（前回：43.1%）で最も高く、次いで「月1～2回くらい」が24.5%で、「2～3か月に1回くらい」が24.2%であった。
- ・「月1～2回くらい」の24.5%と「週1～2回くらい」の10.6%と「毎日、ほぼ毎日」の3.4%を合わせると38.5%（前回：34.2%・前々回：44.0%）が『月に1～2回くらい』以上（「毎日、ほぼ毎日」+「週1～2回くらい」+「月1～2回くらい」）は川に出かけており、前回調査から4.3ポイント増加したが、前々回より5.5ポイント減少した。

【性別】

- ・『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合は、男性が44.2%（前回：43.7%・前々回：53.9%）で、女性が32.7%（前回：24.5%・前々回：33.7%）であり、いずれも前回調査より増加したが、前々回より減少した。
- ・また、「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は、男性が6.1%（前回：7.6%・前々回：7.0%）、女性が0.8%（前回：2.9%・前々回：6.0%）と、男女ともに減少し、女性の方が毎日川に行く頻度が減少した。

【年齢別】

- ・『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合は、70歳代が51.1%（前回：45.2%・5.9ポイント増加）で最も高くなった。
- ・80歳以上では0.0%（前回：53.3%）であった。
- ・「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は60歳代が8.2%（前回：3.3%・4.9ポイント増加）と最も高くなった。

【居住地域別】

- ・上流域では、『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合が59.2%（前回：37.5%・前々回：42.9%）と直近3回の調査で割合が最も高くなったものの、「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は0.0%（前回：0.0%・前々回：4.1%）であった。
- ・中流域と下流域では『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合はいずれも4割以下であった。

図表 川に出かけた頻度



(4) 川で何をしたか

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問9 あなたは、この1年間に川で、何をしましたか。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は56.4%と最も高く、次いで「水泳、水遊び」33.3%であった。

【性別】

- ・男女ともに「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は5割以上を占めており、特に女性では63.0%と高くなった。

【年齢別】

- ・30歳代～40歳代を除いた全ての年代で「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は5割以上を占めており、特に10歳代～20歳代では100.0%と最も高くなった。
- ・30歳代～40歳代では、「水泳、水遊び」が6割以上と最も高くなった。

【居住地域別】

- ・いずれの地域も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は5割以上を占めており、特に下流域では60.4%と高くなった。

【川に出かけた頻度別】

- ・いずれの頻度も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合が最も高く、特に毎日、ほぼ毎日では88.9%と最も高くなった。
- ・「アユ以外の釣り、魚とり」「アユ釣り、アユとり」と答えた人は、「週に1～2回以上」川に出かけていた。

図表 川で何をしたか

単位=(%) 網掛け=		散歩、ジョギング、散策	水泳、水遊び	清掃活動などのボランティア活動	アコ以外の釣り、魚とり	キャンプ、バーベキュー	その他	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	アコ釣り、アユ釣り	ボート、カヌーなど
		1位	2位							
全体		56.4	33.3	17.0	14.4	11.7	11.7	10.2	9.1	5.3
性別	男性	50.8	35.4	16.2	21.5	12.3	10.8	3.1	16.2	8.5
	女性	63.0	31.9	17.6	5.9	11.8	12.6	16.8	2.5	0.8
年齢別	10歳代	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	100.0	66.7	-	-	33.3	-	-	-	33.3
	30歳代	30.0	60.0	-	25.0	25.0	10.0	5.0	-	-
	40歳代	55.2	60.3	10.3	15.5	20.7	6.9	5.2	1.7	15.5
	50歳代	60.8	21.6	11.8	19.6	15.7	23.5	5.9	13.7	3.9
	60歳代	57.5	23.3	27.4	9.6	4.1	12.3	5.5	17.8	2.7
	70歳代	57.8	15.6	24.4	13.3	4.4	6.7	31.1	6.7	-
	80歳以上	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-
居住地域別	上流域	51.9	40.7	33.3	22.2	3.7	7.4	22.2	7.4	3.7
	中流域	50.0	29.3	34.5	13.8	10.3	10.3	6.9	15.5	6.9
	下流域	60.4	33.7	7.7	13.6	13.6	13.6	8.3	7.7	4.7
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	88.9	-	11.1	33.3	-	22.2	22.2	22.2	11.1
	週1~2回くらい	57.1	32.1	14.3	25.0	7.1	7.1	21.4	32.1	10.7
	月1~2回くらい	73.0	31.7	14.3	12.7	20.6	15.9	14.3	9.5	3.2
	2~3か月に1回くらい	62.5	37.5	25.0	18.8	15.6	10.9	6.3	1.6	6.3
	年1~2回くらい	39.4	35.4	15.2	8.1	6.1	9.1	6.1	6.1	4.0

(5) 四万十川の環境や景観の変化★

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問10 あなたは、四万十川の環境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。ア～キのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・全7項目中、『良くなった』（「良くなった」＋「どちらかといえばよく良くなった」）が『悪くなった』（「悪くなった」＋「どちらかといえば悪くなった」）を上回ったものは、「季節ごとの優れた景観を有している」の1項目のみで、『良くなった』と答えた人の割合は31.1%であった。
- ・『悪くなった』と答えた人の割合が最も高くなったのは「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.2%で、次いで「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」が43.1%、「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」が35.0%であった。

【性別】

- ・全7項目全ての項目で女性のほうが男性より『良くなった』と答えた人の割合が高く、特に「季節ごとの優れた景観を有している」は『良くなった』と答えた女性の割合は37.3%と、男性の割合の26.5%と10.8ポイントの差が生じた。
- ・『悪くなった』と答えた人の割合が最も高くなったのは、男性が「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.7%で、女性は「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」の42.7%であった。

【年齢別】

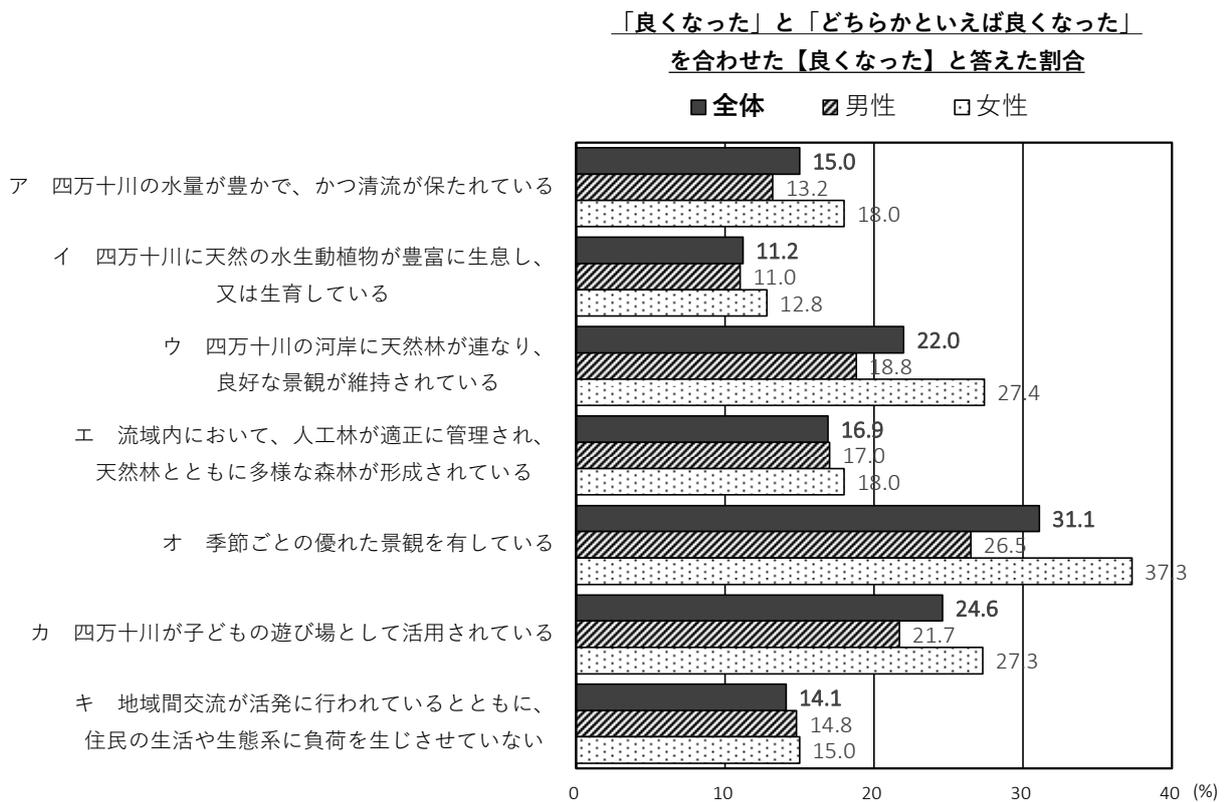
- ・全ての年代で「季節ごとの優れた景観を有している」と答えた人の割合は『良くなった』が『悪くなった』を上回った。
- ・50～70歳代では「季節ごとの優れた景観を有している」以外の全ての項目で『悪くなった』が『良くなった』を上回った。
- ・60～70歳代では、「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」は『悪くなった』と答えた人の割合が5割以上と最も高くなった。

【居住地域別】

- ・上流域で『良くなった』と答えた人の割合が『悪くなった』を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」（33.3ポイント差）、「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」（22.2ポイント差）及び「地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない」（7.4ポイント差）の3項目であった。
- ・中流域及び下流域で『良くなった』と答えた人の割合が『悪くなった』を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」（中流域：7.0ポイント差・下流域：18.1ポイント差）の1項目のみであった。

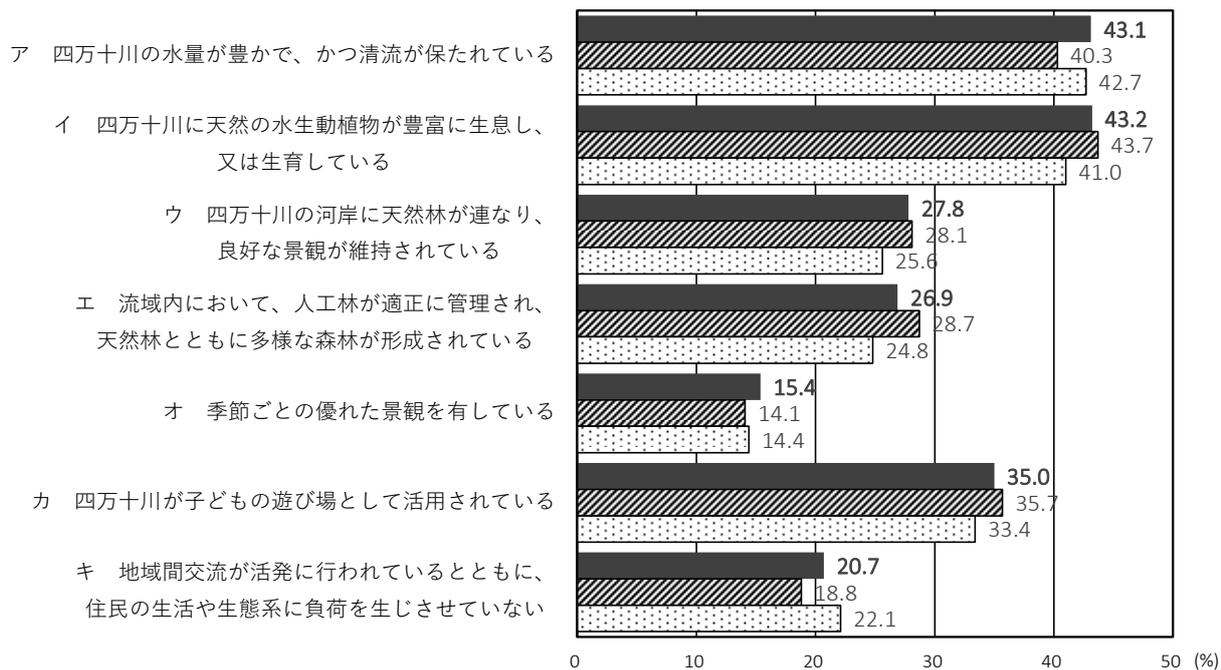
・全流域で『悪くなった』と答えた人の割合が『良くなった』を最も上回ったのは、「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」（上流域：29.6ポイント差・中流域：29.3ポイント差・下流域：33.3ポイント差）で、次いで上流域では「流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている」（25.9ポイント差）、中流域及び下流域では「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」（中流域：24.2ポイント差・下流域：29.6ポイント差）であった。

図表 四万十川的环境や景観の変化 <全体+性別>



「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」
を合わせた【悪くなった】と答えた割合

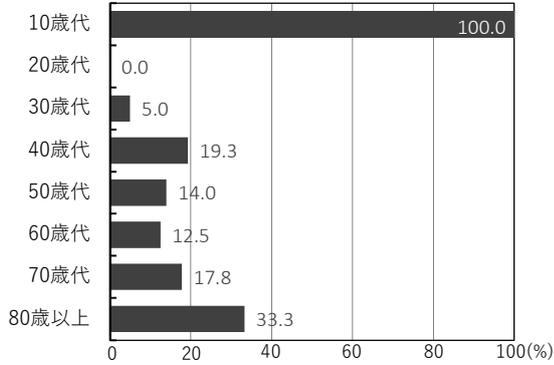
■全体 ▨男性 □女性



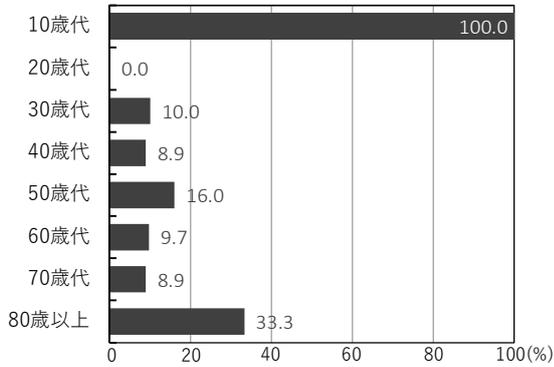
図表 四万十川の環境や景観の変化 <年齢別>

「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった】と答えた割合

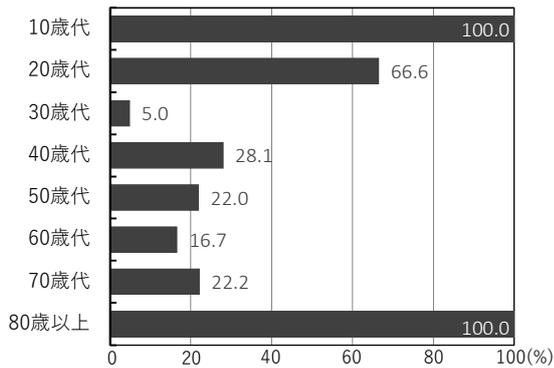
ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている



イ 四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している

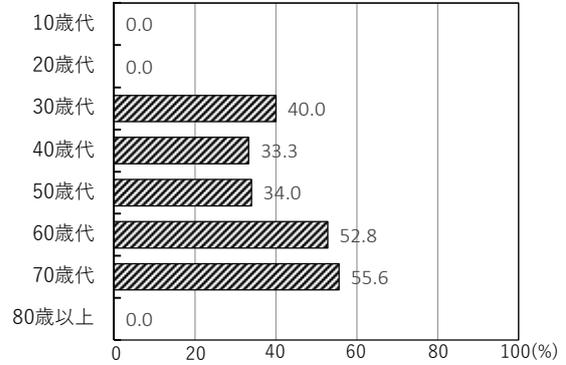


ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている

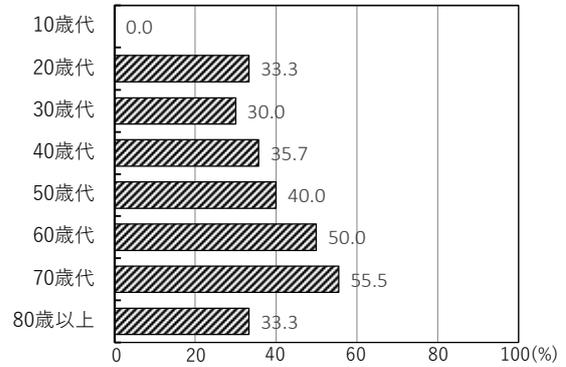


「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」を合わせた【悪くなった】と答えた割合

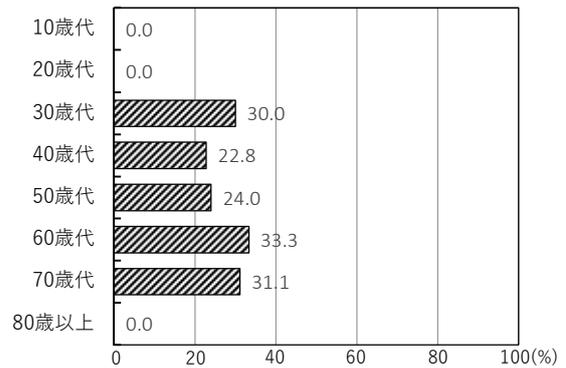
ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている



イ 四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している

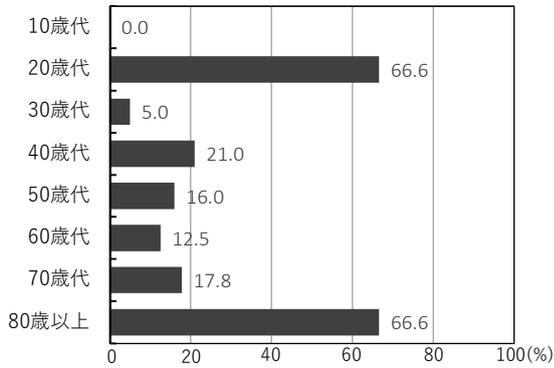


ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている



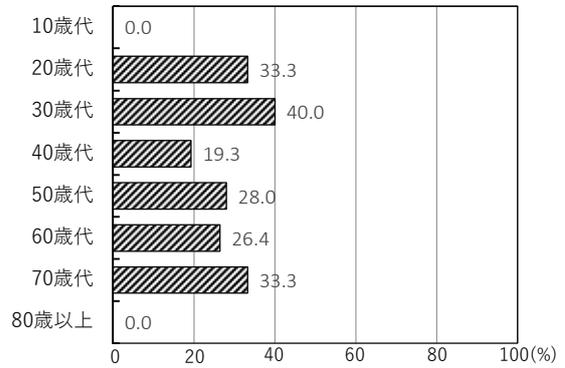
「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった】と答えた割合

エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている

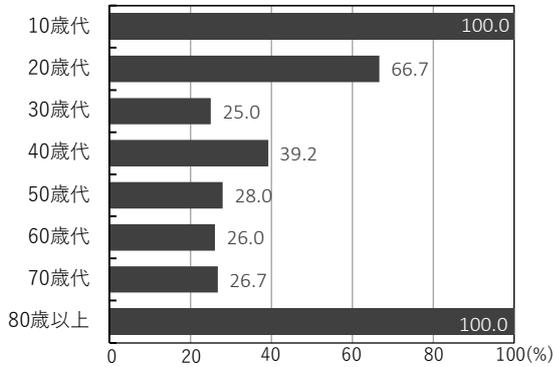


「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」を合わせた【悪くなった】と答えた割合

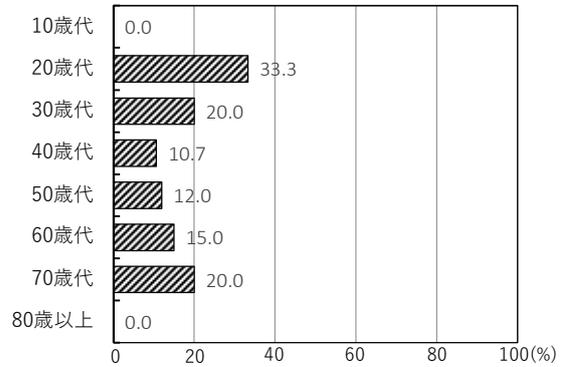
エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている



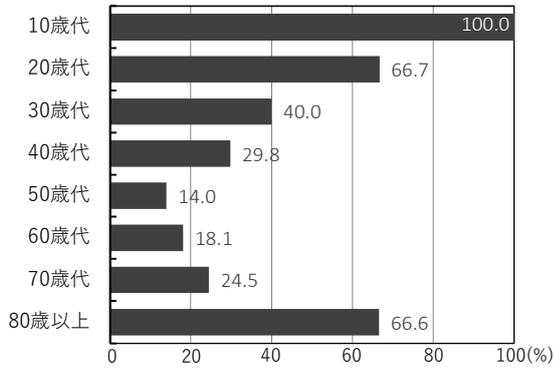
オ 季節ごとの優れた景観を有している



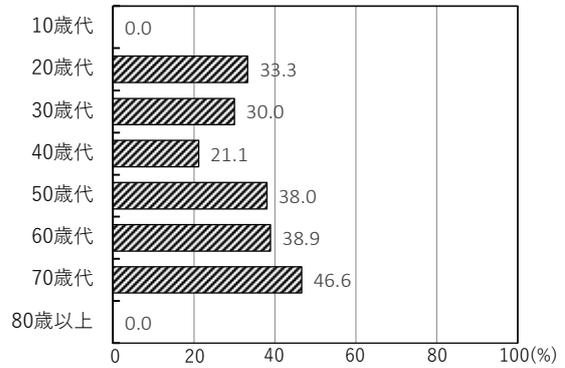
オ 季節ごとの優れた景観を有している



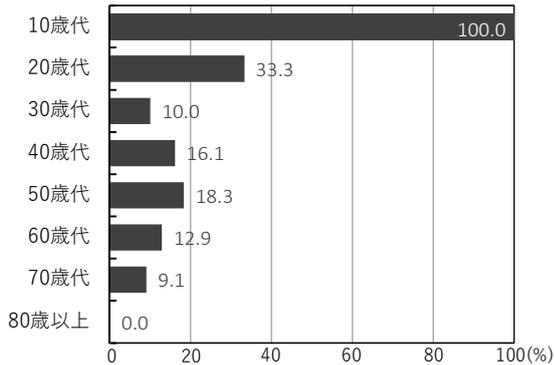
カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている



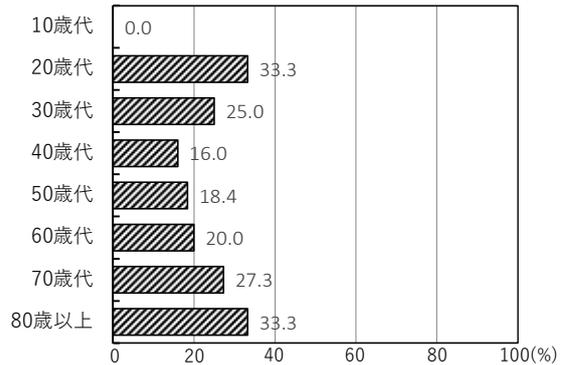
カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている



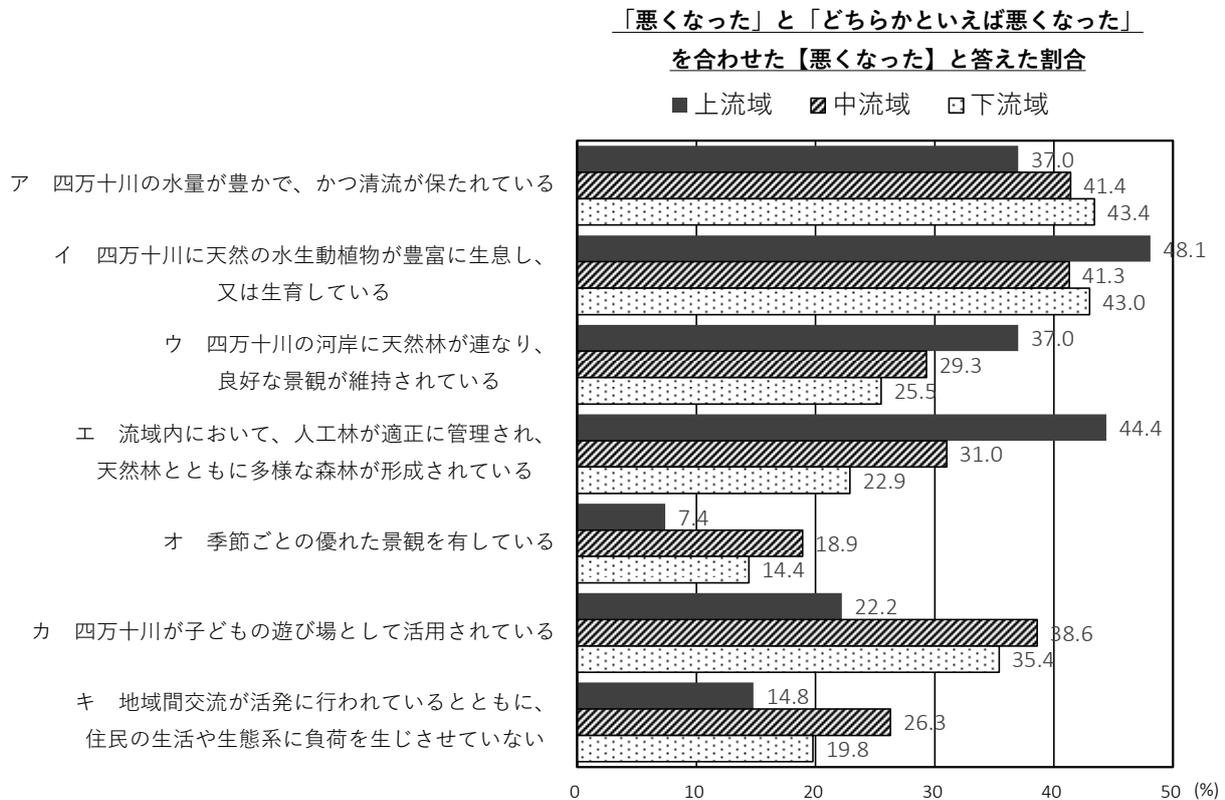
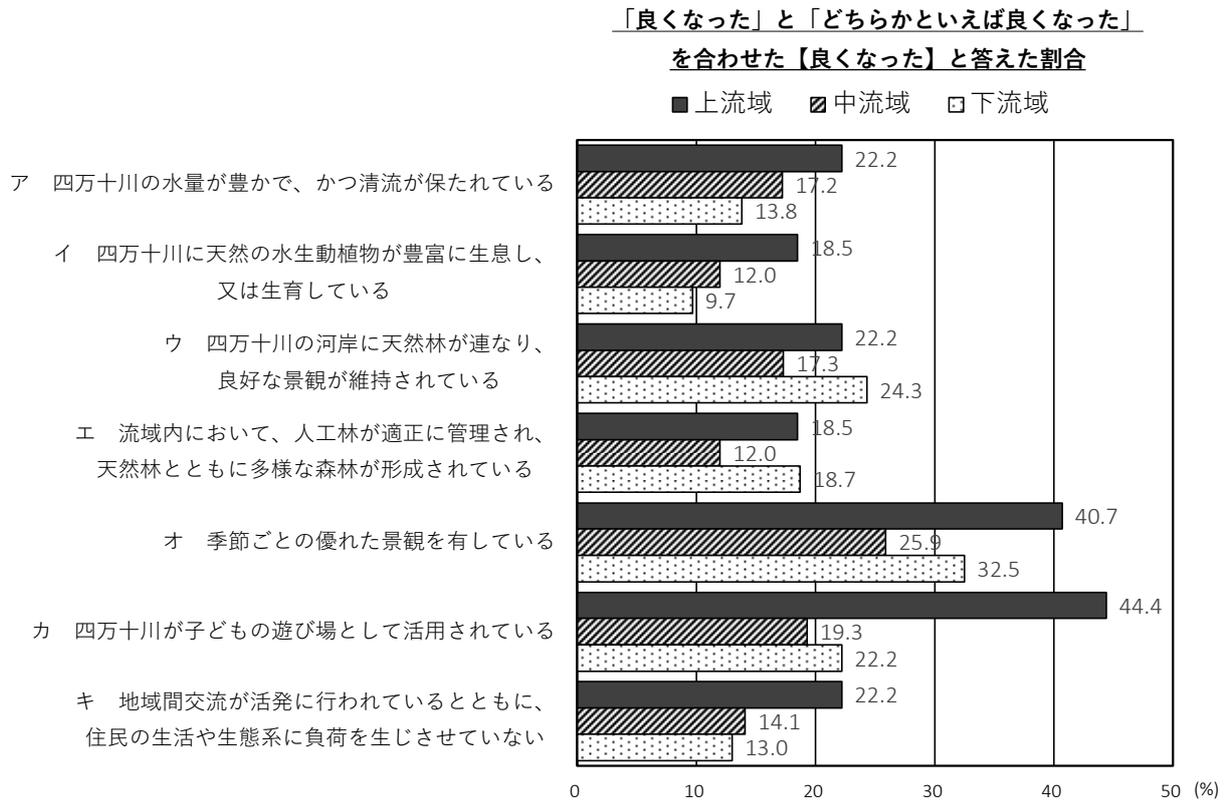
キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない



キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない



図表 四万十川の環境や景観の変化 <居住地域別>



3. 環境を守る行動や意欲

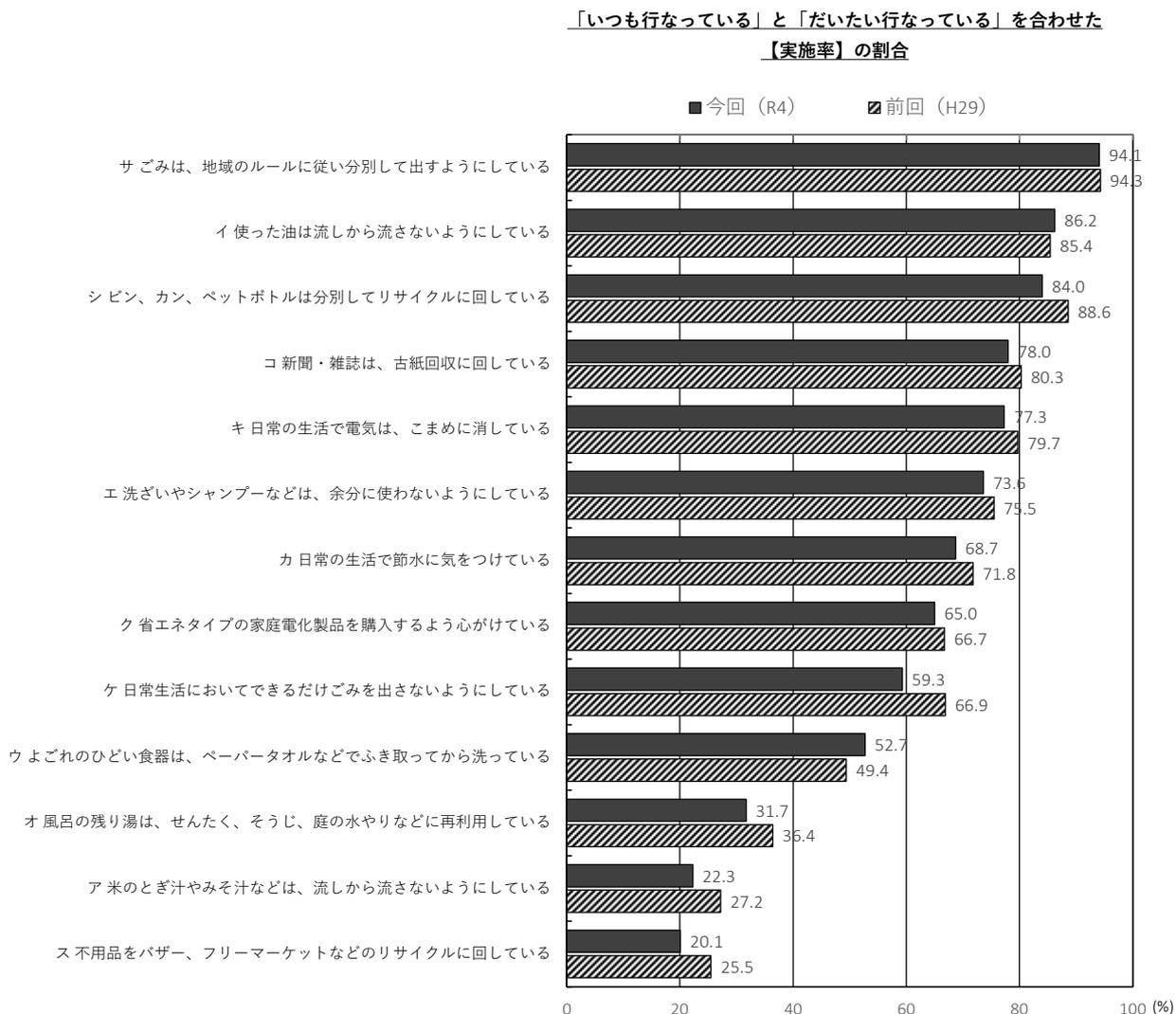
(1) 環境を守る行動

問11 あなたは、次のことがらについて、日頃どの程度行なっていますか。ア～スのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・13項目中11項目において、前回調査よりも『実施率』（「いつも行っている」+「だいたい行っている」）が減少した。
- ・『実施率』の高い順に並べた項目ごとの順位は、第1位は変わらず「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」94.1%（前回：94.3%・0.2ポイント減少）であったが、第2位が「使った油は流しから流さないようにしている」86.2%で、前回調査の第3位から0.8ポイント増加した。
- ・前回調査と比べて、「よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」52.7%が3.3ポイントと最も増加した一方で、「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」59.3%が7.6ポイントと最も減少した。

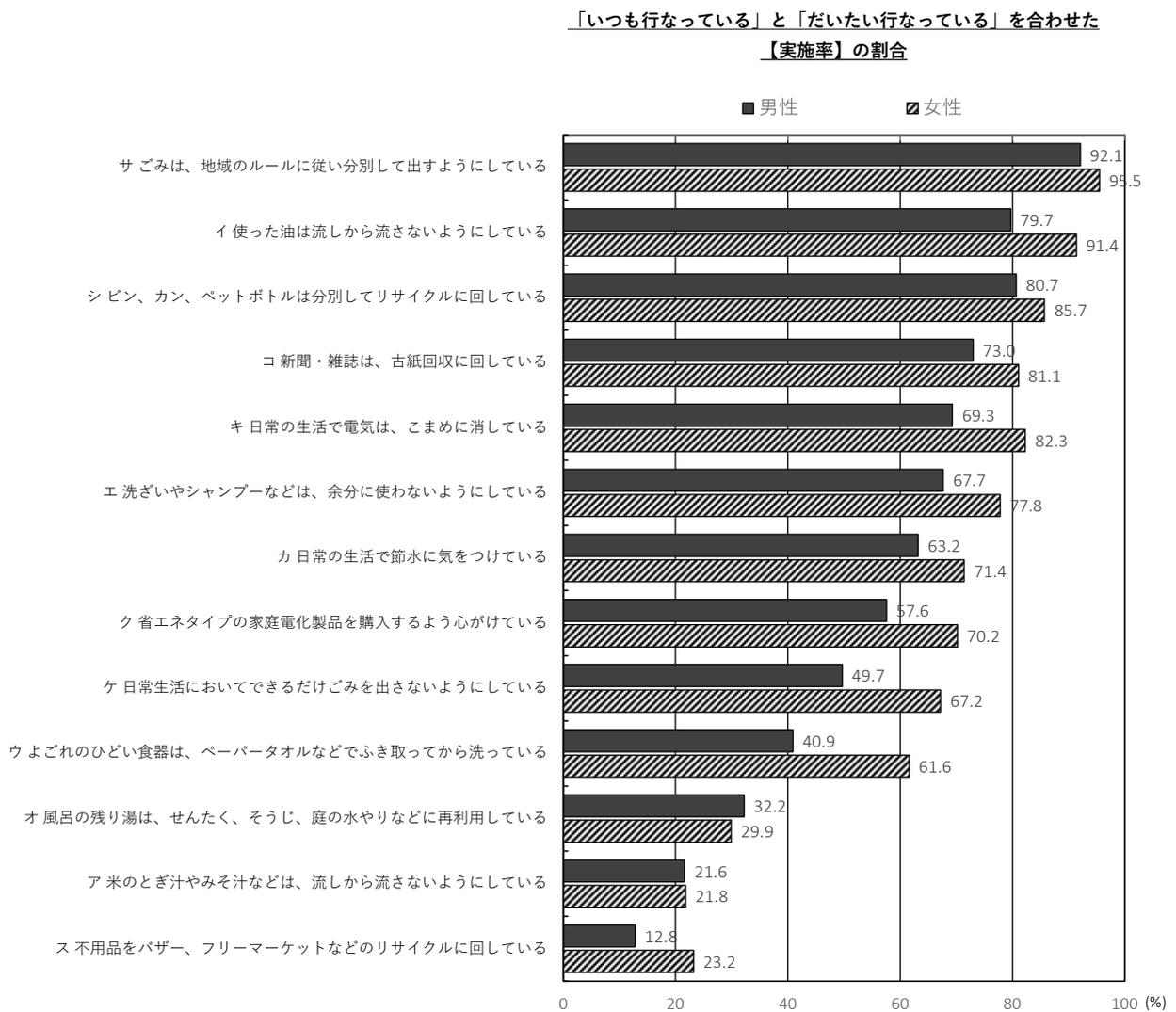
図表 環境を守る行動 <前回調査との比較>



【性別】

- ・13項目中12項目において、男性より女性の方が『実施率』が高くなった。
- ・男女とも、「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」（男性：92.1%・女性：95.5%）の『実施率』が最も高く、自治体ごとのごみ分別ルールが浸透している様子がうかがえる。また、女性は「使った油は流しから流さないようにしている」91.4%も高くなった。
- ・男女とも、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」（男性：12.8%・女性：23.2%）「米のとき汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」（男性：21.6%・女性：21.8%）の『実施率』が低くなった。
- ・なお、前者のバザー、フリーマーケットについてはそれ自体が開催される機会が少ない可能性がある。

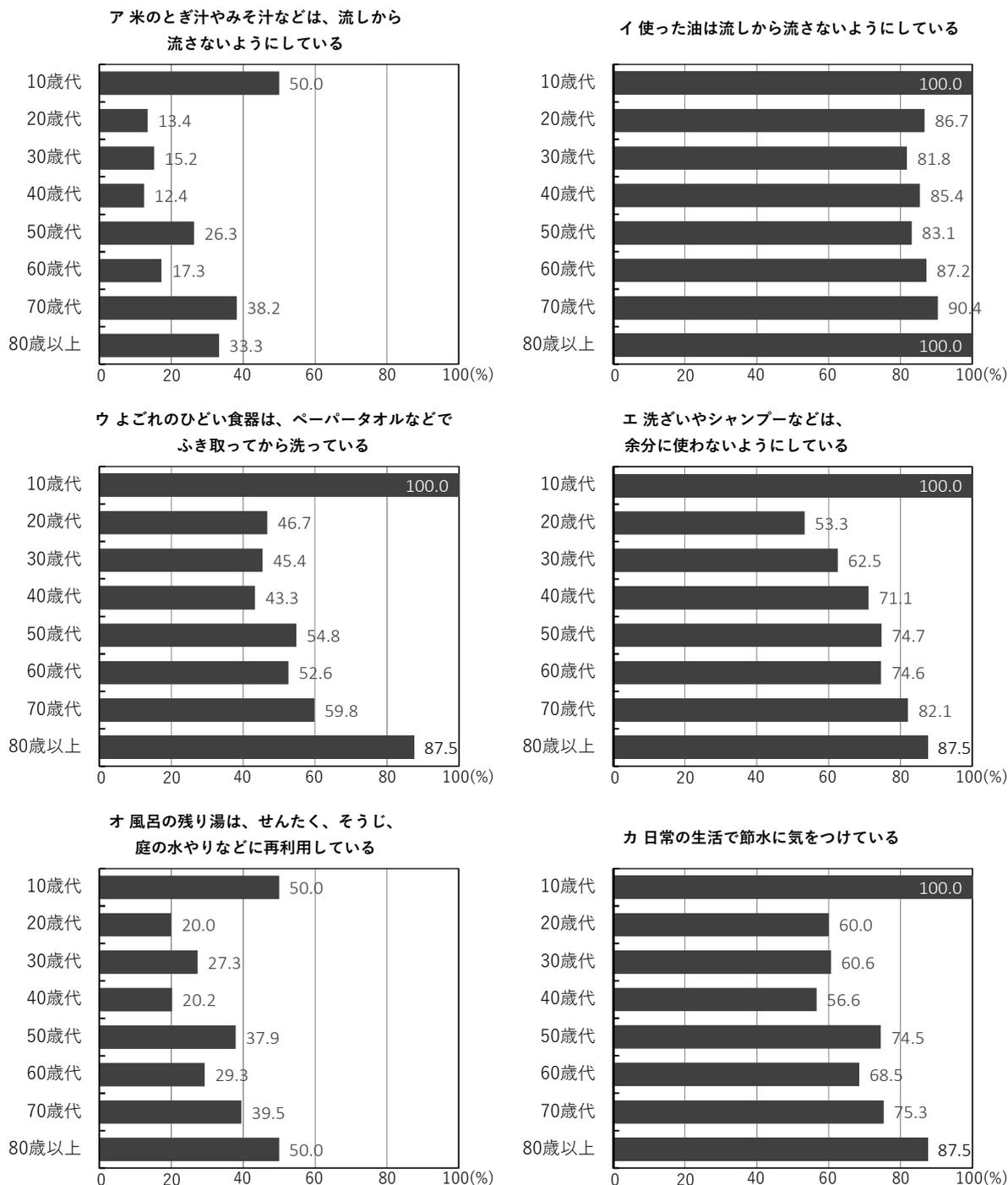
図表 環境を守る行動 <性別>



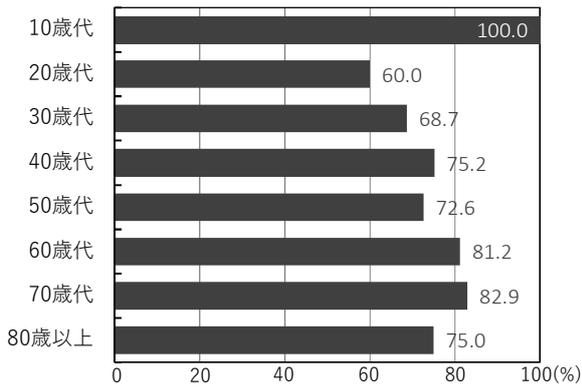
【年齢別】

- ・全ての年代において「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」が最も『実施率』が高くなった。また、20歳代と40歳代を除いた全ての年代で「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」の『実施率』が8割を超えていることから、地域ごとのごみ分別ルールが浸透している状況がうかがえる。
- ・ほとんどの項目において、50歳代～80歳以上の『実施率』が20歳代～40歳代に比べて高い傾向がみられた。

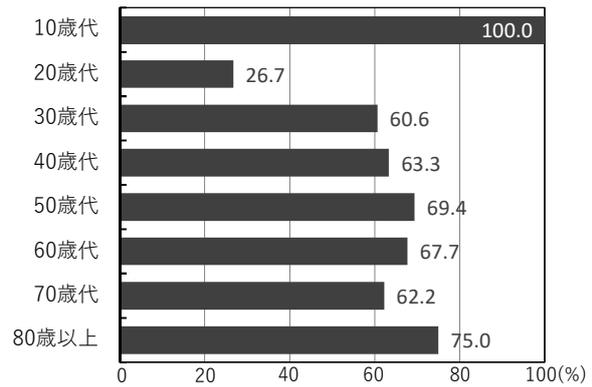
図表 環境を守る行動 <年齢別>



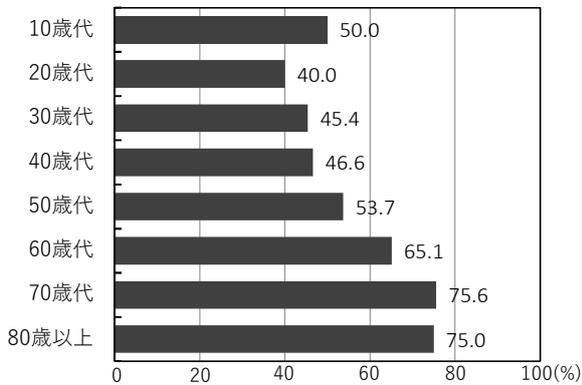
キ 日常の生活で電気は、こまめに消している



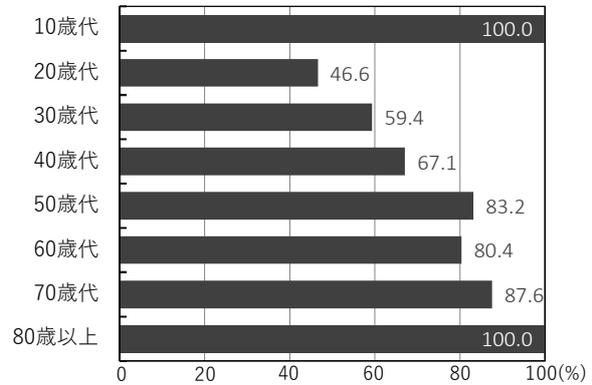
ク 省エネタイプの家庭電化製品を購入するよう心がけている



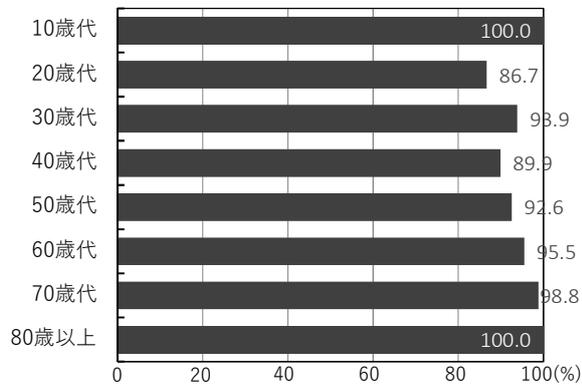
ケ 日常生活においてできるだけごみを
出さないようにしている



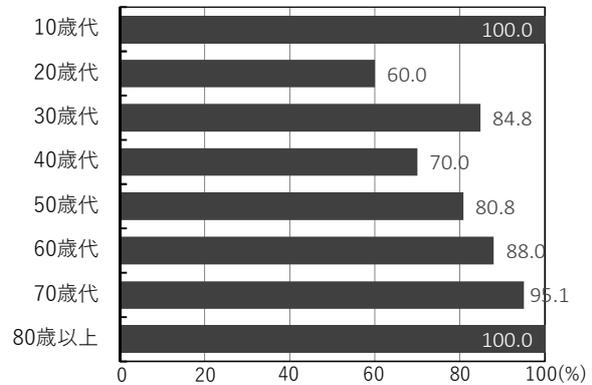
コ 新聞・雑誌は、古紙回収に回している



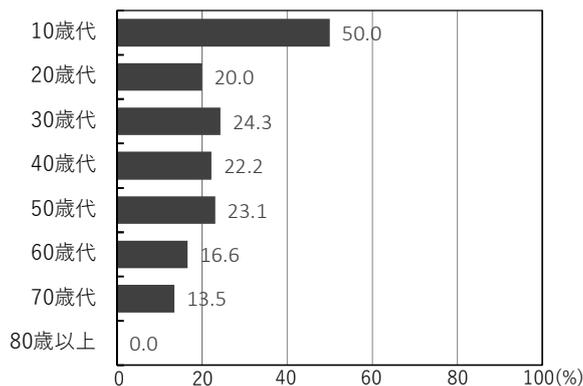
サ ごみは、地域のルールに従い分別して
出すようにしている



シ ビン、カン、ペットボトルは分別して
リサイクルに回している



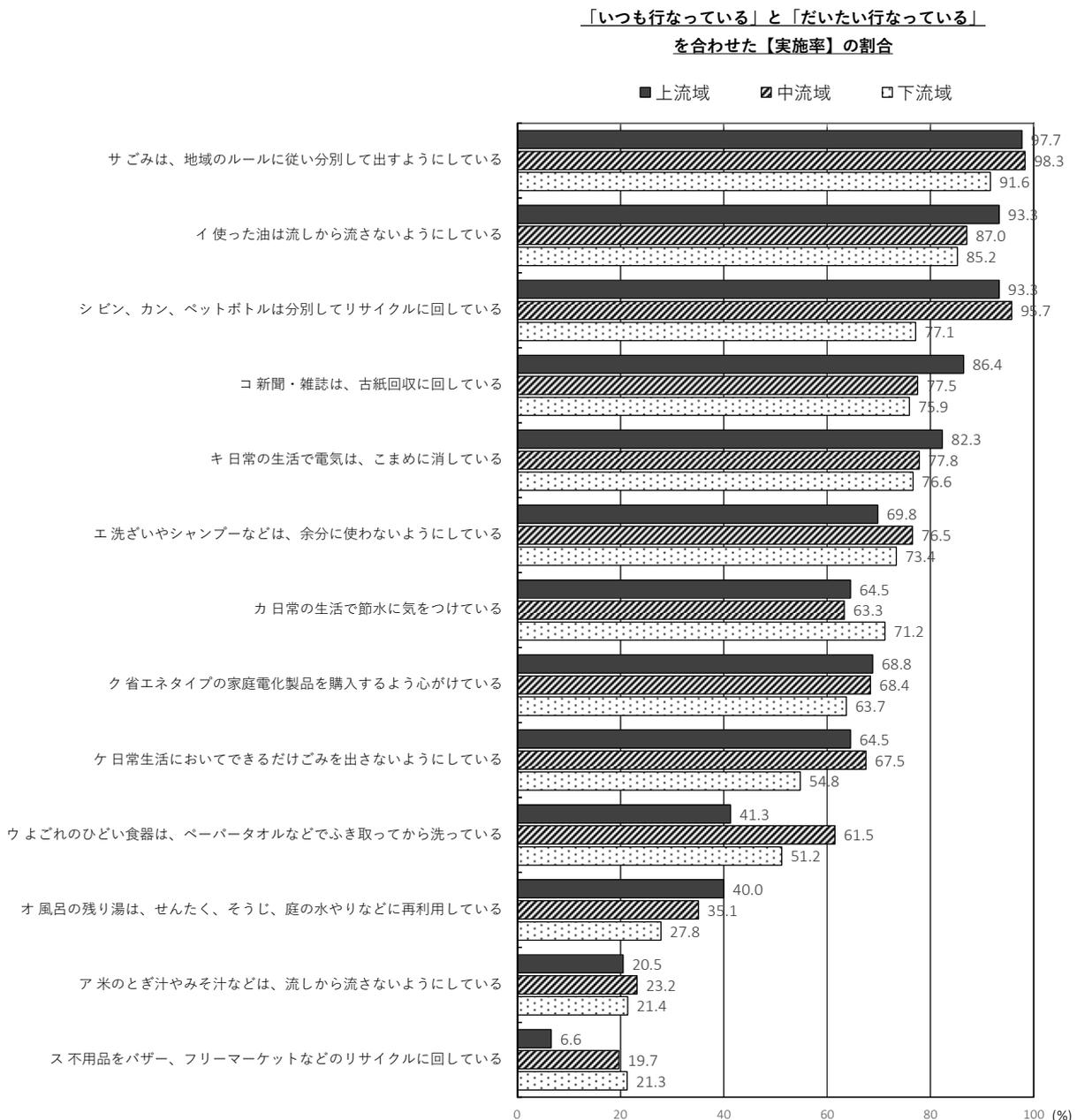
ス 不用品をバザー、フリーマーケットなどの
リサイクルに回している



【居住地域別】

- ・すべての流域において「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」の『実施率』が最も高くなった。
- ・上流域では中流域及び下流域と比べて「よごれのひどい食器はペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」と「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」が特に『実施率』が低くなった。
- ・下流域では上流域及び中流域と比べて「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」と「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」が特に『実施率』が低くなった。

図表 環境を守る行動 <居住地域別>



(2) 家庭での水切り袋などの設置

問12 あなたのご家庭では、日頃、流しの排水口や三角コーナーで水切り袋などを使っていますか。
(水切り袋が不要なシステムキッチンなどの場合は1を選んでください。)(1つだけ○印)

【全体】

・「いつも使っている」と答えた人の割合は80.1%で、「まあ使っている」と答えた人の割合の8.2%と合わせた『使用率』(「いつも使っている」+「まあ使っている」)は88.3%(前回:77.1%)で11.2ポイント増加しており、水切り袋の設置等が浸透している状況がうかがえる。

【性別】

・「いつも使っている」と答えた人の割合は男女ともに前回調査から増加し、『使用率』は男性が86.6%(前回:77.6%・9.0ポイント増加)で、女性が89.2%(前回:77.4%・11.8ポイント増加)と男性より女性の方が僅かであるが『使用率』が高くなった。

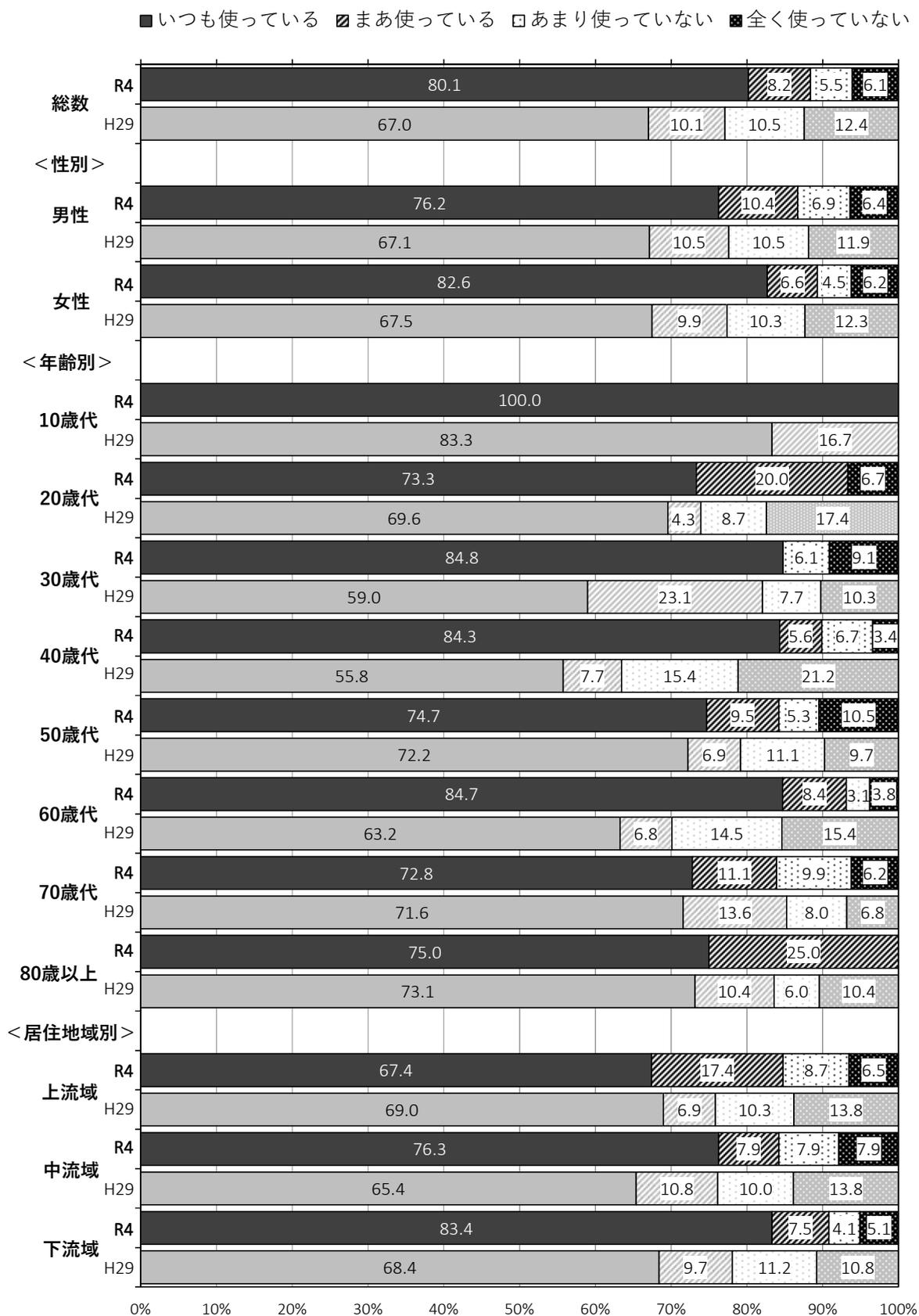
【年齢別】

・『使用率』が最も高くなったのは10歳代と80歳以上が100.0%で、70歳代を除いた全ての年代で『使用率』が増加した。

【居住地域別】

・『使用率』が最も高くなったのは下流域で、90.9%(前回:78.1%)と前回調査から12.8ポイントと増加した。

図表 家庭での水切り袋などの設置



(3) 家庭での生ごみのたい肥(ひ)化への取組

問 13 あなたのご家庭では、日頃、コンポスト容器や電気式の生ごみ処理機などを利用して、家庭から出る生ごみのたい肥(ひ)化に取り組んでいますか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・「いつもしている」と答えた人の割合は11.6%で、「まあしている」と答えた人の割合の7.4%と合わせた『実施率』(「いつもしている」+「まあしている」)は19.0%(前回:33.9%)で前回調査から14.9ポイント減少した。

【性別】

- ・『実施率』は男性が14.5%(前回:34.0%・19.5ポイント減少)で、女性が21.9%(前回:34.2%・12.3ポイント減少)であり、男女ともに前回調査から10ポイント以上減少した。

【年齢別】

- ・『実施率』が最も高くなったのは70歳代の33.4%であった。
- ・30歳代を除いた全ての年代で『実施率』が減少しており、特に10歳代~20歳代と40歳代の『実施率』は1割以下と低くなった。

【居住地域別】

- ・「いつもしている」と答えた人の割合は上流域が29.8%(前回:25.9%)で、前回調査から3.9ポイント増加した。
- ・『実施率』は全ての流域で減少しているが、『実施率』が最も高くなったのは上流域の42.6%で、最も低くなった下流域の11.5%と比べると、31.1ポイントの差があった。

図表 家庭での生ごみのたい肥(ひ)化への取組



(4) 環境に関する活動への参加の有無

問 14 あなたは、講演会などの催しや、植樹、間伐(かんばつ)、リサイクル活動、美化・清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

【全体】

・「ある」と答えた人の割合は、36.8%（前回：42.3%）と前回調査から5.5ポイント減少した。

【性別】

・「ある」と答えた人の割合は、男性が40.9%（前回：45.5%・4.6ポイント減少）で、女性は32.9%（前回：39.5%・6.6ポイント減少）といずれも前回調査から割合が減少した。

・前回調査と同様、「ある」と答えた人の割合は男性の方が高くなった。

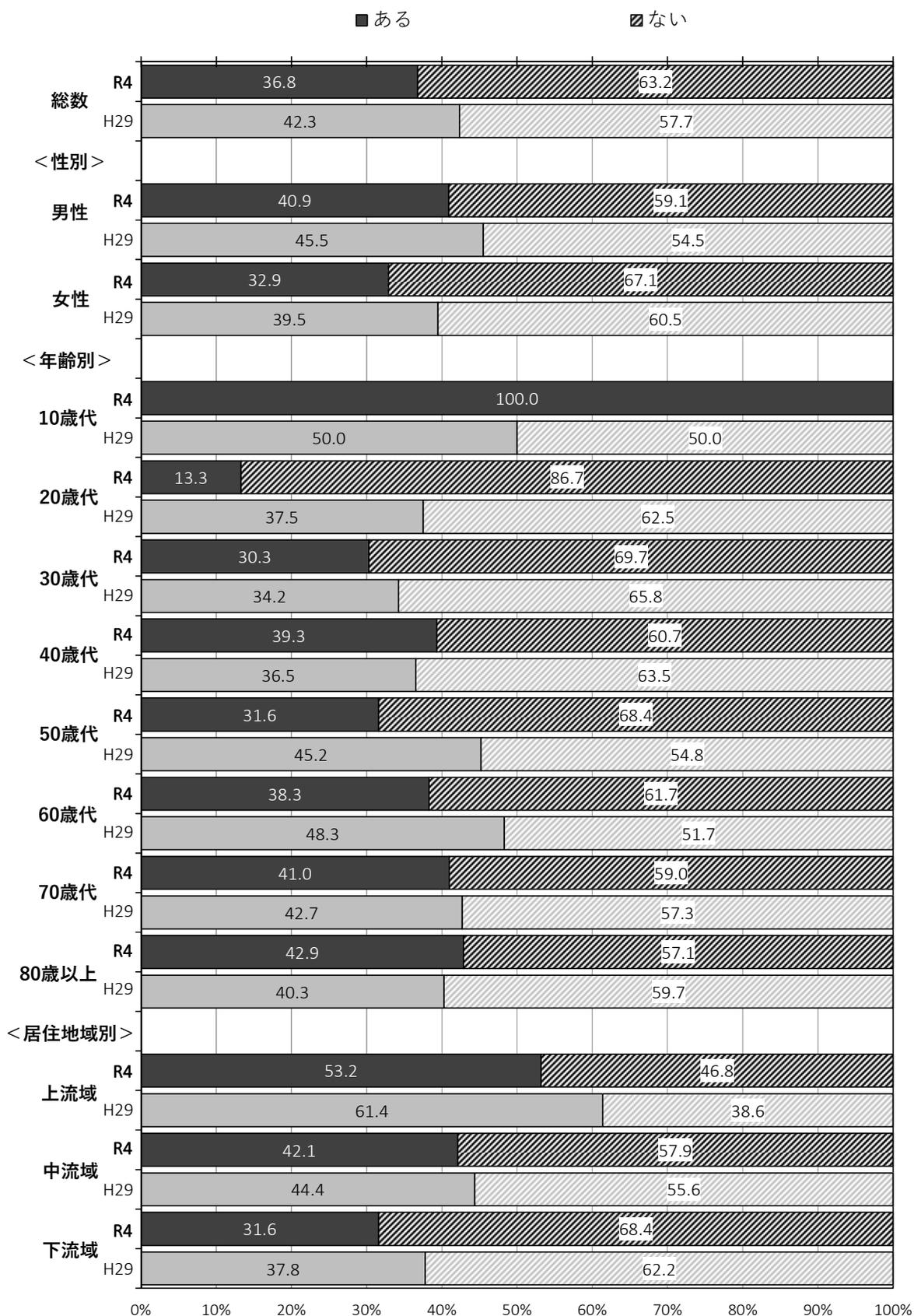
【年齢別】

・「ある」と答えた人の割合が最も高いのは10歳代で100.0%（前回：50.0%・50.0ポイント増加）、次いで80歳以上が42.9%（前回：40.3%・2.6ポイント増加）であった。一方で、「ある」と答えた人の割合が最も低いのは20歳代の13.3%（前回：37.5%）であり、前回調査から24.2ポイント減少した。

【居住地域別】

・前回調査と同様に上流域になるほど「ある」と答えた人の割合は高い傾向となり、上流域が53.2%（前回：61.4%・8.2ポイント減少）で最も高く、下流域が31.6%（前回：37.8%・6.2ポイント減少）で最も低く、全ての流域で前回調査より割合がやや減少した。

図表 環境に関する活動への参加の有無



(5) 環境に関する活動に参加しない理由

問 14 で「ない」と答えた方にお聞きます。

問 15 問 14 で「ない」と答えた理由をお選びください。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「時間がない」と答えた人の割合が 49.7% (前回：40.8%) と最も高く、前回調査から 8.9 ポイント増加し、次いで「活動自体を知らない」が 35.9% (前回：32.8%・3.1 ポイント減少)、「興味関心がない」が 20.0% (前回：23.7%・3.7 ポイント減少) であった。

【性別】

- ・男女ともに「時間がない」(男性：47.8%・女性：50.9%) と答えた人の割合が最も高く、次いで「活動自体を知らない」(男性：34.8%・女性：39.0%) で、いずれも女性の方が割合が高くなった。

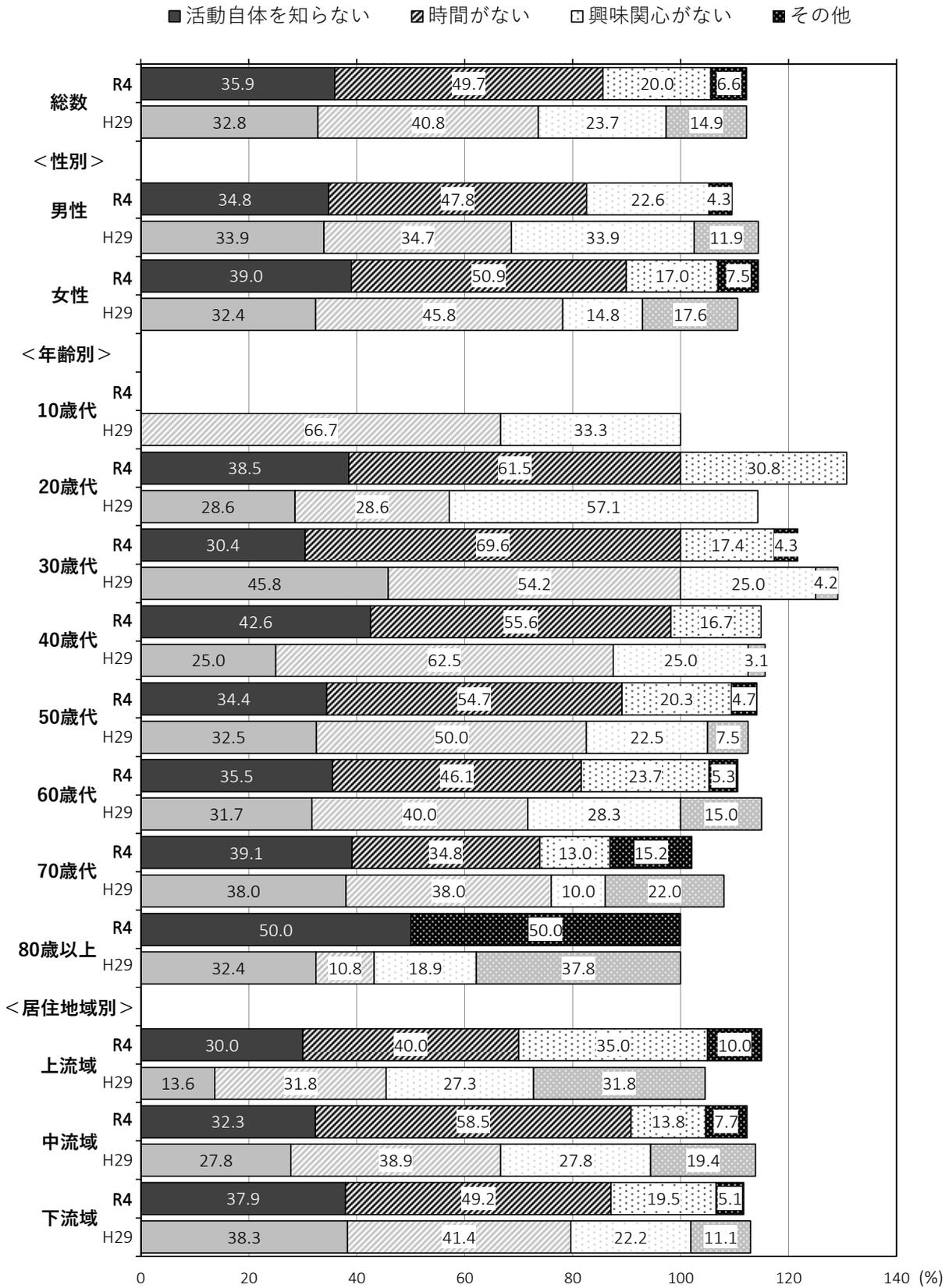
【年齢別】

- ・80 歳以上を除いた全ての年代で上位を占めた理由は「時間がない」と「活動自体を知らない」で、「時間がない」と答えた人の割合が最も高くなったのは 30 歳代で 69.6% (前回：54.2%・15.4 ポイント増加) で、「活動自体を知らない」と答えた人の割合が最も高くなったのは 80 歳以上で 50.0% (前回：32.4%・17.6 ポイント増加) であった。
- ・20 歳代では「興味関心がない」と答えた人の割合が 30.8% (前回：57.1%) で、前回調査より 26.3 ポイント減少したものの、その他の年代と比べて最も高くなった。

【居住地域別】

- ・全ての流域で「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、特に中流域では 58.5% (前回：38.9%) と前回調査から 19.6 ポイント増加し最も高くなった。
- ・上流域では「興味関心がない」と答えた人の割合が 35.0% (前回：27.3%・7.7 ポイント増加) とその他の流域と比べて 1 割以上高くなった。

図表 環境に関する活動に参加しない理由



（6）環境保全のための寄付へ協力したいと思うか

問 16 あなたは、四万十川やその流域の環境を保全するために、例えば寄付を募(つ)のるとすれば、協力してもよいと思いますか。(1つだけ○印)

【全体】

・「思う」と答えた人の割合は75.5%（前回：77.3%）で、前回調査から1.8ポイントとやや減少した。

【性別】

・「思う」と答えた人の割合は男性が73.2%（前回：71.7%・1.5ポイント増加）、女性が77.8%（前回：82.3%・4.5ポイント減少）で、前回調査と同様に女性の方が「思う」と答えた人の割合が高くなった。

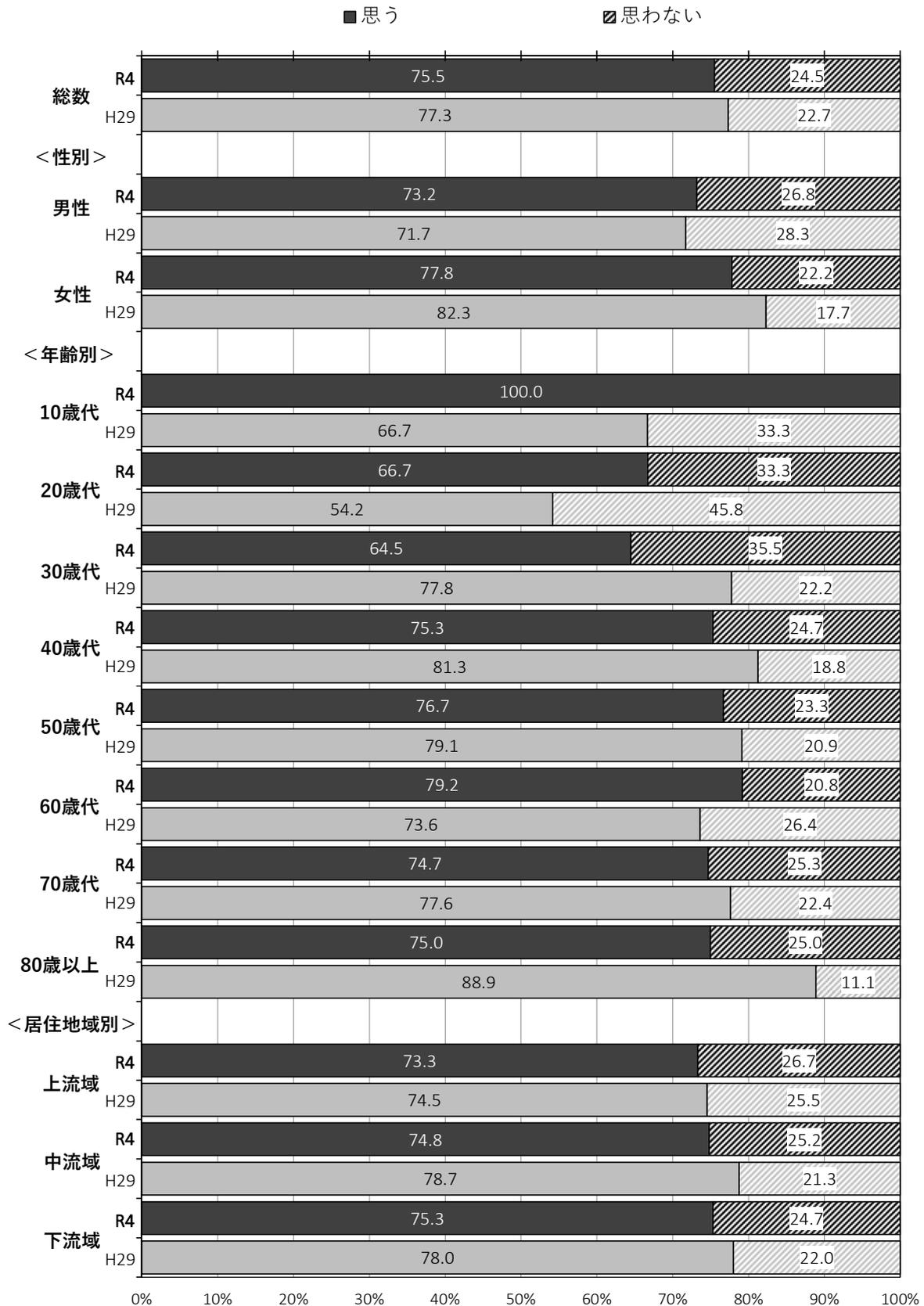
【年齢別】

- ・「思う」と答えた人の割合は10歳代が100.0%（前回：66.7%・33.3ポイント増加）で最も高く、次いで60歳代が79.2%（前回：73.6%・5.6ポイント増加）で、前回調査から増加した。
- ・30歳代～50歳代と70歳代以上では「思う」と答えた人の割合は前回調査より減少し、特に80歳以上では13.9ポイントと最も減少した。

【居住地域別】

・流域間で割合に大きな差はないものの、「思う」と答えた人の割合は下流域が75.3%で僅かに高くなったが、全ての流域で「思う」と答えた人の割合が前回調査よりやや減少した。

図表 環境保全のための寄付へ協力したいと思うか



(7) 環境保全のための寄付協力可能な上限額

問16で「思う」と答えた方にお聞きます。

問17 では、あなたが、1か月あたり協力してもよいと思う金額は、次のどれですか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・ 答えた人の割合が最も高くなったのは、「～500円くらいまで」28.0%で、次いで「～100円くらいまで」27.4%、「～1,000円くらいまで」21.9%であった。『～500円くらいまで』以上（「～500円くらいまで」+「～1,000円くらいまで」+「～2,000円くらいまで」+「それ以上でも協力する」）の金額を答えた人の割合は52.8%（前回：47.8%）で前回調査から5.0ポイント増加した。

【性別】

- ・ 男女ともに「～500円くらいまで」と答えた人の割合が最も高く、『～500円くらいまで』以上の金額を答えた人の割合は男女ともに5割を超えた。

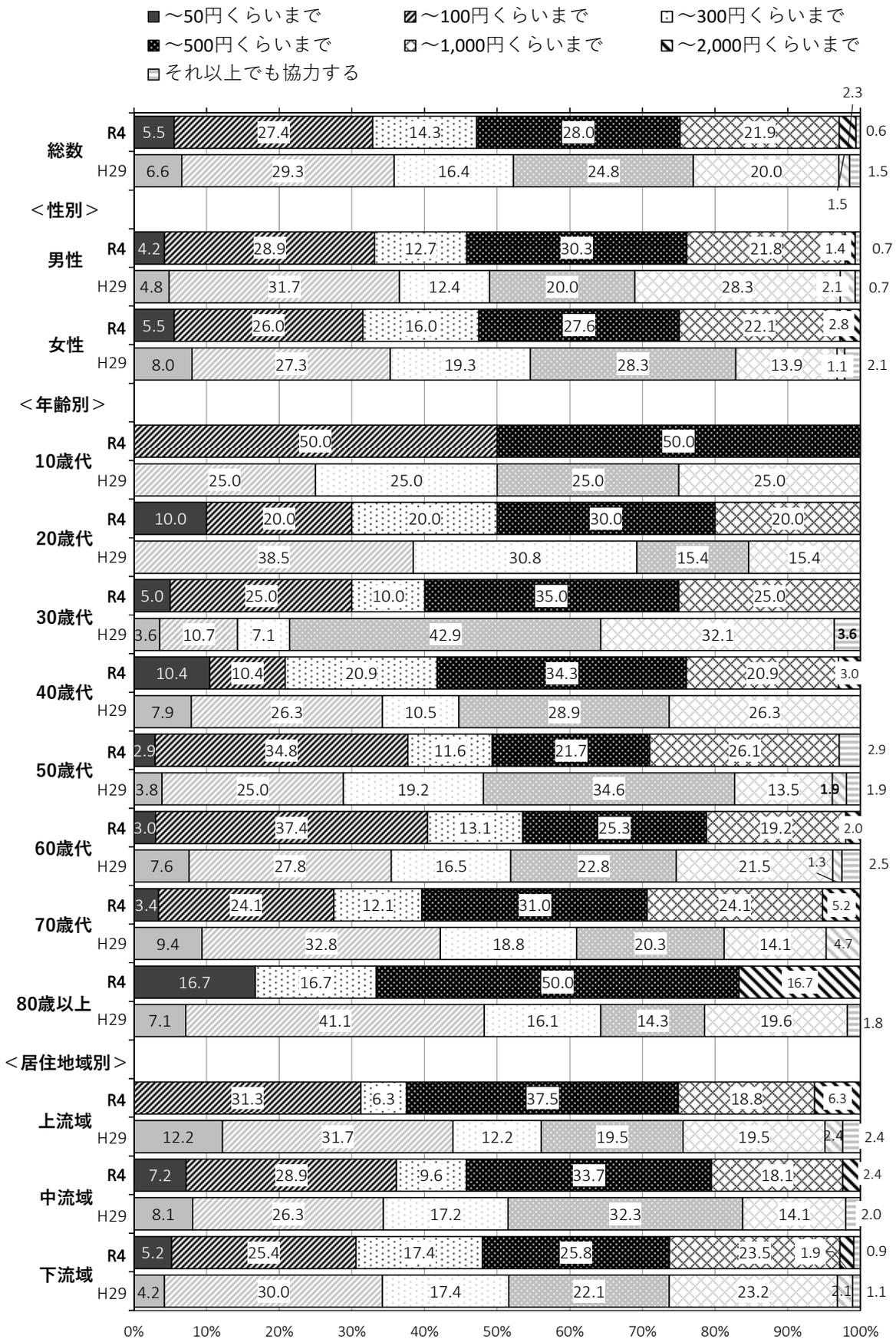
【年齢別】

- ・ 50歳代～60歳代を除いた全ての年代で「～500円くらいまで」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・ 50歳代～60歳代では「～100円くらいまで」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・ 『～500円くらいまで』以上の金額を答えた人の割合が最も高いのは、80歳以上の66.7%（前回：35.7%・31.0ポイント増加）で、次いで70歳代の60.3%（前回：39.1%・21.2ポイント増加）でいずれも前回調査から10ポイント以上増加した。

【居住地域別】

- ・ 『～500円くらいまで』以上の金額を答えた人の割合は、上流域が62.6%（前回：43.8%・18.8ポイント増加）でその他の流域より高くなった。

図表 環境保全のための寄付協力可能な上限額



(8) 再生可能エネルギー設備の設置★

問 18 あなたのご家庭では、環境に配慮した再生可能エネルギー設備を設置していますか。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

・「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合は 18.6%で、『設置率』(「太陽光発電を設置している」+「風力発電を設置している」+「バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備を設置している」)は 19.7%であった。

【性別】

・女性より男性の方が1割程度『設置率』が高くなった。

【年齢別】

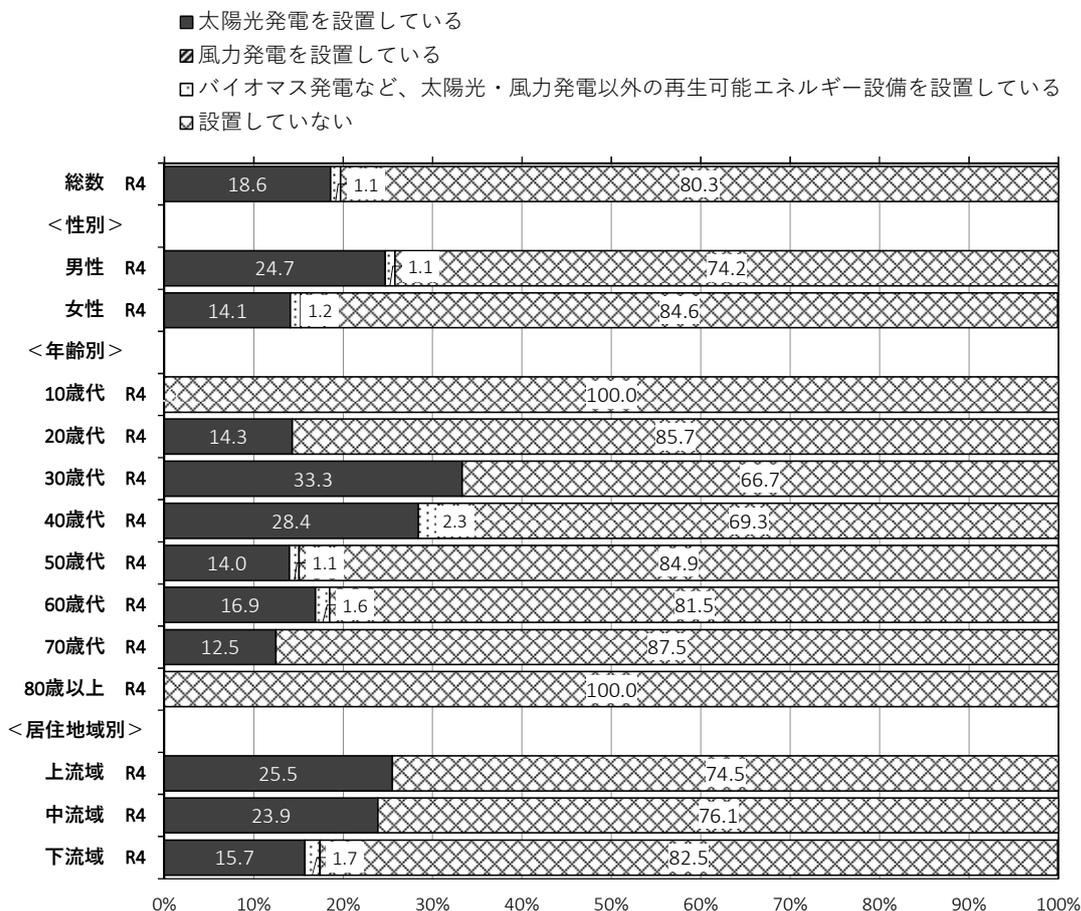
・『設置率』が最も高かったのは30歳代の33.3%で、次いで40歳代の30.7%となった。

【居住地域別】

・「太陽光発電施設を設置している」と答えた人の割合が最も高かったのは上流域の25.5%で、次いで中流域の23.9%であった。

・「バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備を設置している」と答えた人は下流域のみであった。

図表 再生可能エネルギー設備の設置



4. 通信手段について

(1) 携帯電話などの所有の有無

問 19 あなたは、携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・「持っている」と答えた人の割合は 96.2%（前回：83.6%）で、前回調査から 12.6 ポイント増加した。

【性別】

- ・性別間で大きな差はなかった。

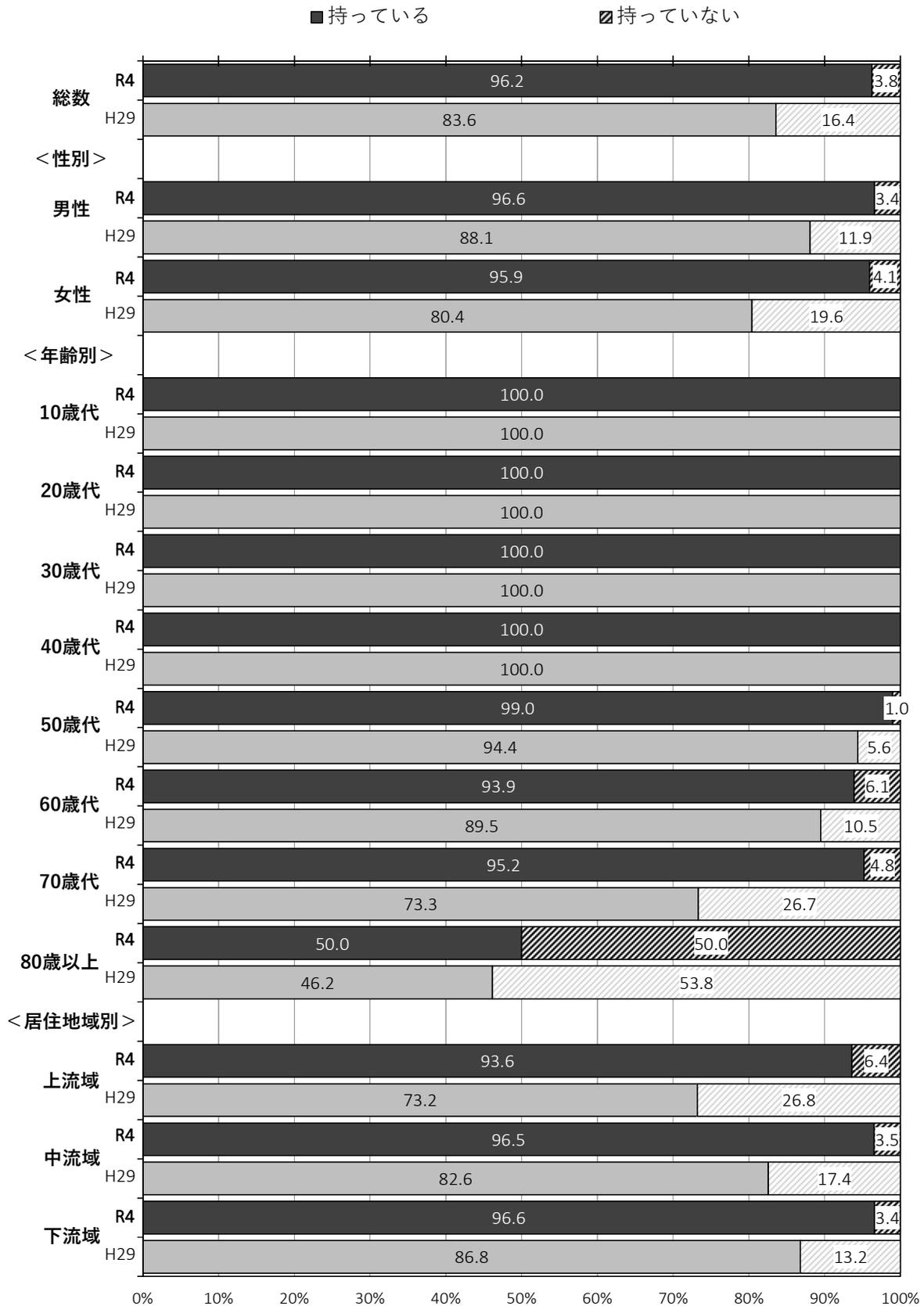
【年齢別】

- ・10 歳代～40 歳代では「持っている」と答えた人の割合が 100.0%であった。
- ・50 歳代～70 歳代では「持っている」と答えた人の割合が9割を超えた。

【居住地域別】

- ・流域間で割合に大きな差はないものの、下流域では「持っている」と答えた人の割合が 96.6%（前回：86.8%）と、前回調査から 9.8 ポイント増加し、最も高くなった。

図表 携帯電話などの所有の有無



(2) 携帯電話などでのネット利用状況

問19で「持っている」と答えた方にお聞きします。

問20では、あなたは、日頃、携帯電話やスマートフォンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）を利用していますか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「いつも利用している」と答えた人の割合が52.7%で半数以上を占めており、『利用率』（「いつも利用している」＋「まあ利用している」）も70.6%（前回：53.4%）と前回調査から17.2ポイント増加した。

【性別】

- ・性別間で割合に大きな差はないものの、男性は「いつも利用している」と答えた人の割合が54.9%（前回：35.6%）で前回調査から19.3ポイント増加した。

【年齢別】

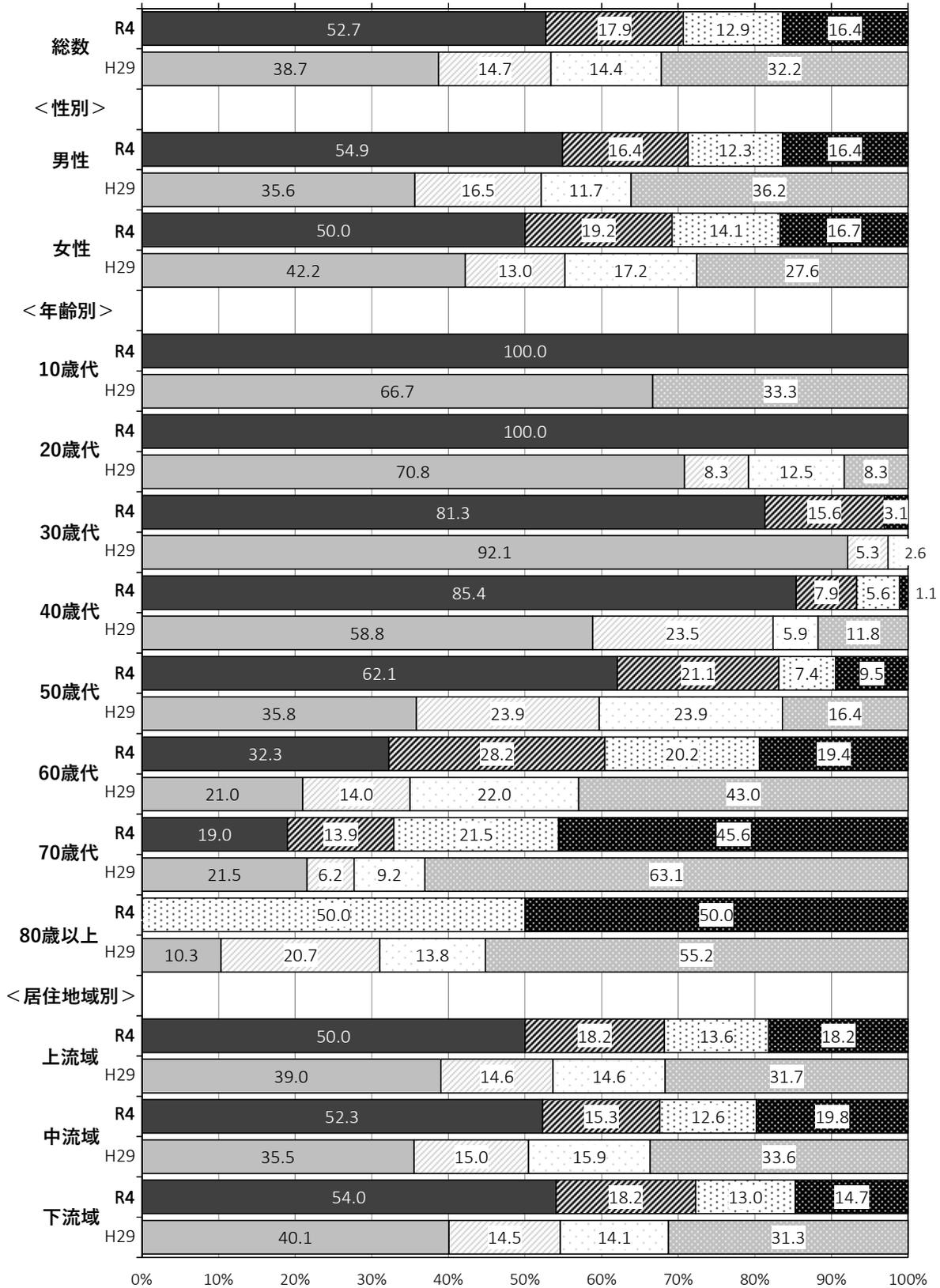
- ・10歳代～20歳代の『利用率』は100.0%で、30歳代、40歳代の『利用率』は9割を超えた。
- ・前回調査時の『利用率』を下回ったのは、30歳代の96.9%（前回：97.4%・0.5ポイント減少）、80歳代以上の0.0%（前回：31.0%・31.0ポイント減少）だった。

【居住地域別】

- ・下流域の『利用率』が72.2%（前回：54.6%）で最も高くなっており、前回調査から17.6ポイントと増加した。

図表 携帯電話などでのネット利用状況

■いつも利用している ▨まあ利用している □あまり利用していない ■全く利用していない



(3) 自宅でのネット利用の可否

問 21 あなたのお宅では、パソコンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）が利用できますか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「利用できる」と答えた人の割合は 61.4%（前回：44.0%）で、前回調査から 17.4 ポイント増加した。

【性別】

- ・男性が 66.2%（前回：46.0%・20.2 ポイント増加）、女性が 57.1%（前回：43.2%・13.9 ポイント増加）で、女性より男性の方が「利用できる」と答えた人の割合が高くなった。

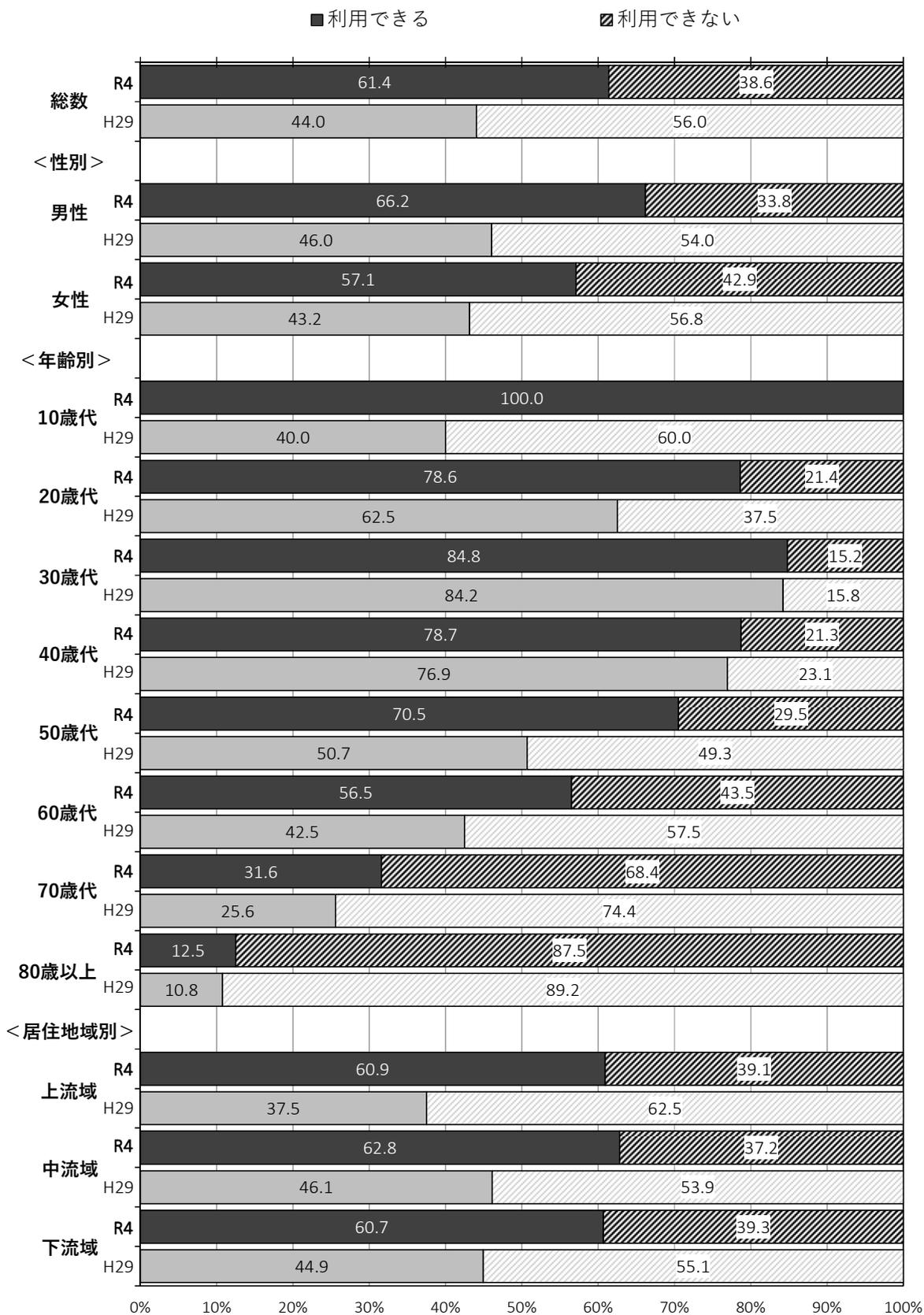
【年齢別】

- ・50 歳代以下では「利用できる」と答えた人の割合が 7 割を超えた。
- ・全年齢において、前回調査時を上回った。

【居住地域別】

- ・中流域では「利用できる」と答えた人の割合が 62.8%（前回：46.1%・16.7 ポイント増加）で最も高くなった。
- ・上流域では「利用できる」と答えた人が 60.9%（前回：37.5%・23.4 ポイント増加）で、最も増加率が高くなった。

図表 自宅でのネット利用の可否



5. 居住意思

(1) 現在の居住地域に住み続けたいと思うか

問 22 あなたは、今お住まいのこの地域にずっと住み続けたいと思いますか。(1つだけ○印)

【全体】

・「そう思っている」と答えた人の割合は 87.3%と、前回の 86.8%から 0.5 ポイント増加した。

【性別】

・性別間で割合に大きな差はない。

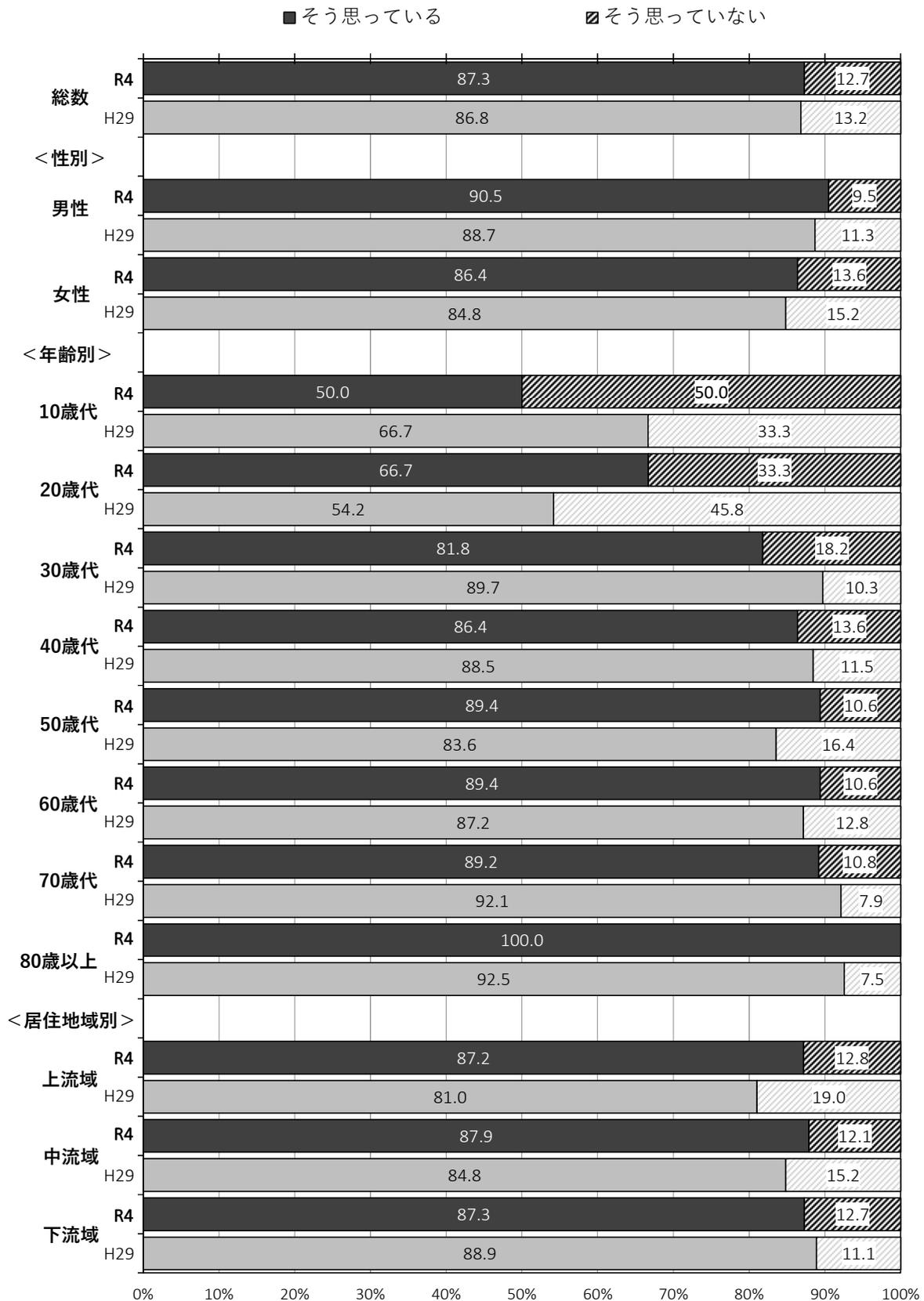
【年齢別】

・20 歳代では、「そう思っている」と答えた人の割合は 66.7% (前回：54.2%) と前回調査から 12.5 ポイント増加した。

【居住地域別】

- ・流域間で大きな差はないものの、中流域では「そう思っている」と答えた人の割合が 87.9% (84.8%・3.1 ポイント増加) と最も高くなった。
- ・下流域においては、「そう思っている」と答えた人の割合が 87.3% (前回：88.9%) と、前回調査から 1.6 ポイント減少した。

図表 現在の居住地に住み続けたいと思うか



6. 生活の満足度

(1) 現在の居住地への満足度

問 23 あなたは、今お住まいの地域を総合的にみて、どの程度満足していますか。(1つだけ○印)
また、その理由を下の枠内に記入してください。

【全体】

- ・「満足している」及び「まあ満足している」と答えた人の割合を合わせた『満足度』は67.9%で、前回調査の68.6%から0.7ポイント減少した。

【性別】

- ・性別間で割合に大きな差はない。

【年齢別】

- ・50歳代以下の年代では『満足度』が前回調査より減少している。
- ・『満足度』が最も低かったのは、20歳代の46.7%（前回：54.1%・7.4ポイント減少）だった。
- ・60歳代以上の年代では『満足度』が7割を超えた。

【居住地別】

- ・中流域の『満足度』は67.2%（前回：62.8%）で、前回調査より4.4ポイント増加した。
- ・「満足している」と答えた人の割合は全ての流域で減少した。

図表 現在の居住地域への満足度



(2) 生活の満足度

問 24 あなたは、今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。ア～ニのあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・「まわりに親しめる自然があること」と答えた人の『満足度』（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）は、79.2%（前回：74.3%）で、前回調査より4.9ポイントと最も増加した。
- ・「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること」と答えた人の『満足度』が33.3%（前回：29.0%）で前回調査より4.3ポイント増加した。
- ・「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」と答えた人の『満足度』が26.9%（前回：36.5%）で前回調査より9.6ポイントと最も減少した。
- ・「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」と答えた人の『満足度』が33.2%（前回：39.1%）で、前回調査より5.9ポイント減少した。
- ・『満足度』の高い項目の順位は、前回調査から大きな変化はなかった。
- ・『満足度』の低い項目の順位は、前回調査から大きな変化はないものの、自治体への要望や意見の反映、地位や収入等の項目に加えて公共交通機関の利便性について不満があることがうかがえた。

【性別】

- ・全22項目中12項目において男性のほうが女性より『満足度』が高く、特に男女間で差が大きい項目は以下のとおり。

「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」：9.0ポイント差

「高校で自分の目的に合った教育が受けられること」：7.5ポイント差

「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること」：4.9ポイント差

【年齢別】

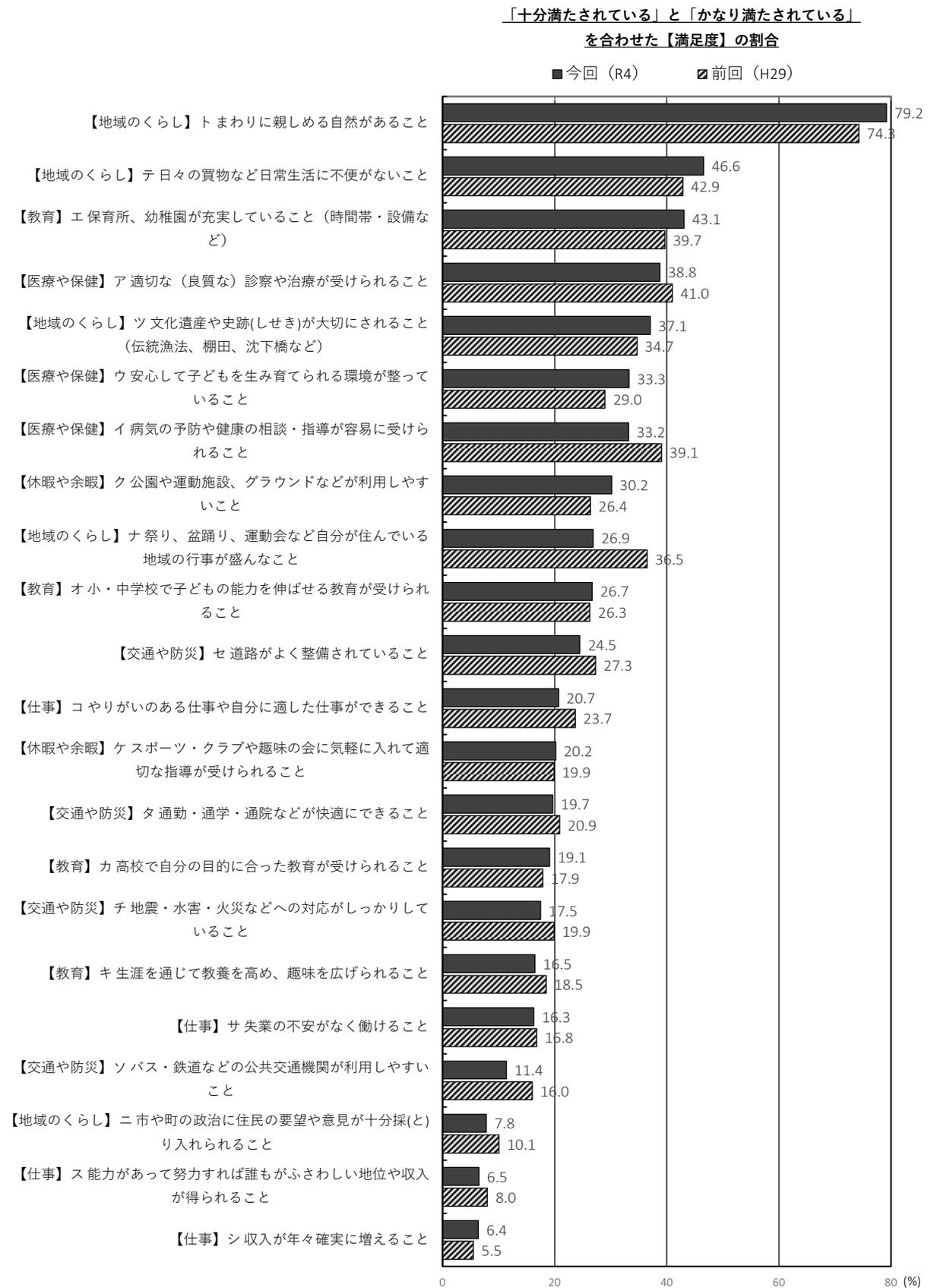
- ・全体をとおして80歳以上の『満足度』が高くなった。
- ・20歳代の『満足度』は最も低い傾向にあり、特に「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』は全体の平均から28.0ポイントも下回り、その他の年代と比べて『満足度』が低くなった。
- ・10歳代～20歳代においては、「失業の不安がなく働けること」「収入が年々確実に増えること」「能力があつて努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」の『満足度』が0.0%となっており、労働環境に関する不満があることがうかがえた。

【居住地域別】

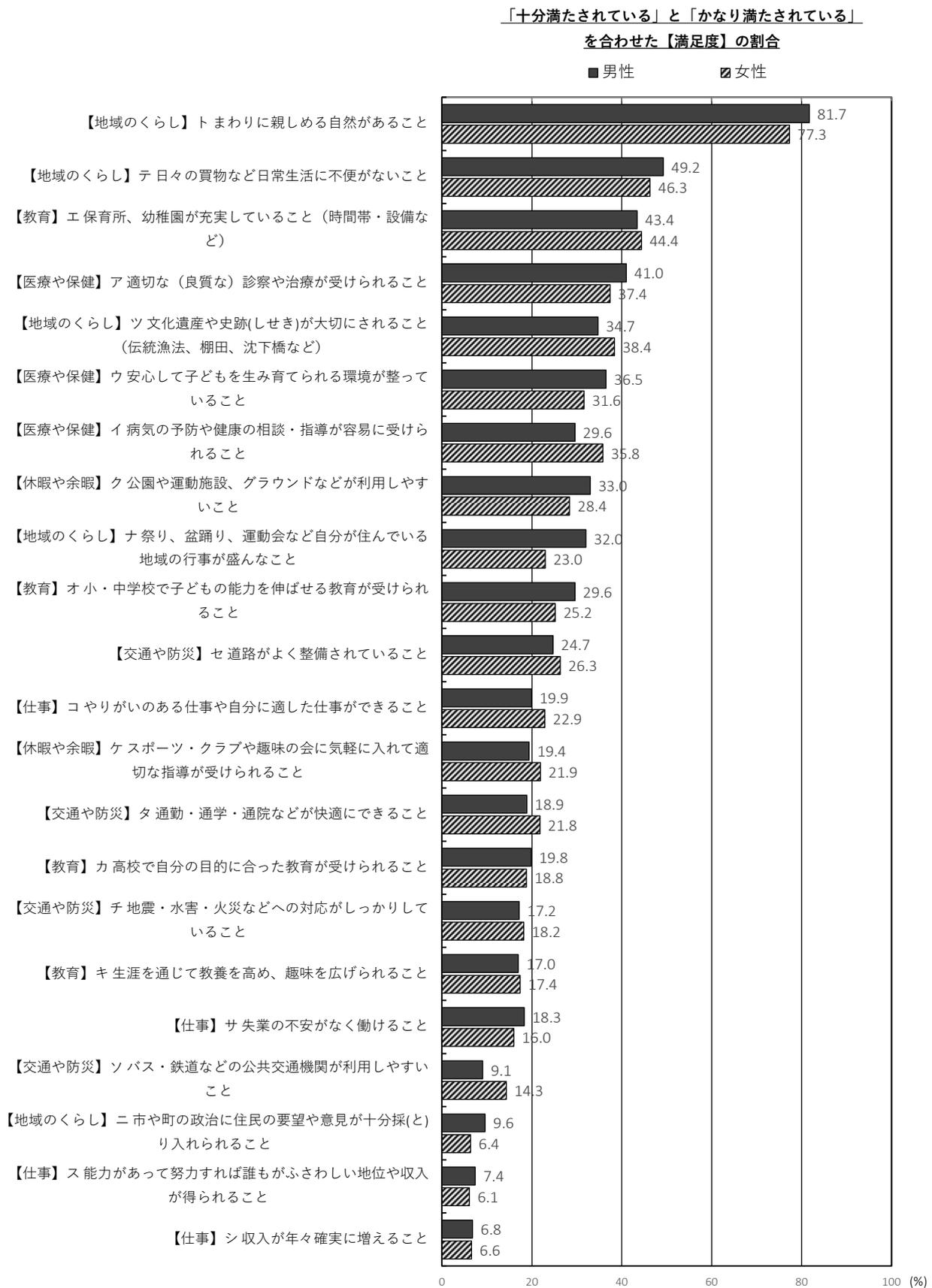
- ・中流域では「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること」「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が低く、医療や保健に関して不満な状況であることがうかがえた。

・「日々の買物など日常生活に不便がないこと」の項目では、上流域ではその他の流域より『満足度』が低い一方、下流域ではその他の流域より『満足度』が高くなった。

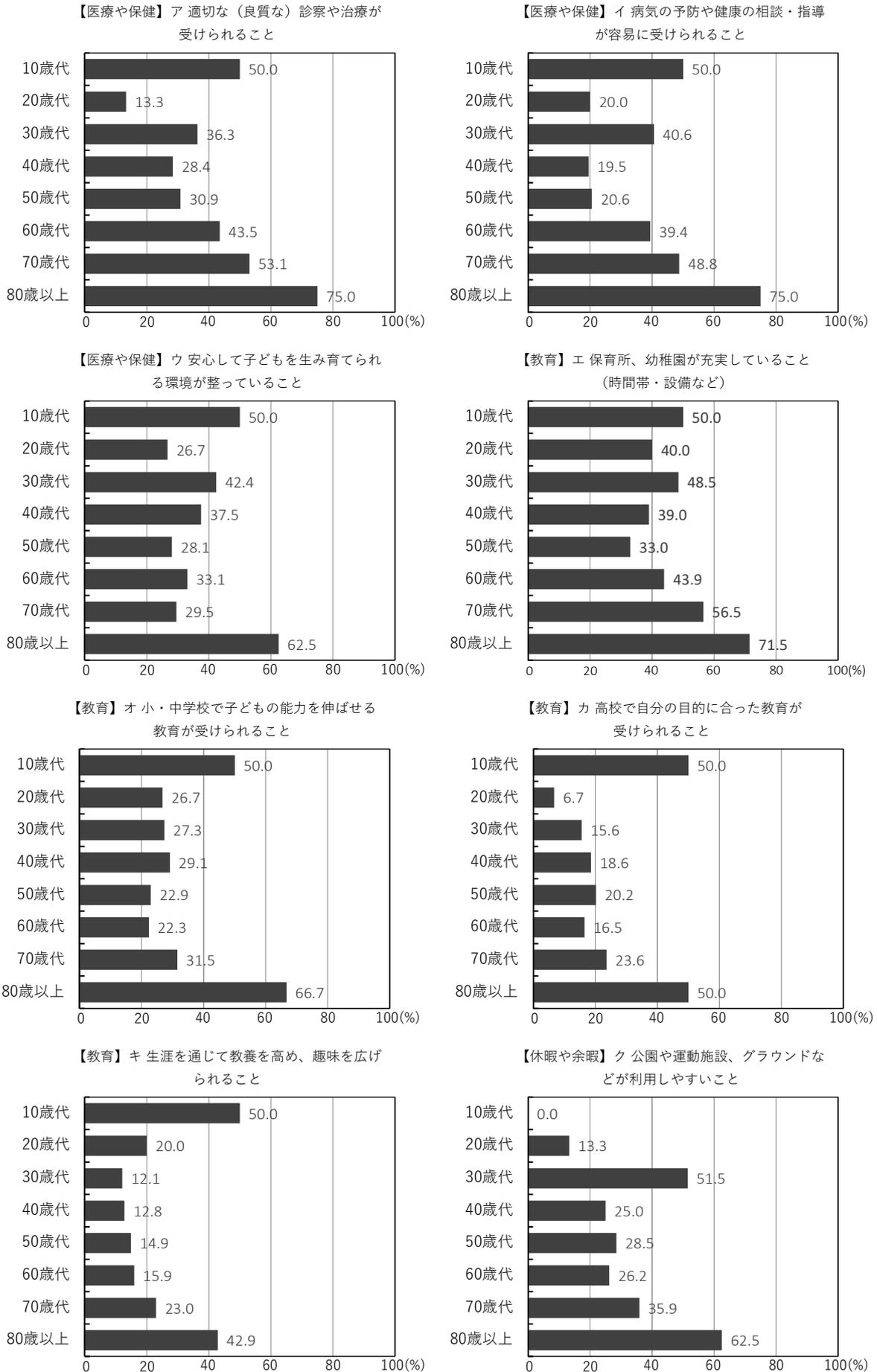
図表 生活の満足度 <全体>



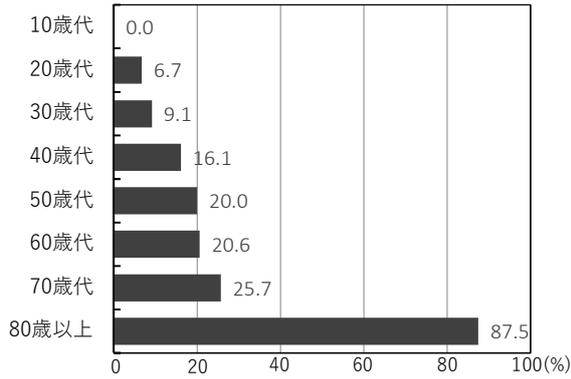
図表 生活の満足度 <性別>



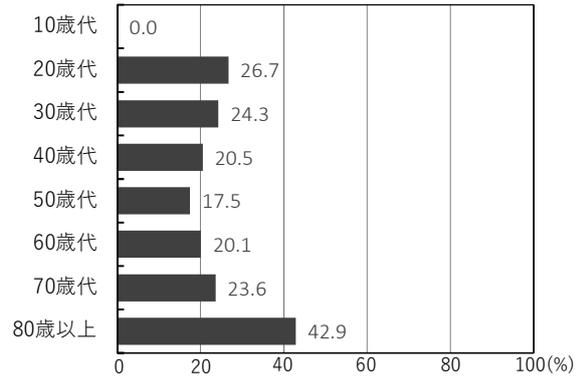
図表 生活の満足度 <年齢別>



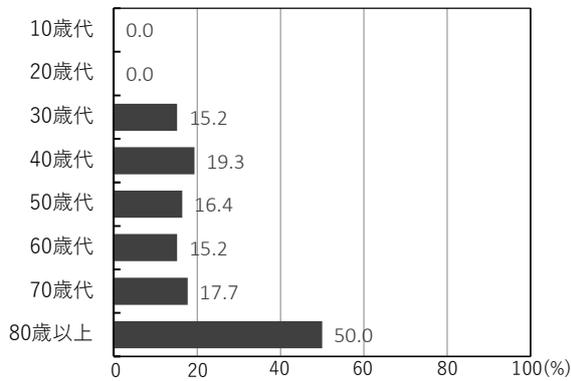
【休暇や余暇】 ケ スポーツ・クラブや趣味の会に
気軽にいられて適切な指導が受けられること



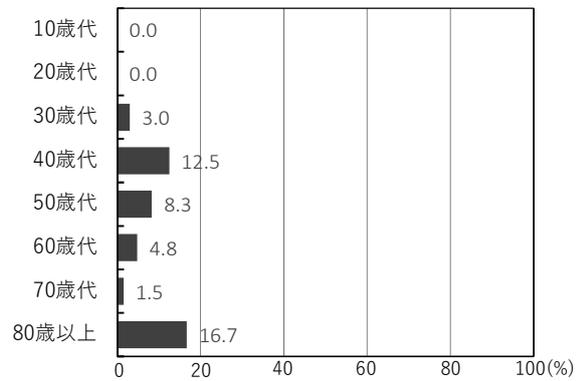
【仕事】 コ やりがいのある仕事や自分に通した
仕事ができること



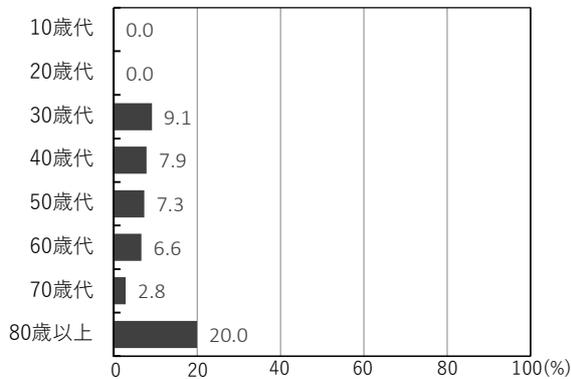
【仕事】 サ 失業の不安がなく働けること



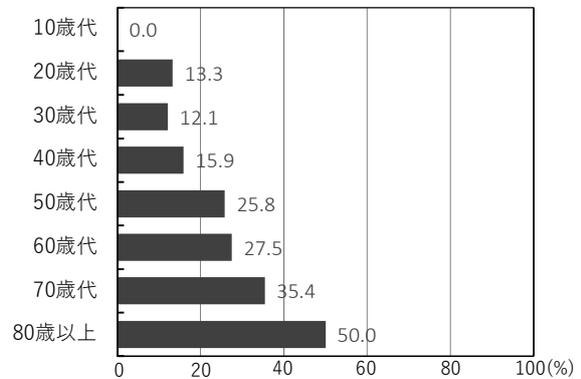
【仕事】 シ 収入が年々確実に増えること



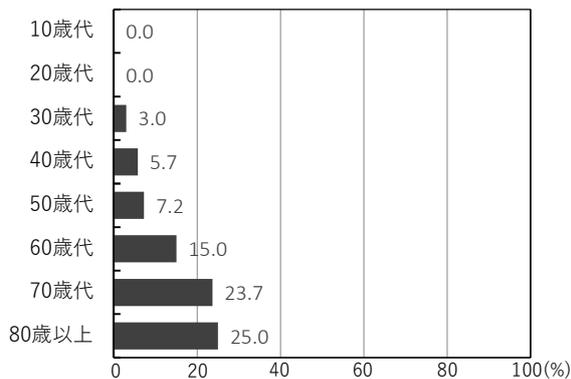
【仕事】 ス 能力があつて努力すれば誰もが
ふさわしい地位や収入が得られること



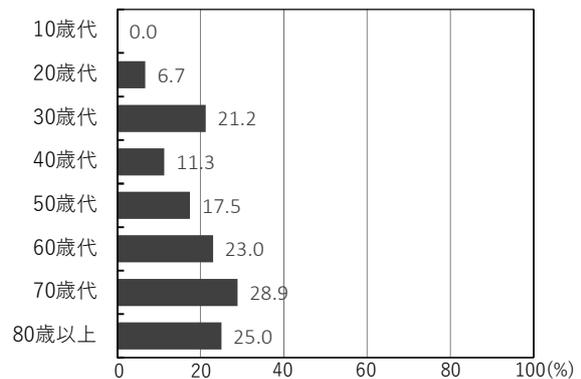
【交通や防災】 セ 道路がよく整備されていること



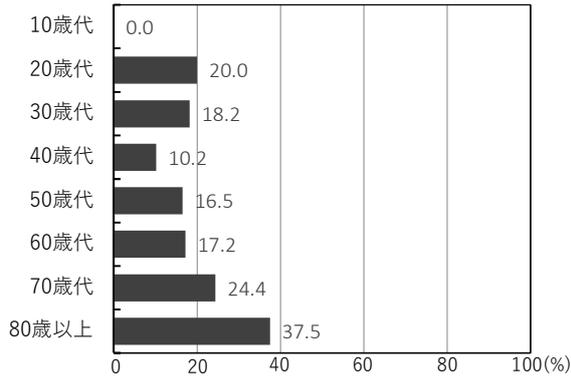
【交通や防災】 ソ バス・鉄道などの公共交通機関
が利用しやすいこと



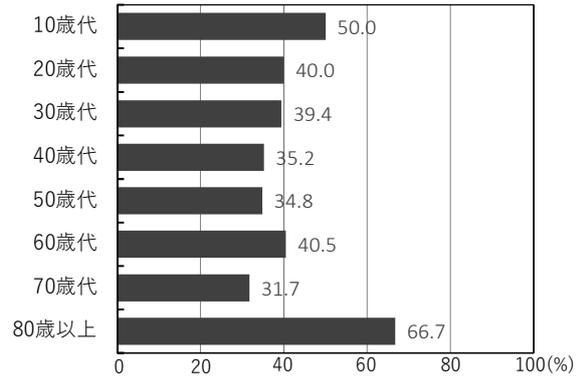
【交通や防災】 タ 通勤・通学・通院などが快適に
できること



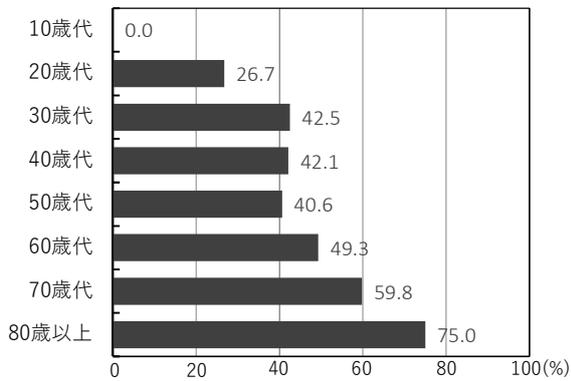
【交通や防災】チ 地震・水害・火災などへの対応がしっかりしていること



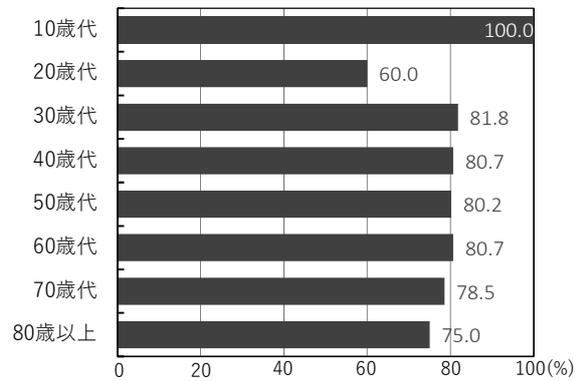
【地域のくらし】ツ 文化遺産や史跡(しせき)が大切にされること (伝統漁法、棚田、沈下橋など)



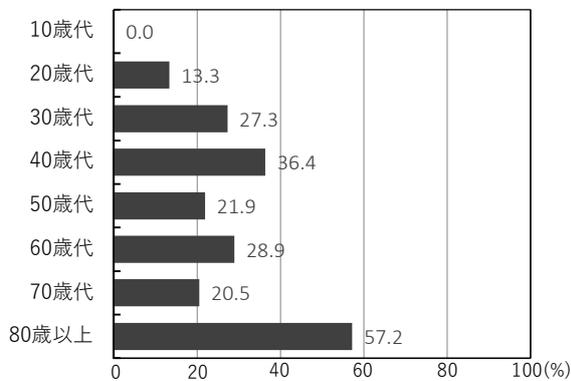
【地域のくらし】テ 日々の買物など日常生活に不便がないこと



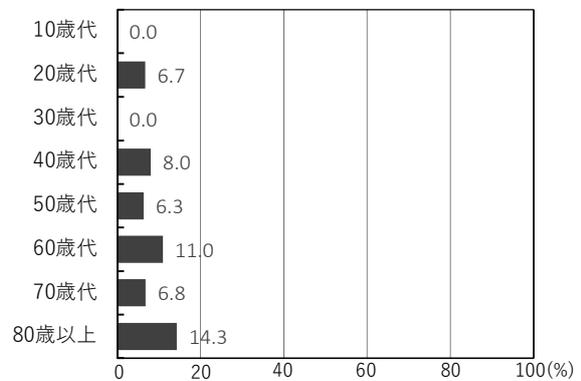
【地域のくらし】ト まわりに親しめる自然があること



【地域のくらし】ナ 祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと



【地域のくらし】ニ 市や町の政治に住民の要望や意見が十分採(と)り入れられること



図表 生活の満足度 <居住地域別>

